

# 京都市内遺跡試掘調査報告

令和7年度

2026年3月

京都市文化市民局





1 2区六条大路北築地関連遺構（南西から）



2 5区猪熊小路東築地基底部（北西から）

巻頭図版2 III - 2 常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡



1 7区拡張後全景（南東から）



2 7区拡張後溝1断面（南西から）

# 例 言

1 本書は、京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した令和7年度の京都市内遺跡試掘調査報告書である。令和7年1月から令和7年12月までの間に試掘調査や整理作業を実施したもののうち、重要な成果のあったものについて本文で報告している。ただし、試掘調査の結果、発掘調査を指導したものについては、発掘調査報告書の刊行を待つこととし、原則一覧表にのみ掲載している。

試掘調査を実施したすべての地区・所在地・調査日・調査概要については、試掘調査一覧表に掲載している（60～69頁）。なお、各章表題末尾の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応している。遺跡名は、平安宮跡、平安京跡、長岡京跡については、官衙・条坊を優先して記載した。

2 本文の執筆分担は、本文の末尾に記している。

3 本書報告の調査のうち、基準点測量を実施した調査の方位及び座標は、世界測地系平面直角座標系VIによる。標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。また、これ以外の場合は、既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4 本書に使用した地図は、本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺 1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版 1～13 1/8,000 図版 14～20 1/10,000

5 本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は、一部を除き、平尾政幸「土師器再考」『洛史』

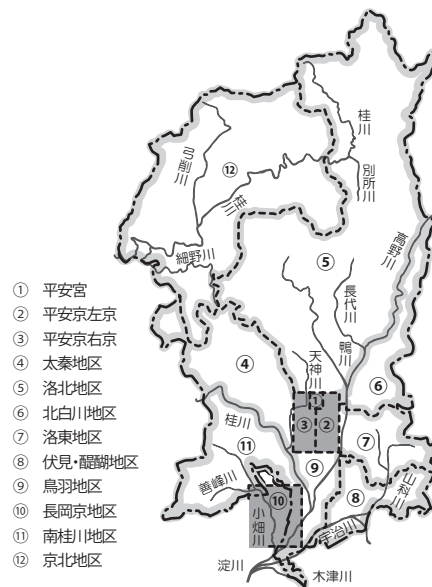
	(西暦) 750	840	930	1020	1110	1170	1260	1350	1410	1500	1590	1680	1740	1800	1860
期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
段階	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C

研究紀要第12号（公財）京都市埋蔵文化財研究所 2019年 に準拠する。

6 本書に使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

7 調査及び整理にあたっては、飯沼俊哉・一條顯恆・上茶谷美保・上別府亜紀・佐藤まお・早川仁志・林友紀・松本和子・吉本健吾の協力を得た。

8 調査及び本書作成は、京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課が担当し、（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。



調査地区割図

# 本文目次

I 試掘調査の概要	1
II 平安京左京	
1 北辺三坊三町跡、内膳町遺跡 No.36 (25H245)	3
2 六条二坊五町跡・七条二坊八町跡、本國寺城跡 No.8 (24H452)	7
3 八条二坊一町跡、東市跡 No.50 (25H027)	24
III その他 市内遺跡	
1 大覚寺古墳群 令和6年度No.81 (24S307)	28
2 常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡 No.70 (25S180)	33
3 広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡 令和6年度No.89 (24S187)	36
4 建仁寺旧境内 令和6年度No.103 (24S095)	49
5 芹川城跡 No.23 (24S362)	52
IV 試掘調査一覧表	60

報告書抄録

# 挿図目次

I 試掘調査の概要	
図1 年次別・地区別試掘調査実施件数	1
II - 1 平安京左京北辺三坊三町跡、内膳町遺跡	
図2 調査位置図 (1:5,000)	3
図3 調査区配置図 (1:500)	3
図4 2・3区平・断面図 (1:100)	4
図5 3区南壁断面写真 (北東から)	5
図6 出土遺物 (1:4)	5
II - 2 平安京左京六条二坊五町跡・七条二坊八町跡、本國寺城跡	
図7 調査位置図 (1:5,000)	7
図8 調査前全景 (北から)	7
図9 調査区配置及び周辺調査位置図 (1:1,500)	8
図10 1・2区平・断面図 (1:100)	10
図11 3区平・断面図 (1:100)	11

図 12	4・5区平・断面図（1：100）	12
図 13	6・7区断面図（1：100）	13
図 14	出土遺物（1：4）	16
図 15	出土瓦 1（1：4）	17
図 16	出土瓦 2（1：4）	18
図 17	出土瓦 3（1：4）	19
図 18	出土石製品（1：6）	22
II - 3 平安京左京八条二坊一町跡、東市跡		
図 19	調査位置図（1：5,000）	24
図 20	調査区配置図（1：500）	24
図 21	1・2区平・断面図（1：100）	25
図 22	出土遺物（1：4）	26
図 23	周辺調査との関係（1：800）	27
III - 1 大覚寺古墳群		
図 24	調査位置図（1：5,000）	28
図 25	調査区配置図（1：800）	28
図 26	1～6区断面図（1：100）	30
図 27	1区溝 1・2 検出状況（北西から）	31
図 28	出土遺物（1：4）	31
図 29	溝 1・2 想定図（1：500）	32
III - 2 常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡		
図 30	調査位置図（1：5,000）	33
図 31	1区断面図（1：1,000）	33
図 32	5区断面図（1：80）	33
図 33	12区平・断面図（1：80）	34
図 34	7区平・断面図（1：80）	34
図 35	調査区配置及び溝 1 推定図（1：600）	35
III - 3 広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡		
図 36	調査位置図（1：5,000）	36
図 37	調査区配置図（1：1,000）	37
図 38	4・6～9区平・断面図（1：100）	39
図 39	10・11区平・断面図（1：100）	40
図 40	詳細分布調査地点平・断面図（1：100）	43
図 41	詳細分布調査地点断面図 1（1：100）	45
図 42	詳細分布調査地点断面図 2（1：100）	46

図 43 出土遺物 (1 : 4) .....	46
図 44 7区及びNo.5地点検出溝の位置関係図 (1 : 100) .....	47
図 45 調査1及びNo.33地点検出溝の位置関係図 (1 : 500) .....	47
III - 4 建仁寺旧境内	
図 46 調査位置図 (1 : 5,000) .....	49
図 47 小鐘楼基壇平・立面図 (1 : 50) .....	50
図 48 各地点断面図 (1 : 20) .....	51
III - 5 芹川城跡	
図 49 調査位置図 (1 : 5,000) .....	52
図 50 2区全景 (北東から) .....	52
図 51 調査区配置図 (1 : 500) .....	53
図 52 1・2区平・断面図 (1 : 50) .....	53
図 53 出土遺物 (1 : 4) .....	54
図 54 弥生時代前期～後期の遺構検出地点 (1 : 10,000) .....	57
図 55 古墳時代の遺構検出地点 (1 : 10,000) .....	57
図 56 平安時代の河川と湿地確認地点 (1 : 10,000) .....	57
図 57 平安時代～室町時代の遺構検出地点 (1 : 10,000) .....	57

## 表 目 次

I 試掘調査の概要	
表 1 出土遺物概要表 .....	2
II - 2 平安京左京六条二坊五町跡・七条二坊八町跡、本國寺城跡	
表 2 出土瓦観察表 .....	20・21
III - 3 広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡	
表 3 詳細分布調査地点一覧表 .....	42
III - 5 芹川城跡	
表 4 下鳥羽遺跡・芹川城跡調査一覧 .....	55・56

# 図 版 目 次

- 巻頭図版 1    II - 2    平安京左京六条二坊五町跡・七条二坊八町跡、本國寺城跡  
1    2区六条大路北築地関連遺構（南西から）  
2    5区猪熊小路東築地基底部（北西から）
- 巻頭図版 2    III - 2    常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡  
1    7区拡張後全景（南東から）  
2    7区拡張後溝1断面（南西から）
- 図版 1    平安宮
- 図版 2    平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版 3    平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版 4    平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版 5    平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版 6    平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版 7    平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版 8    平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版 9    平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版 10    平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版 11    平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版 12    平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版 13    平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版 14    嵯峨遺跡、嵯峨折戸町遺跡、史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡
- 図版 15    仁和寺院家跡、円宗寺跡、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、上ノ段町遺跡  
本山遺跡、河上瓦窯跡、史跡賀茂御祖神社境内（下鴨神社）、植物園北遺跡
- 図版 16    上京遺跡、御土居跡、寺町旧域、白河街区跡、白河南殿跡、法勝寺跡、岡崎遺跡  
芝町遺跡、法住寺殿跡、山科本願寺南殿跡、山科本願寺（寺内町遺跡）
- 図版 17    伏見城跡、指月城跡、向島城跡
- 図版 18    上鳥羽城跡、鳥羽離宮跡、芹川城跡
- 図版 19    長岡京跡、久我殿遺跡、曆田遺跡
- 図版 20    法性寺跡、史跡随心院境内、長岡京跡、旧淀城跡、鏡山古墳、上里北ノ町遺跡、灰方  
古墳群、中久世遺跡

# I 試掘調査の概要

## 1. 京都市内の埋蔵文化財行政と試掘調査

京都市で所管する周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は、令和8年1月現在で843件を数える。その種類は、平安京跡、長岡京跡に代表される都城跡をはじめ、宮殿跡、離宮跡、邸宅跡、寺院跡、城跡、集落跡、古墳、窯跡、散布地と多岐にわたる。またその存続期間は旧石器時代から近現代まで幅広く、遺構面は重層的に存在する。このため集落と都城跡、古墳群と城跡など、異なる性格を備えた遺構が並列・重複して検出されることも珍しくなく、これらが遺跡の理解をより難しいものとしている。

京都市では、埋蔵文化財包蔵地を保護する上で注意を要する程度に応じて「重要遺跡・小規模遺跡」「特別一般遺跡」「一般遺跡」「一般遺跡に準ずる遺跡」の4種に分類し、要項によりそれぞれの扱いを定めている（『周知の埋蔵文化財包蔵地内における取扱い要綱（京都市域内）』令和5年1月4日改訂）。包蔵地内で土木工事や開発行為が計画された場合、京都市文化財保護課（以下、当課という）は遺跡の特性と工事規模に応じて「発掘調査」「試掘調査」「詳細分布調査（立会調査）」「慎重工事」の4種の行政指導を行う。このうち試掘調査は、遺跡の有無や遺構の残存状況、その範囲等を把握し、更なる措置が必要であるかを判断する作業である。令和7年度現在、当課では計14名の文化財保護技師が行政指導に従事している。

試掘調査の結果、遺跡の残存状態が良好であり、かつ工事による遺構の損傷を免れないと判断された場合は、設計変更による遺跡の保護もしくは対象範囲の発掘調査が指導される。令和7年は前年に比べて届出総数は増加し、これに即して試掘調査指導件数も増加した。

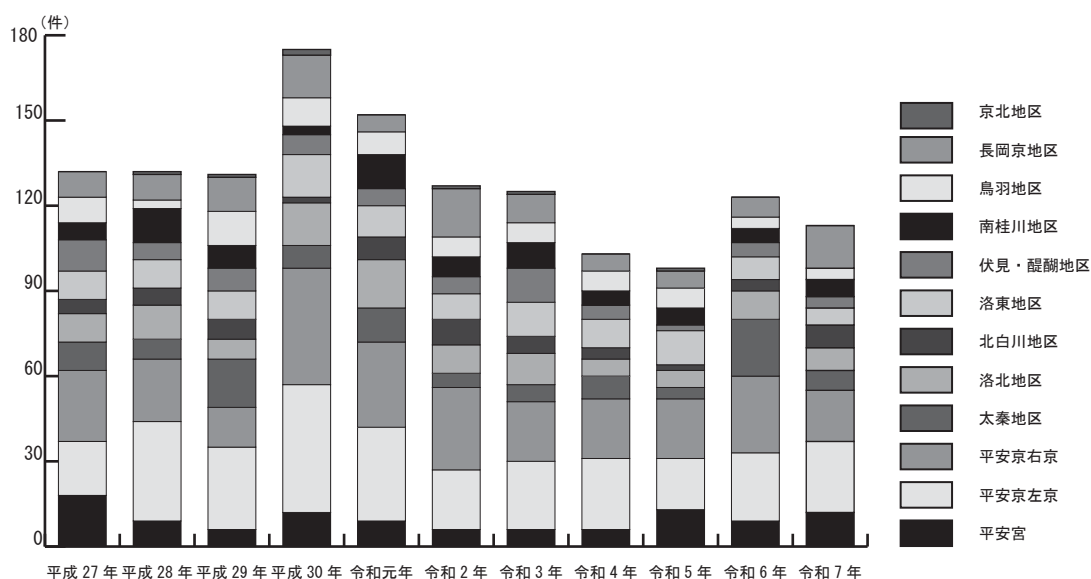


図1 年次別・地区別試掘調査実施件数

## 2. 令和7年の試掘調査概要

令和7年1月～12月に文化財保護法第93条に基づいて提出された届出と、同第94条に基づく通知の件数は、あわせて1,380件をかぞえる。この件数は、前年より142件の増加(11.5%増)となる。その中で届出・通知に対する保護課の指導内容は、発掘調査15件(前年11件、4件増)、試掘調査130件(同118件、12件増)、詳細分布調査572件(同529件、43件増)、慎重工事665件(同580件、85件増)である。いずれも昨年度に比較して増加傾向にある。

この報告の対象となる試掘調査実施件数は、113件である。令和6年が124件であったのに対し、件数自体は減少しているものの、年間の調査日数は今年度の方が多い。これは大規模開発工事が増加し、1件あたりにかかる平均的な調査期間が増加したことに起因する。

地区ごとの内訳では、平安宮域12件(前年9件、3件増)、平安京左京域25件(同24件、1件増)、平安京右京域18件(同28件、10件減)、太秦地区7件(同20件、13件減)、洛北地区8件(同10件、2件減)、北白川地区8件(同4件、4件増)、洛東地区6件(同8件、2件減)、伏見・醍醐地区4件(同5件、1件減)、鳥羽地区6件(同4件、2件増)、長岡京地区15件(同7件、8件増)、南桂川地区4件(同5件、1件減)、京北地区0件(同0件、増減なし)である。地区別にみると、宮・左京域、洛北地区、洛東地区、伏見・醍醐地区、鳥羽地区、南桂川地区では若干の増減が見られるが概ね前年と比べて大きな変動はない。それに対して右京域と太秦地区では前年比で50%以上の減少となる一方、北白川地区及び長岡京地区では前年比50%以上の増加となっており、市内でも地域毎の増減の差が顕著に表れている。特に長岡京地区の試掘調査は、宅地もしくは工場建築に伴う大規模造成工事に起因するものが大多数を占める。これは令和5年の農地法改正による農地取得の規制緩和が大きく関わっており、当地域では調査・保護の面で大きな転換期を迎えている。

試掘調査を実施した113件のうち30件に対して発掘調査の実施を指示した(「IV調査一覧」60～69頁参照。Noも一覧に対応)。発掘調査を実施したのは、当課3件(No.57・75・111)、(公財)京都市埋蔵文化財研究所1件(No.48)、古代文化調査会3件(No.67・79・89)、(株)文化財サービス2件(No.7・92)、(株)アルケス3件(No.6・41・42)、(株)島田組1件(No.56)、安西工業(株)1件(No.64)、NPO法人平安京調査会3件(No.26・51・101)、国際文化財(株)1件(No.4)、の計18件である。また、設計変更等により遺跡の地中保存が図られたことから、発掘調査に至らなかった例が4件(No.15・23・36・94)ある。(熊井 亮介)

表1 出土遺物概要表

	Aランク点数 (箱数)	内訳	Bランク点数 (箱数)	Cランク点数 (箱数)	出土箱数 合計
点数 及び 箱数	98点(5箱)	土師器56点、須恵器4点、山茶碗1点、瓦器1点、灰釉陶器2点、焼締陶器1点、施釉陶器5点、白磁1点、青磁1点、軒丸瓦10点、軒平瓦12点、棧瓦1点、鬼瓦1点、石製品1点	2箱	12箱	19箱

## Ⅱ - 1 平安京左京北辺三坊三町跡、内膳町遺跡

No.36 (25H245)

### 1. はじめに (図2)

本件は、共同住宅建設に伴う試掘調査である。令和7年9月24日に調査を実施し、計画建物範囲内に4箇所の調査区を設けた。調査面積は合計37㎡である。

調査地は、上京区室町通中立売下る花立町502に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地の「平安京跡」及び「内膳町遺跡」に該当し、条坊復元では左京北辺三坊三町跡に該当する。同三町内において、調査1<sup>1)</sup>では、平安時代の溝・井戸、鎌倉時代～

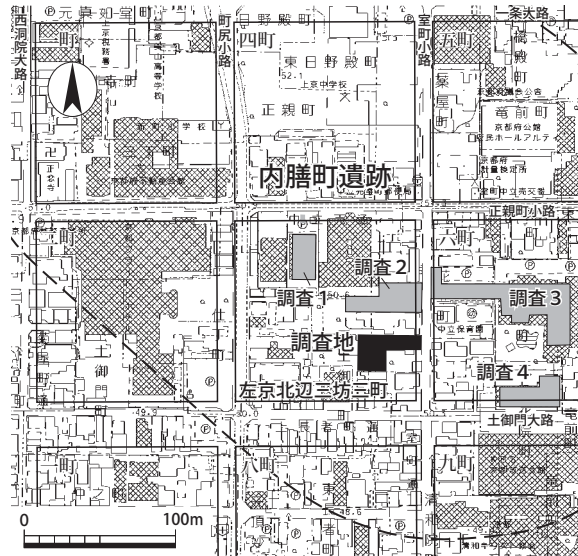


図2 調査位置図 (1 : 5,000)

室町時代の溝・土坑、安土桃山時代～江戸時代の土坑などを確認している。平安時代の正親町小路南側溝は平安時代中期までに埋まったと想定され、四行八門制に沿うT字の区画溝は平安時代末期に埋没したとされている。鎌倉時代には正親町小路南側溝が平安時代の溝より約2m北側に掘りなおされ、道幅が狭くなったと考えられている。調査2<sup>2)</sup>では、近世以降の影響が著しいものの、GL-1.5～-2.0mで平安時代～中世の遺構面を確認した。また、東側の六町でも調査が行われている。六町は、内膳司の厨町である内膳町が所在し、廃絶後の平安時代中期には受領階級の屋敷地であった。調査3<sup>3)</sup>の発掘調査では、平安時代の溝・掘立柱建物、鎌倉時代～室町時代の溝・土坑などが確認された。特に、室町通沿いで検出した平安時代の南北溝は11世紀頃に埋没した室町小路東側溝と推定されている。調査4<sup>4)</sup>の発掘調査では、平安時代中期～後期の池、平安時代～中世の土御門大路路面や北側溝、鎌倉

時代の土坑、室町時代の土坑、安土桃山時代～江戸時代前期の土坑などが確認された。池は10世紀頃に造られ、鎌倉時代前期には埋まったと考えられている。今回の調査地においても、周辺調査と同様の遺構が存在する可能性を想定して調査を実施した。

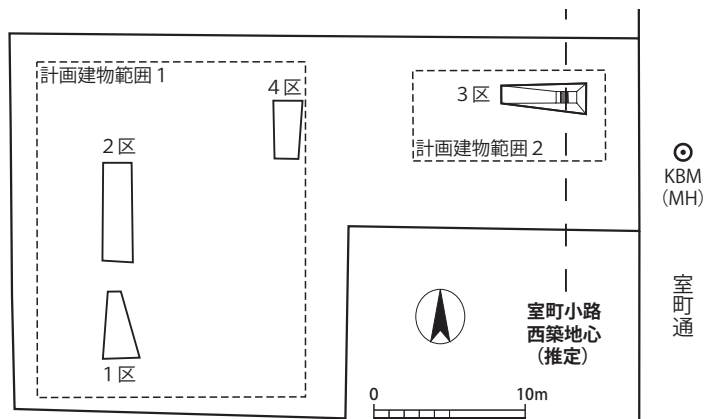


図3 調査区配置図 (1 : 500)

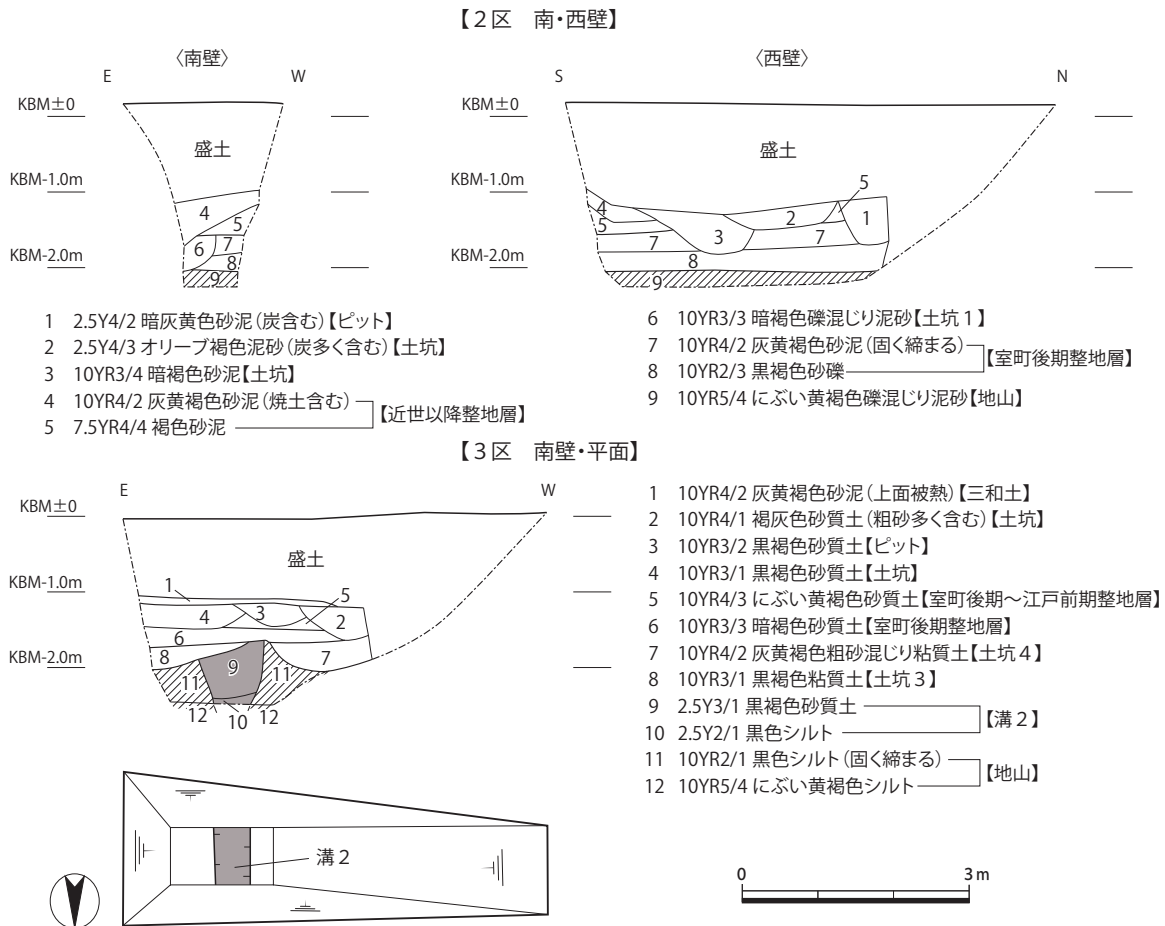


図4 2・3区平・断面図(1:100)

## 2. 遺構(図3～5)

残存状況及び室町小路の関連遺構の確認を目的として、計画建物範囲1に3箇所(1・2・4区)、計画建物範囲2に1箇所(3区)の調査区を設けた。その結果、1区ではGL-3.0m、4区では-2.1mまで掘削したが攪乱の影響で顕著な遺構・遺物は確認できなかった。2区では室町時代後期の土坑、3区では室町時代後期～江戸時代前期までの整地層、平安時代中期～後期の室町小路西側溝とみられる南北溝や鎌倉時代の土坑、室町時代後期の土坑などを確認した。

**2区** 層序は、盛土以下、GL-1.3mで焼土を含む灰黄褐色砂泥の近世以降整地層、-1.6mで灰黄褐色砂泥・黒褐色砂礫の室町時代後期整地層、-2.3m以下でにぶい黄褐色礫混じり泥砂の地山となる。近世以降の整地層や遺構などの影響により削平を受けていたが、室町時代後期の整地層を切って成立する土坑を確認した。

土坑1は、南壁で検出した室町時代後期の土坑である。幅0.4m以上、深さ約0.5mを確認した。埋土は暗褐色礫混じり泥砂で、室町時代後期の土師器皿が出土した。

**3区** 層序は、GL-1.1mで灰黄褐色砂泥の三和土、-1.2mでにぶい黄褐色砂質土の室町時代後期～江戸時代前期整地層、-1.45mで暗褐色砂質土の室町時代後期整地層、-1.6m以下黒色シルト・にぶい黄褐色シルトの地山となる。地山を切って成立する平安時代中期～後期の溝のほか、鎌倉時代の土坑、室町時代後期の土坑などを検出した。

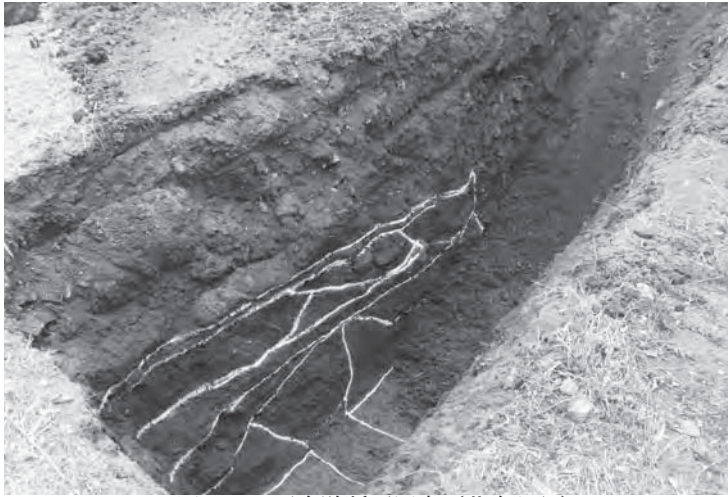


図5 3区南壁断面写真（北東から）

溝2は、東側で検出した。平安時代中期～後期の南北方向の溝である。地山を切って成立し、幅0.8m、長さ0.7m以上、深さ0.7m以上を確認した。埋土は、上層で黒褐色砂質土、下層で黒色シルトである。黒褐色砂質土から平安時代中期～後期の土師器皿や高杯が出土した。室町小路西築地心の推定ライン上に位置しているが、西側溝または築

地の内溝と考えられる。

土坑3は、南壁東端で検出した。鎌倉時代の土坑である。地山を切って成立し、幅1.2m以上、深さ0.35mである。埋土は黒褐色粘質土で、鎌倉時代の土師器皿が出土した。

土坑4は、南壁西側で検出した。室町時代後期の土坑である。西側は攪乱の影響で確認できなかったが、地山を切って成立し、幅1.2m以上、深さ約0.4mを検出した。埋土は灰黄褐色粗砂混じり粘質土で、室町時代後期の土師器皿が出土した。

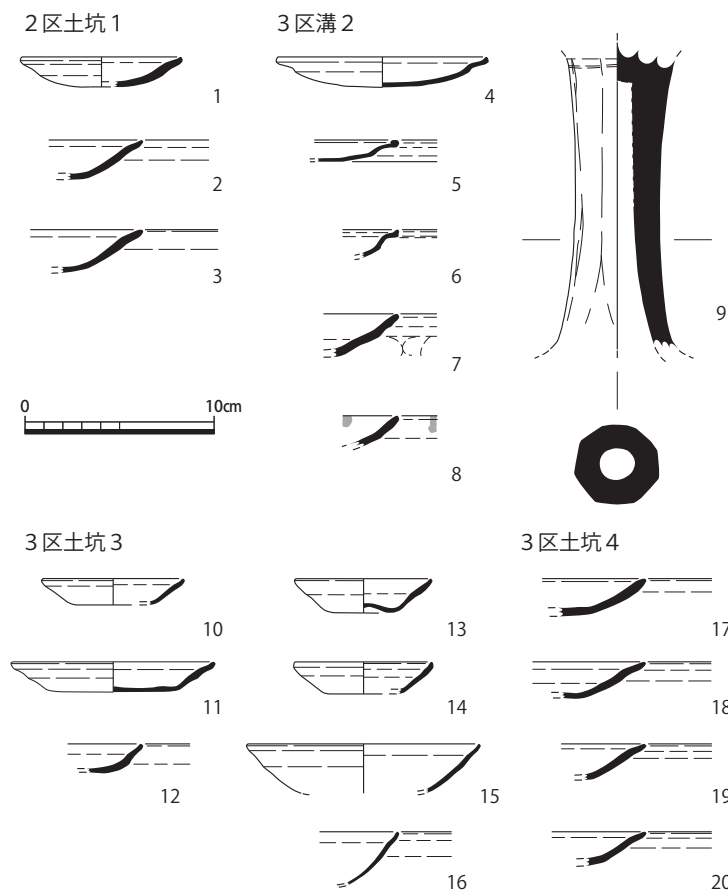


図6 出土遺物（1：4）

### 3. 遺物（図6）

1～3は2区土坑1から出土した、土師器皿Sである。1は口径8.6cm、高さ1.6cmである。16世紀頃に属する。

4～9は3区溝2から出土した。4～6は土師器皿Aである。「て」の字状の口縁で、端部は内傾しつまみ上げる。4は口径11.2cm、高さ1.6cmである。7・8は土師器皿Nである。7の外面にユビオサエが残る。9は土師器高杯の脚部である。8面の面取りを確認した。10～11世紀に属する。

10～16は3区土坑3から出土した。10～12は土師器皿Nである。10は口径7.6cm、高1.4cm、11は口径10.6cm、高さ1.6cmで

ある。13世紀に属する。13は土師器皿Shで、口径7.3cm、高さ11.8cmである。14～16は土師器皿Sである。口縁部は丸みをもって立ち上がる。14は口径7.4cm、高さ1.7cmである。13世紀に属する。

17～20は3区土坑4から出土した、土師器皿Sである。18～20は口縁部は外上方へのび、端部は丸く収める。16世紀頃に属する。

#### 4. まとめ

今回の調査では、周辺調査と同様に弥生時代の散布地である内膳町遺跡に関わる遺物は確認できなかった。しかし、2区で室町時代後期の土坑、3区で室町時代後期～江戸時代前期の整地層及び、平安時代中期～後期の溝、鎌倉時代の土坑、室町時代後期の土坑が確認できた。3区で検出した溝は、室町小路西築地心ラインにあるが、西側溝または築地内溝と考えられる。埋土には平安時代中期～後期の土師器皿が入っており、鎌倉時代の土坑に切られているため、平安時代後期に埋没したと考えられる。これは、調査3の11世紀頃に埋没したと想定されている室町小路東側溝と埋没が同じ時期にあたる。周辺調査でも平安時代後期～鎌倉時代に埋没する遺構を確認している。また、鎌倉時代～室町時代には、周辺では新たに条坊側溝が掘られ、柵列や土坑などの遺構が展開し、安土桃山時代～江戸時代の土坑などを確認している。そのため、鎌倉時代～室町時代の土坑や、平安時代～江戸時代初期の整地層を検出した調査地周辺において、平安時代末期～鎌倉時代や室町時代に宅地が広がるなどの土地変遷があったと考えられる。今後、周辺で調査事例が増えることで、様相が明らかになるだろう。

なお、1・2・4区がある計画建物範囲内は、攪乱や近世以降の土坑などの影響を受け、なおかつ遺構が希薄であったため発掘調査は不要とし、遺構の残存状況の良かった3区がある計画建物範囲内について発掘調査を指導した。協議の結果、計画建物の掘削深度が遺構面に達しないため、遺構が地中保存されることとなった。

(八軒 かほり)

註

- 1) (株) イビソク『平安京左京北辺三坊三町跡・内膳町遺跡』2007年。
- 2) 京都市文化市民局「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 令和3年度』2021年。
- 3) 京都府教育委員会「5 平安京内膳町跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1979)』1979年。
- 4) 古代文化調査会『平安京左京北辺三坊六町 内膳町遺跡』2014年。

## Ⅱ-2 平安京左京六条二坊五町・七条二坊八町跡、 本國寺城跡 No.8 (24H452)

### 1. はじめに (図7～8)

本件は、西本願寺北境内地活用事業に伴う調査である。調査地は下京区猪熊通五条下る柿本町600-1で、当該地は平安京左京六条二坊五町と六条大路を挟んで七条二坊八町跡、堀川小路、中世の本國寺城跡にあたる(図7)。『山槐記』によると、五町には関白藤原基通の邸宅「猪熊殿」が、八町については『仁和寺所蔵古図』に「右大将貞保」の邸宅が存在したとされる。

法華宗総本山である大光山本圀(國)寺は、日蓮上人が鎌倉に築いた法華堂を前身とし、嘉暦3年(1328)に後醍醐天皇によって勅願所に定められた。貞和元年(1345)には、光明天皇から北は六条坊門小路、南は七条大路、東は堀川小路、西は大宮大路を限りとする十二町にも及ぶ寺領を得て、寺基を京都に移している。遷座の際の第四世日静上人は、足利尊氏の叔父であったため、以後、歴代足利將軍家の尊崇厚く、大伽藍が建立された。法華宗は、幕府の庇護を背景に寺勢を拡大したことで延暦寺の反発を招き、法華寺院は要害化され本國寺も構えを設けた。しかし、天文5年(1536)の天文法華の乱によって全山焼失し、洛外退去となる。同11年(1542)に勅許を得て洛中への帰還を果たし、同16年(1547)に故地に再建された。天正19年(1591)に、豊臣秀吉の命により南二町分を本願寺に譲るものの、寺域

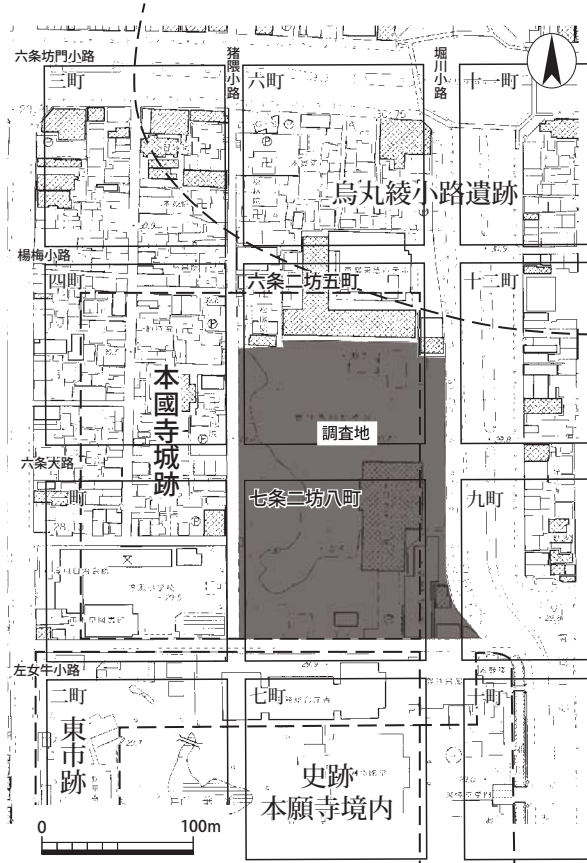


図7 調査位置図 (1:5,000)



図8 調査前全景(北から)

は近世を通じて洛中最大であり、多数の塔頭を抱え、安永9年(1780)刊行の「都名所図会」からもその威容が偲ばれる。しかし、天明8年(1788)の「天明大火」によって全山焼失し、順次

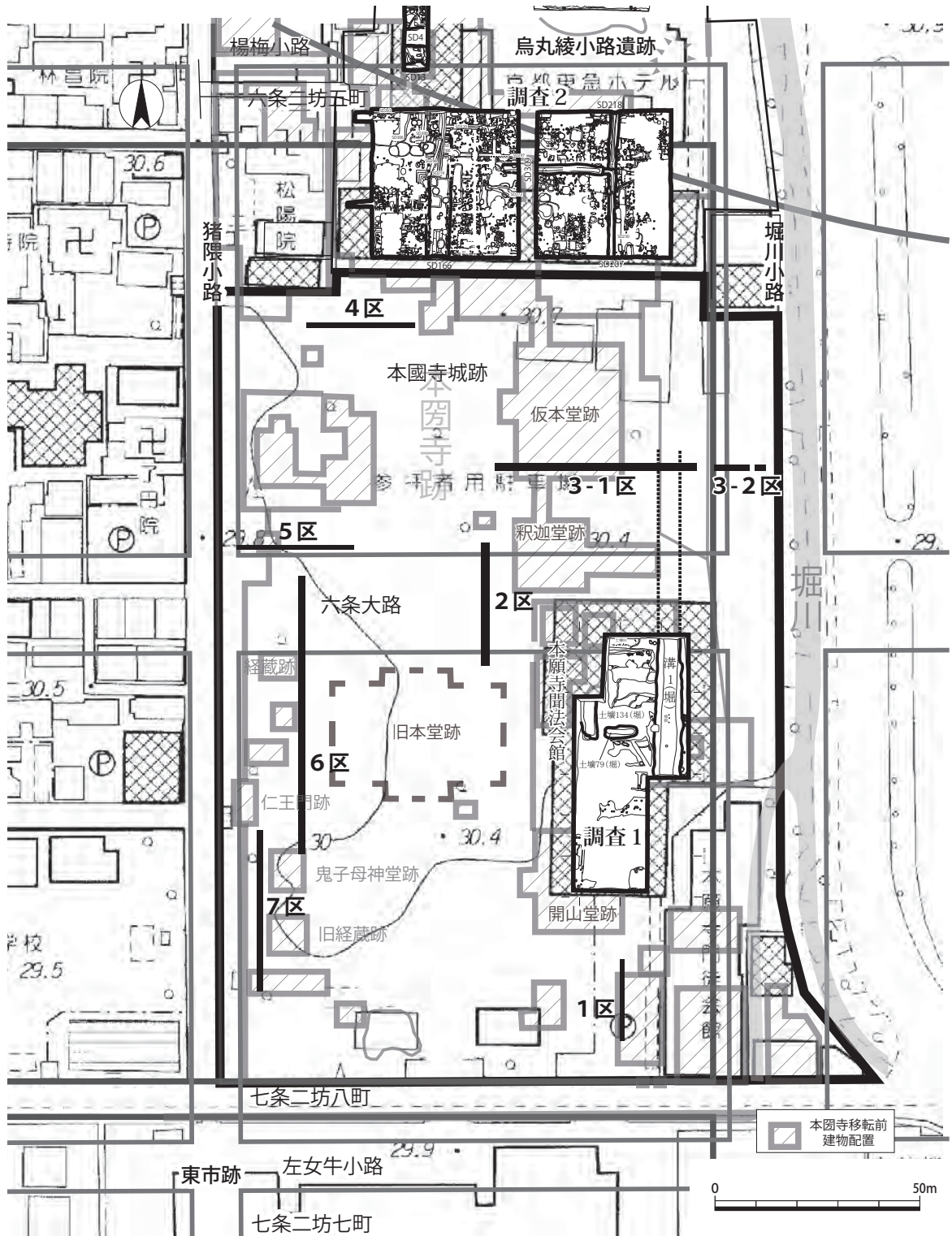


図9 調査区配置及び周辺調査位置図 (1 : 1,500)

再建されるものの本堂や五重塔は再建されず、昭和44年(1969)に山科に移転している。今回の調査地にあたる伽藍中枢部の跡地は本願寺が取得、北境内地として現在は駐車場、開法会館や門徒会館などが所在している(図8・9)。

なお、現在の寺名の表記に用いられる「圀」の表記は、貞享2年(1685)に水戸藩主であった徳川光圀が生母の追善供養を本願寺で行ったことで「圀」の字を与えたと伝えられている。本報告

では、混同を避けるため、現在の宗教法人を指す場合のみ「本圀寺」の表記を用い、他の場合は「本國寺」を用いることとする。

調査地周辺では、敷地東半に所在する聞法会館建設に伴う調査（調査1）や、北に接する東急ホテル建設に伴う調査（調査2）が実施されている（図9）。調査1では、室町時代の本國寺東堀が確認されたほか、本國寺造営以前の平安～鎌倉時代にかけての遺構も多数確認され、平安京遷都以降の土地利用の変遷が明らかになっている<sup>1)</sup>。調査2では、平安時代末期から鎌倉時代にかけての猪熊殿に関連する遺構や、本國寺造営以降に境内を区画した堀などを検出し、本國寺期の多数の輸入陶磁器が出土しており、その隆盛を偲ばせる遺構・遺物群が確認されている<sup>2)</sup>。

今回の調査地は、近世本國寺の伽藍中枢部に該当しており、移転後は主に駐車場として利用されていたため、遺構の残存状況は良好であると想定された。周辺調査成果を踏まえ、本國寺跡関連及び寺院造営以前の遺構・遺物を確認することを調査の主目的とした。調査は令和7年1月27日～2月14日の期間中、延べ12日間で実施した。調査の結果、本圀寺移転後に実施された駐車場整備に伴う表層改良によって、天明大火後に再建された本國寺の遺構は一部を除き削平されていたが、江戸時代前半以前の遺構面は良好に残ることを確認した。調査面積は合計399㎡である。

## 2. 遺構（図9～13）

調査区の設定に当たっては、隣接地の発掘調査成果及び、近世地誌類、近代から現代にかけての本國寺境内図及び都市計画図等を参考に、平安京の条坊復元図を踏まえ、7箇所を設定した（図9）。調査地は広大で、現地表面は北から南に向かって緩やかに下り、南北で約1mの比高がある。

掘削にあたっては、遺構面の把握を主目的とし、下層については主に攪乱部分での確認に留めている。以下、各調査区の概要と主要遺構を記す。なお、各調査区で共通する遺構面が存在することから、煩雑さを避けるため、近世後半（天明大火以降）を第1面、近世前半を第2面、中世後半を第3面、中世前半を第4面、平安時代（地山）を第5面とする。調査区によっては、さらに複数の整地層が認められる。

**1区（図10）** 調査地南東隅部、門徒会館西側で南北方向に設定した。移転前の境内では開山堂南側の空地であるが、近代には一時期旅館が所在していた。

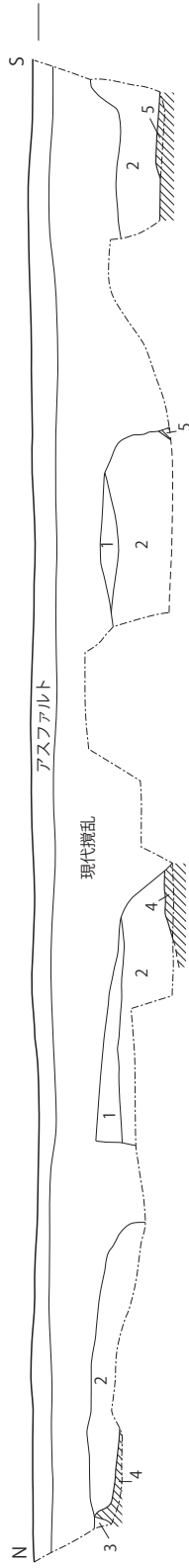
層序は、現代攪乱直下、GL-0.8mでにぶい黄橙色シルトの地山となるが、調査区の大半が天明大火に伴う廃棄土坑で、顕著な遺構は認められなかった。

**2区（図10・巻頭図版1-1）** 調査地中央東寄り、聞法会館西側で南北方向に設定した。地中障害物及び厚い表層改良の影響で、3箇所に分けて掘削を行った（北・中・南区）。移転前の釈迦堂跡及び平安京六条大路に該当する。

層序は、GL-0.7～-0.8mで第2面、-0.9～-1.3mで第3面、-1.2m～-1.5mで第4面、-1.5mでにぶい黄橙色シルトの地山（第5面）となる。遺構は、北区第4面で幅1.4m以上、深さ0.4m以上の東西溝（溝1）、長さ6m以上の大土坑、第5面で土坑、ピットを検出した。溝1は、六条大路北築地芯の北側に位置するため、内溝に該当する。12世紀後半から13世紀前半の土師器皿、焼

【1区】

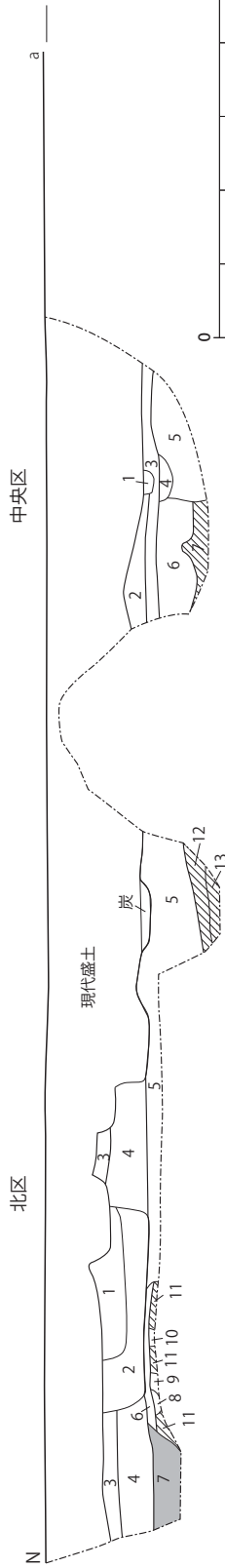
KBM-1.0m



- 1 7.5Y4/1 灰色粘質土 (運物細片混じる)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 (小礫・焼瓦多く含む)
- 3 10YR5/1 褐灰色粘質土 (運物・土師器細片含む)
- 4 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト【地山】
- 5 7.5Y4/1 灰色微細砂【地山】

【2区】

KBM±0m



六条大路  
北築地芯



- 北区
- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂(瓦片混じる)
  - 2 2.5Y5/3 黄褐色泥砂(小礫混じる)
  - 3 10Y5/2 灰黄褐色泥砂
  - 4 2.5Y5/1 黄灰色泥砂(焼土含む)
  - 5上 2.5Y5/2 黄褐色泥砂(炭化物少し含む)【大土坑】
  - 5下 10YR5/2 灰黄褐色泥砂(焼土含む)
  - 6 7.5Y6/2 灰オリーブ色細砂
- 南区
- 7 5Y6/2 灰オリーブ色泥砂に黄褐色シルトブロック含む【溝1】
  - 8 2.5Y6/3 にぶい黄褐色泥砂(土師器片含む)
  - 9 2.5Y7/3 浅黄褐色泥砂【ピット2】
  - 10 2.5Y7/2 灰黄色泥砂
  - 11 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト
  - 12 2.5Y4/1 黄灰色シルト
  - 13 2.5Y6/1 黄灰色極細砂

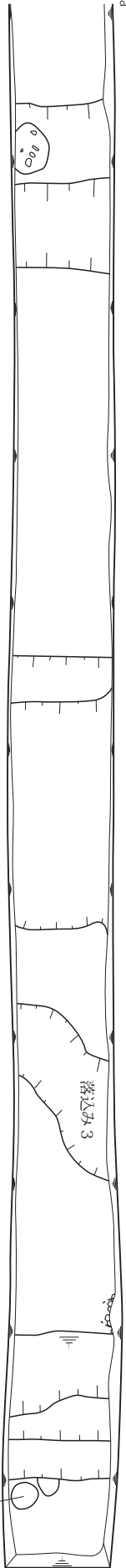
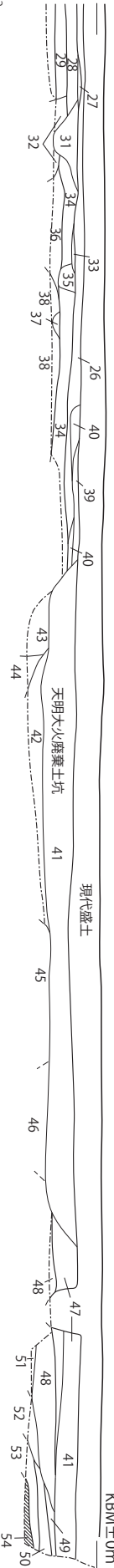
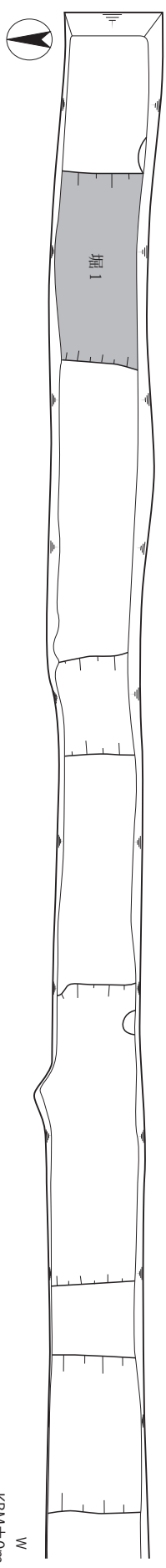
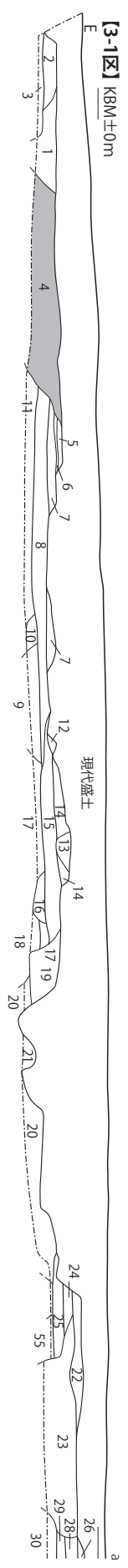
中央区

- 1 2.5Y5/1 黄灰色泥砂
- 2 10YR7/4 にぶい黄褐色泥砂
- 3 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色泥砂
- 5 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂(小礫混じり)
- 6 2.5Y4/1 黄灰色泥砂(炭混じり)
- 7 2.5Y8/4 淡黄色シルト質極細砂

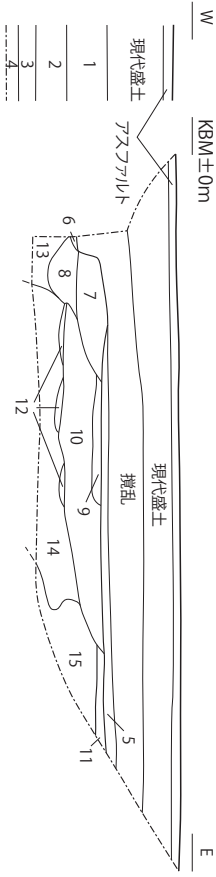
南区

- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂礫～泥砂
- 2 2.5Y5/3 黄褐色泥砂
- 3 2.5Y4/1 黄灰色泥砂(炭混じり)
- 4 10YR4/1 褐灰色泥砂(炭混じり)
- 5 7.5YR4/6 褐色泥砂
- 6 10YR4/2 灰黄褐色泥砂
- 7 10YR3/1 黄褐色泥砂
- 8 2.5Y7/4 淡黄色シルト質極細砂
- 9 2.5Y5/2 暗灰黄色泥砂
- 10 10YR6/4 にぶい黄褐色砂礫泥砂混じり【地山】

図10 1・2区平・断面図 (1:100)



**【3-2区】**

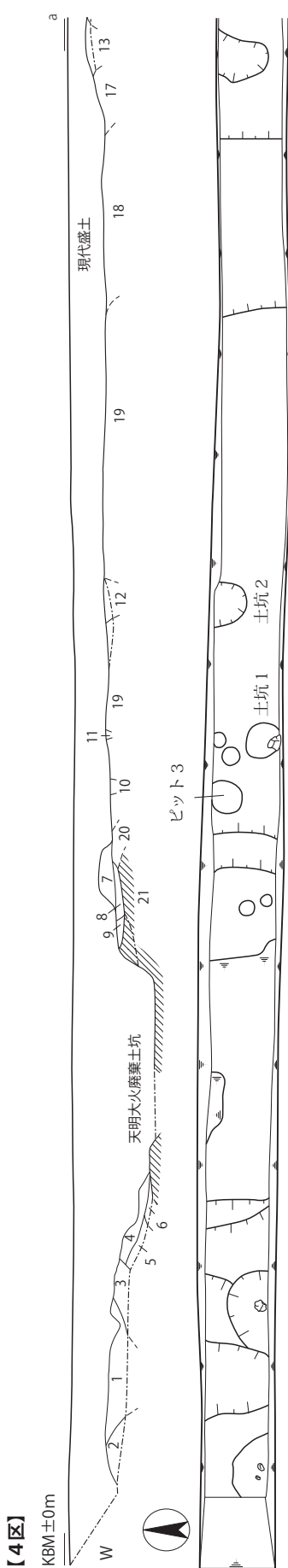


- 3-2区 土色**
- 1 10YR3/1黒褐色泥砂(拳大の礫・瓦・炭含む)
  - 2 10YR4/2灰黄褐色中砂~粗砂(拳大の礫・土師器含む)
  - 3 10YR4/3にぶい黄褐色細砂~粗砂(土師器・炭含む)
  - 4 10YR4/4褐色細砂~粗砂(土師器含む)
  - 5 2.5Y5/1黄灰色泥砂(固く締まる)
  - 6 10YR5/6黄褐色中砂
  - 7 10YR4/2灰黄褐色泥砂(茶喰片含む)
  - 8 10YR4/1褐灰色泥砂(拳大の礫・土師器・炭片含む)【溝】
  - 9 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂(拳大の礫・瓦片含む)
  - 10 10YR3/2黒褐色泥砂
  - 11 2.5Y5/4黄褐色細砂~3cm大の礫
  - 12 2.5Y5/1黄灰色砂泥
  - 13 2.5Y4/1黄灰色シルト~細砂
  - 14 10YR4/2灰黄褐色極細砂~細砂
  - 15 10YR4/4褐色細砂

**3-1区 土色**

- 1 2.5Y3/1黒褐色泥砂(中礫混)
- 2 10YR3/1黒褐色砂泥
- 3 10YR4/1褐灰色砂泥
- 4 2.5Y6/2灰黄色細砂(小礫多量混)【堀1】
- 5 10YR3/3にぶい黄褐色泥砂
- 6 2.5Y6/3にぶい黄色砂泥
- 7 10YR6/2灰黄褐色砂泥
- 8 10YR5/2灰黄褐色シルト
- 9 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 10 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
- 11 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 12 10YR4/1褐灰色シルト
- 13 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 14 10YR5/3にぶい黄褐色シルト
- 15 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 16 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂
- 17 10YR4/2暗灰黄色泥(炭化物混)
- 18 2.5Y5/2暗灰黄色シルト
- 19 2.5Y3/1黒褐色泥砂(礫混)
- 20 10YR4/1褐灰色泥砂
- 21 10YR4/1褐灰色砂泥(土師器多量混)
- 22 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 23 2.5Y3/1黒褐色泥砂(小礫・瓦片混)
- 24 2.5Y4/2暗灰黄色シルト
- 25 2.5Y4/1黄灰色泥土
- 26 10YR3/1黒褐色砂泥
- 27 10YR4/2灰黄褐色泥土(粘土多量混)
- 28 10YR3/2黒褐色砂泥
- 29 2.5Y4/1黄灰色泥土
- 30 2.5Y3/1黒褐色泥土
- 31 10YR4/1褐灰色泥砂
- 32 10YR3/1黒褐色砂泥
- 33 2.5Y4/1黄灰色微砂
- 34 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
- 35 2.5Y5/1黄灰色細砂(礫混)
- 36 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 37 2.5Y4/1黄灰色砂泥(礫混)
- 38 10YR4/1褐灰色砂泥
- 39 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 40 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
- 41 10YR5/2灰黄褐色粗砂(礫・瓦混)
- 42 10YR6/2灰黄褐色泥砂
- 43 2.5Y5/1黄灰色砂泥
- 44 2.5Y6/1黄灰色微砂
- 45 10YR6/2灰黄褐色シルト
- 46 2.5Y4/1黄灰色泥砂【落下み3】
- 47 2.5Y5/1黄褐色泥土(粘土混)
- 48 2.5Y3/1黒褐色泥砂(礫混)
- 49 7.5YR4/2灰褐色泥砂(粘土混)
- 50 10YR5/4にぶい黄褐色シルト
- 51 10YR6/2灰黄褐色微砂
- 52 5YR4/6黄褐色泥土(粘土混)
- 53 2.5Y4/1黄灰色砂泥
- 54 10YR5/4にぶい黄褐色シルト(固く締まる)
- 55 2.5Y5/3黄褐色シルト(固く締まる)

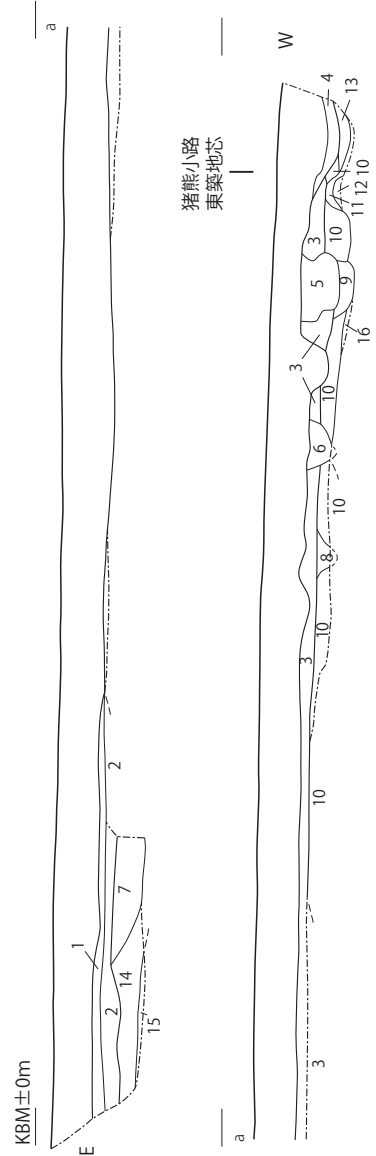
図 11 3区平・断面図 (1 : 100)



- 12 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(土師器皿多量に含む)【土坑2】
- 13 10YR4/1 褐灰色砂泥(土師器片含む)
- 14 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(土師器細片含む)
- 15 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(瓦片・煉土少量含む)
- 16 10YR5/3 にぶい 黄褐色シルト
- 17 10YR6/4 にぶい 黄褐色泥砂(固く締まる)
- 18 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(小礫少量含む)
- 19 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(土師器細片・煉土含む)【平安後期整地層】
- 20 5Y6/4 オリーブ黄色砂泥
- 21 10YR5/4 にぶい 黄褐色シルト【地山】

- 1 10YR4/1 褐灰色泥砂(小礫・炭化物送料含む)
- 2 10YR4/2 灰黄褐色細砂
- 3 10YR4/1 褐灰色泥砂(漆喰・炭化物・瓦片含む)
- 4 2.5Y5/1 黄灰色砂礫
- 5 2.5Y4/1 黄灰色細砂(焼土・炭化物少量含む)
- 6 2.5Y5/1 黄灰色細砂
- 7 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 8 2.5Y4/1 黄灰色泥砂(炭化物少量含む)
- 9 5Y6/4 オリーブ黄色砂泥
- 10 7.5Y4/2 灰オリーブ色泥砂【ピット3】
- 11 7.5Y4/2 灰オリーブ色泥砂

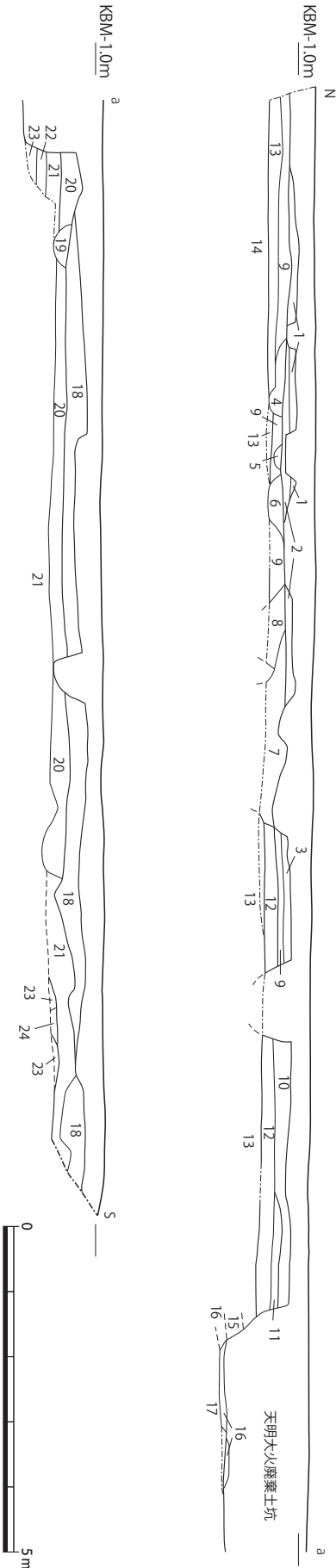
**【5区】**



- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂(固く締まる)
- 2 10YR3/2 黒褐色泥砂(固く締まる)
- 3 10YR5/2 灰黄褐色泥砂(固く締まる)
- 4 2.5Y8/3 淡黄色粗砂
- 5 10YR5/1 褐灰色泥砂(小礫含む)
- 6 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 7 2.5Y4/1 黄灰色泥砂(瓦片多量に含む)
- 8 10YR3/2 黒褐色泥砂(土師器片多量に含む)
- 9 10YR4/1 褐灰色泥砂(小礫含む)
- 10 10YR5/3 にぶい 黄褐色泥砂(土師器細片・小礫含む)
- 11 2.5Y5/1 黄灰色砂泥(非常に固く締まる)
- 12 7.5YR3/3 暗褐色シルト(非常に固く締まる)
- 13 10YR4/1 褐灰色泥砂
- 14 2.5Y4/2 暗灰黄色泥砂(小礫含む)
- 15 10YR4/3 にぶい 黄褐色細砂(固く締まる)
- 16 10YR3/1 黒褐色シルト(固く締まる)【平安整地層】

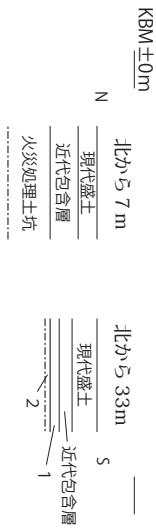
図12 4・5区平・断面図 (1:100)

【7区】



- |                             |                             |                            |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 1 10YR7/6 明黄褐色シルト           | 7 2.5Y5/1 黄灰色砂泥小礫混じる        | 13 2.5Y4/1 黄灰色砂泥(焼土少量含む)   | 19 10YR4/1 褐灰色泥砂(瓦片混じる)     |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色泥砂            | 8 10YR5/2 灰黄褐色泥砂(瓦片多量を含む)   | 14 5Y4/1 灰色泥砂(小礫、炭化物少量含む)  | 20 10YR4/2 灰黄褐色泥砂           |
| 3 10YR4/1 褐灰色泥砂             | 9 10YR4/1 褐灰色砂泥(焼土少量含む)     | 15 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥(小礫混じる) | 21 10YR4/2 暗黄褐色砂礫           |
| 4 7.5YR4/3 にぶい褐色砂泥(焼土多量を含む) | 10 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥(焼土少量含む) | 16 2.5Y6/4 にぶい黄褐色粗砂(小礫混じる) | 22 2.5Y4/2 暗黄褐色砂礫           |
| 5 7.5YR5/2 灰褐色砂泥(焼土多量を含む)   | 11 2.5Y7/3 浅黄褐色粗砂混じる        | 17 2.5Y4/1 黄灰色シルト～シルト質極細砂  | 23 5Y6/2 灰オリーブ色細砂           |
| 6 10YR5/1 褐灰色泥砂(焼土多量を含む)    | 12 10YR5/2 灰黄褐色砂泥【中世遺物包含層】  | 18 10YR4/2 灰黄褐色泥砂          | 24 10YR4/2 灰黄褐色泥砂(少し締まりがない) |

【6区】



- |  |
|--|
| 1 10YR3/2 黒褐色泥砂(0~5cm大の礫・土師器片・瓦片多量を含む) |
| 2 5Y6/2 灰オリーブ色泥砂【平安時代後期整地層か】           |

図 13 6・7区断面図 (1:100)

締陶器が出土した。ピット2は2区北端で検出した。径0.2m以上で、埋土は浅黄色泥砂である。平安時代末期から鎌倉時代の土師器皿が出土した。大土坑はシルトの地山を大きく掘り込んでおり、土取穴であろう。

**3区 (図11)** 調査区北東部、聞法会館北側から堀川通沿いのバスロータリーにかけて東西方向に設定した。西半は移転前の仮本堂に、東半は堀川小路に該当する。舗装状況の違いによって、東西に分けて掘削を行った(3-1・3-2区)。

層序は東西で異なる。3-1区では、GL-0.3mで第1面、-0.45mで第2面、-0.6mで第3面、-0.8mで第4面、-1.1mで地山(第5面)となる。3-2区では、-1.1mで第2面、-1.2mで第3面となる。第3面以下は流水堆積を示す細砂～極細砂となる。堀川小路内にあたるため、堀川の河川堆積、又は氾濫堆積と捉えられる。

遺構は、3-1区の各遺構面にて土坑、溝、堀、ピット、落込み等を多数検出した。堀1(図11、3-1区4層)は、調査1で確認した室町時代の堀1の北延長線上に位置しており、同一遺構の可能性がある。ピット2、落込み3は3-1区西端で検出した。ピット2は径0.4mの円形で、埋土は黄褐色シルトである。焼締陶器の甕が出土した。落込み3は幅1.1～1.8mで、北西から南東方向を向く。埋土は黄灰色泥砂で、室町時代後半の土師器皿が出土した。

3区は、他の調査区と比べて表層改良が薄く、残存状況は良好である。移転前の仮本堂などの中枢施設が所在したことに関係する可能性がある。

**4区 (図12)** 計画地北西隅部に東西方向に設定した。移転前の仮本堂西側の空閑地である。

層序は、GL-0.3mで第3面、-0.55mで黄灰色砂泥の平安時代後期整地層、-0.6mで地山(第5面)となる。遺構は、複数の溝、ピット、土坑を検出した。土坑1・2、ピット3は調査区中央で検出した。土坑1・2は径0.6mの円形である。土坑1の埋土は黒褐色泥砂で室町時代前半の土師器、土坑2の埋土は黄灰色砂泥で室町時代中頃の土師器皿が出土した。ピット3の埋土は灰オリーブ色泥砂で鎌倉時代後半から安土桃山時代にかけての遺物が出土している。

**5区 (図12・巻頭図版1-2)** 計画地中央西寄りに東西方向に設定した。移転前は空閑地で、西端は猪熊小路に該当する。層序は、GL-0.55mで第3面の灰黄褐色泥砂、-0.65m第4面のにぶい黄褐色泥砂、-1.0mで黒褐色シルトの平安時代整地層となる。

遺構は、第3面で土坑、ピット等を検出した。調査区西端で確認した11・12層は固く締まった幅1mのシルトを主体とする南北方向の高まりで、猪熊小路東築地基底部に該当する。土坑1は調査区中央で検出した土坑で、径0.8mを測り、埋土は褐色砂泥で瓦質土器の鍋が出土した。

**6区 (図13)** 計画地中央西寄りに南北方向に設定した。旧本堂西側の空閑地及び六条大路に該当する。層序は、GL-0.6mで第2面、-0.75mで平安時代後期のウグイス整地層となるが、大半は天明大火に伴う廃棄土坑で各遺構面は大きく削平を受けている。

**7区 (図13)** 計画地南半西寄りに南北方向に設定した。移転前は小規模建物が複数認められる。層序は、GL-0.3mで第2面、-0.4mで第3面、-0.5mで中世包含層、-0.75mで第4面、-1.3mで黄灰色シルト～シルト質極細砂層となる。遺構密度は高くないが、遺構面は良好に残る。

### 3. 遺物 (図14～18・表2)

今回の調査では、平安時代から近世にかけての土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦、石製品等が出土した。また、近世本國寺の遺構把握も目的の一つとしたため、天明大火に伴う火災処理土坑から出土した瓦についても、特徴的なものは取り上げを行った。本國寺所要瓦については、調査1でも多数出土したとあるが未掲載のため、今回報告を行う。ここでは主要な遺物について、瓦を除き調査区毎に報告を行う。

**2区 (図14)** 土師器、須恵器、瓦質土器、国産施釉陶器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦が出土した。1～4は土師器皿である。1～4は皿Nである。1は口径9.2cm、器高1.9cmである。口縁端部はやや立ち上がる。12世紀後半から13世紀前半に属する。2は口径15cm、器高2.4cmである。底部と体部の境は丸みをもつ。12世紀代に属する。3は口径8cm、器高1.6cm、4は11.5cm、1.9cmである。3・4ともに体部外面下半にユビオサエの痕跡が認められる。13世紀後半から14世紀前半に属する。5は山茶碗の椀である。貼り付け高台で、底部外面に糸切り痕が残る。口縁端部は外反する。12世紀代に属する。6は須恵器の甕の口縁部である。体部外面にはタタキを施す。

1は北区7層(溝1)、2は同9層、3・4は南区6層、5・6は重機掘削中に出土した。

**3区 (図14)** 土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦質土器、焼締陶器、輸入陶磁器、瓦などが出土した。7・8は土師器皿である。7は皿Sで、口径9cm、器高2cmである。口縁端部にやや面を持つ。16世紀後半に属する。8は皿Nで、口径14.5cm、器高2.6cmである。底部と体部の境は丸みをもつ。13世紀代に属する。9は焼締陶器の甕底部である。底径30cmである。焼成が甘く、胎土は褐色を呈す。

7は3-1区46層、8は同53層、9はピット2から出土した。

**4区 (図14)** 土師器、須恵器、瓦質土器、輸入陶磁器、瓦が出土した。

10～15は土師器皿である。10は皿N、11～14は皿Sである。10は口径8.5cm、器高1.6cmで、体部外面下半にヨコナデによる段差が生じている。14世紀前半に属する。11は口径15cm、器高3cmである。口縁端部はやや外反する。15世紀代に属する。12は口径9cm、器高2.1cmである。12・13の口縁端部は僅かに外反する。14は口縁端部に面を持つ。15は皿Nで、口縁部は外反し、端部を摘み上げる。12～15は9段階の15世紀に属するものである。16は青磁椀で、高台径5cmである。内面底部に花文が陰刻されている。外面には蓮弁を施す。

10は10層、11は12層、12～15は土坑1、16は19層から出土した。

**5区 (図14)** 土師器、瓦器、焼締陶器、石製品、瓦が出土した。17～22は土師器皿で、17は皿N、18～22は皿Sである。17は口径8.5cm、器高1.6cmである。底部中央は持ち上がり、体部は強く立ち上がる。口縁部はやや外反する。18は口径11.5cm、器高2.5cm、19・20は12cm、2.5cm、21は12.5cm、2.9cm、22は14cm、3.3cmである。20・22は口縁端部に面を持つ。21は口縁部に煤が付着する。9段階、15世紀代に属する。23は瓦質土器の鍋である。口径33.6cmである。

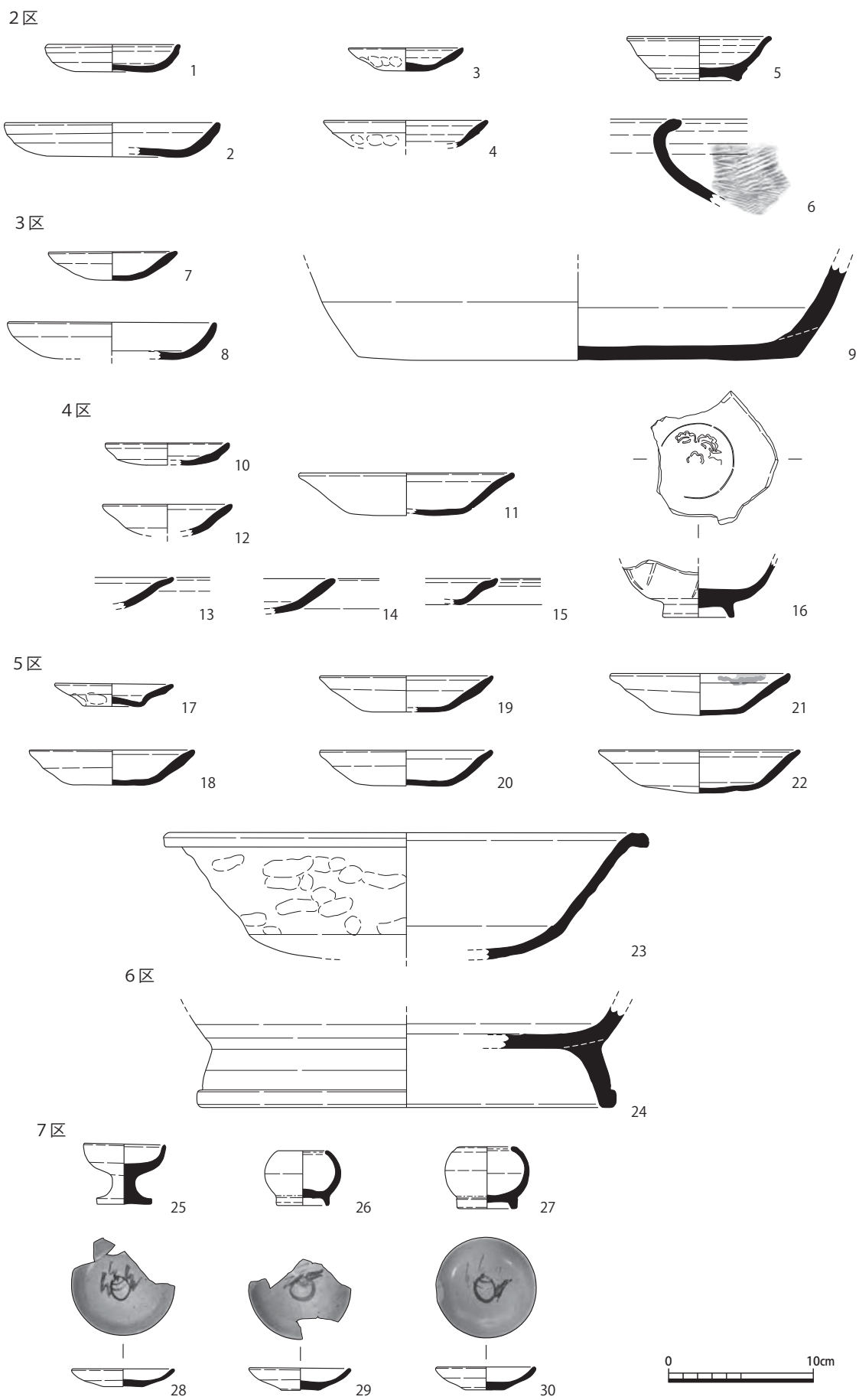


图14 出土遺物 (1 : 4)

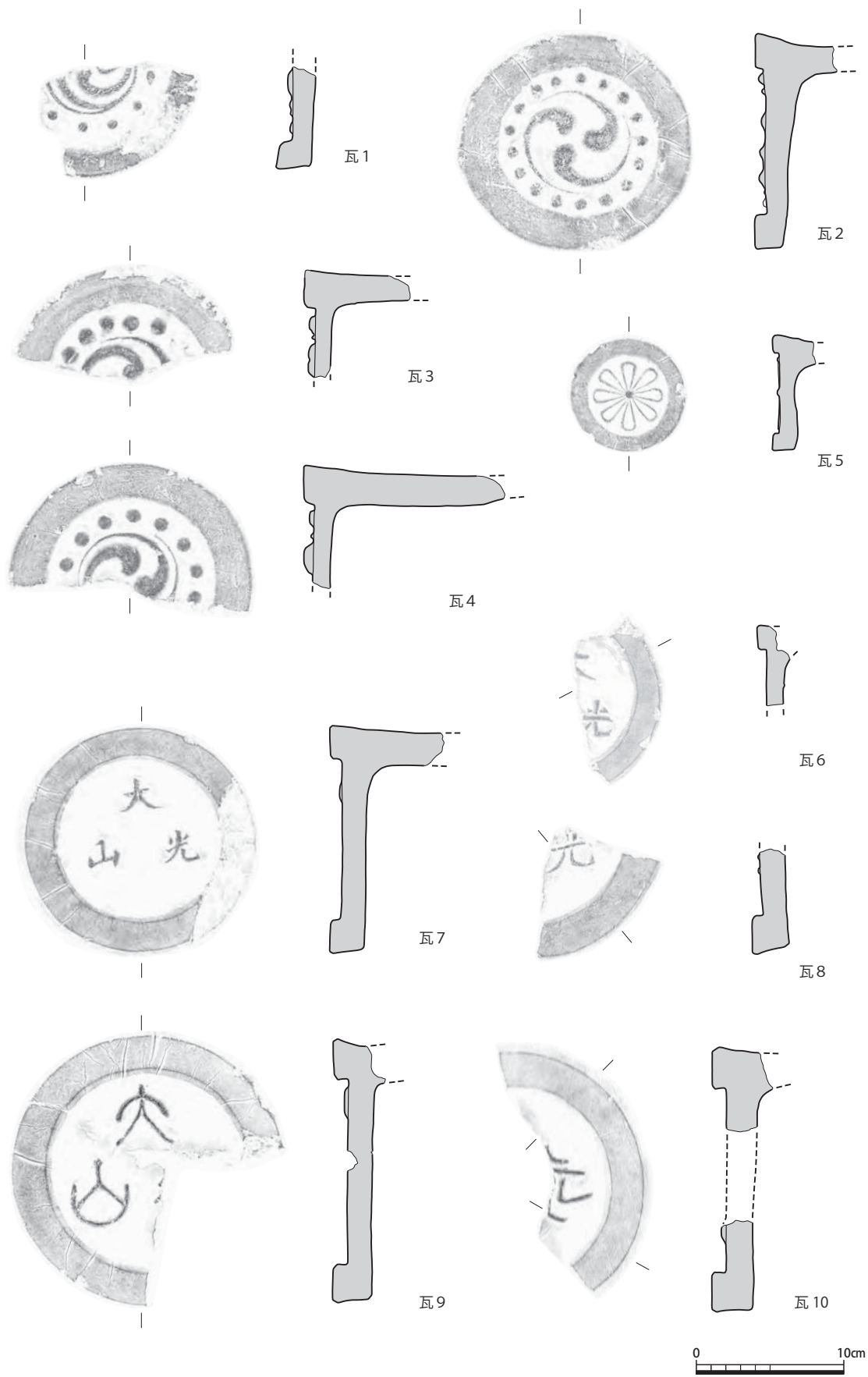


图15 出土瓦1 (1:4)

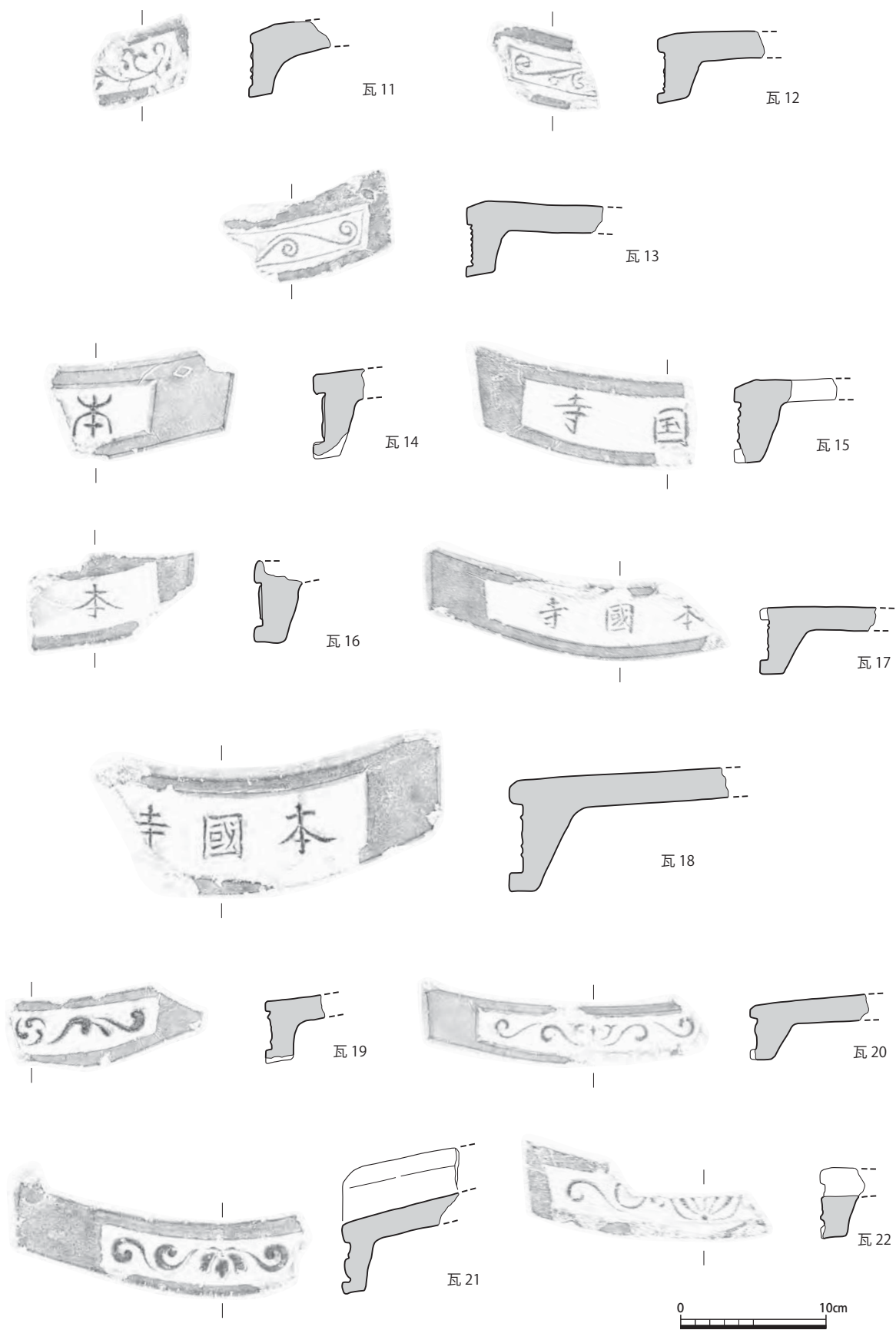


图16 出土瓦2 (1:4)

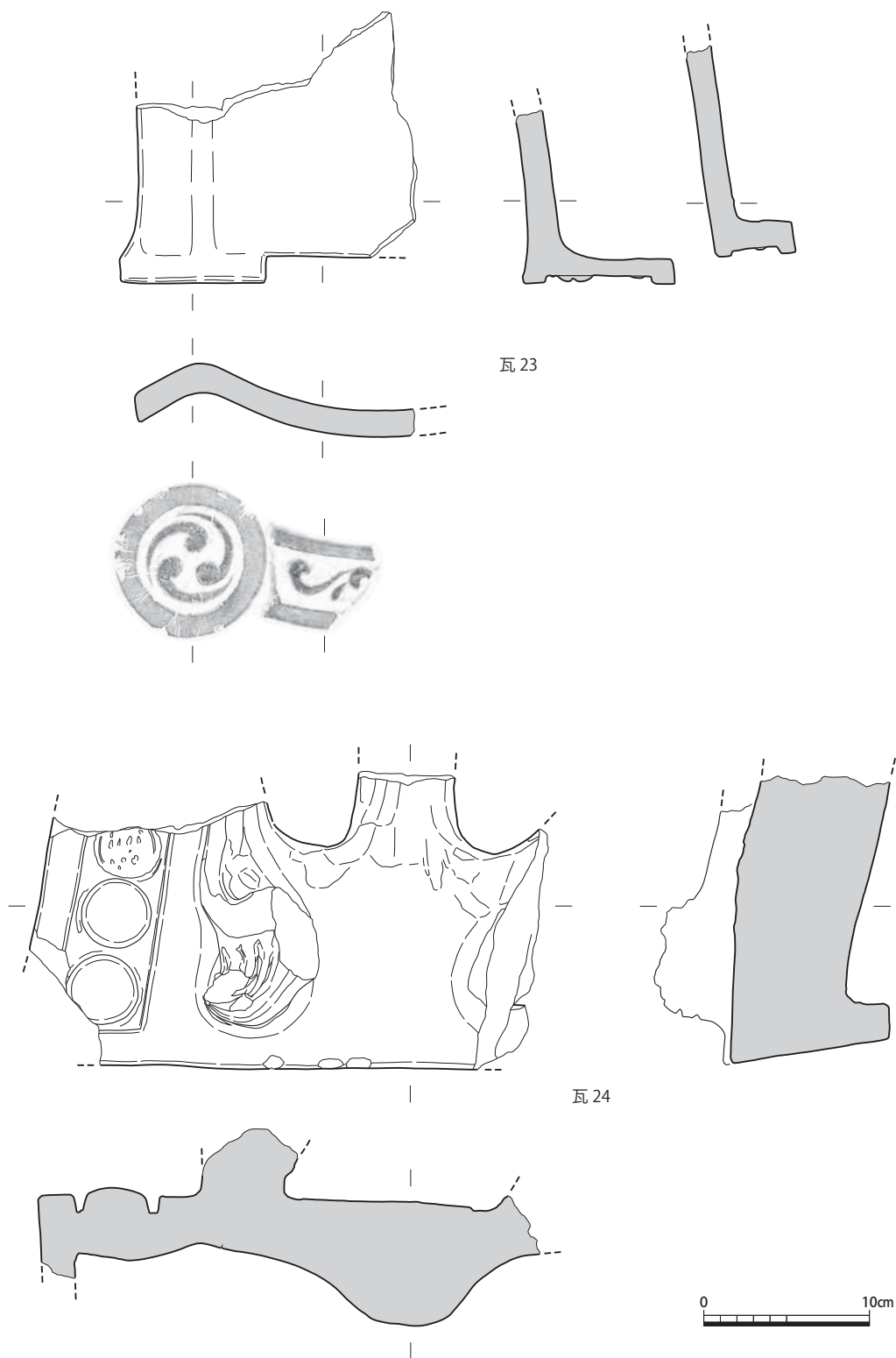


图17 出土瓦3 (1:4)

表2 出土瓦観察表

番号	種類	瓦当文様の特徴	整形・調整技法	出土地点	備考
瓦1	軒丸瓦	右巻三巴文。尾が長く互いに接して圏線状となる。外区に珠文が巡る。	瓦当成形は瓦当貼り付け。瓦当裏面は不定方向のナデ、瓦当側面はナデ。	7区20層	中世末～近世
瓦2		右巻三巴文。尾の先端が長い。外区に珠文が17個巡る。	瓦当成形は瓦当貼り付け。周縁平坦面はナデ。瓦当裏面丸瓦接合付近は丸瓦凹面に沿ってナデ、裏面は不定方向のナデ。瓦当側面は周縁に沿ってナデ。丸瓦凸面は縦ケズリ、凹面に布目。	7区18層	近世
瓦3		右巻三巴文。巴の頭は丸く、尾の先端が長い。外区にやや大粒の珠文が巡る。	瓦当成形は瓦当貼り付け。瓦当裏面丸瓦接合付近は丸瓦凹面に沿ってナデ、裏面は丸瓦接合部に向かってナデ。瓦当側面は周縁に沿ってナデ。丸瓦凸面は縦ケズリ後ナデ、凹面に布目。	5区7層	近世末
瓦4		右巻三巴文。尾の先端が長い。外区に珠文が巡る。	瓦当成形は瓦当貼り付け。周縁平坦面はナデ。瓦当裏面丸瓦接合付近は丸瓦凹面に沿ってナデ、裏面は丸瓦接合部に向かってナデ、下端は周縁に沿ってナデ。瓦当側面は周縁に沿ってナデ。丸瓦凸面は縦ケズリ後ナデ、凹面に布目。	5区7層	近世末
瓦5	棟丸瓦	菊花文。中房は小さく、凹弁の花弁を8葉配す。	瓦当成形は瓦当貼り付け。瓦当裏面は横ナデ、下端は周縁に沿ってナデ。瓦当側面はナデ。瓦当凸面から丸瓦凸面にかけて縦ナデ。	6区火災処理土坑	近世末
瓦6	軒丸瓦	「大光山」を配す。	周縁文様側ケズリ（面取り）。瓦当裏面は不定方向のナデ、下端は周縁に沿ってナデ。	6区火災処理土坑	近世末
瓦7		「大光山」を配す。	瓦当成形は瓦当貼り付け。周縁外縁及び文様区側ケズリ（面取り）、周縁平坦面はナデ。瓦当裏面丸瓦接合付近は丸瓦凹面に沿ってナデ、裏面はナデ、下端は周縁に沿ってナデ。丸瓦接合部にカキメ。瓦当凸面から丸瓦凸面にかけてミガキ。	6区火災処理土坑	近世末
瓦8		「大光山」を配す。	周縁外縁及び文様区側ケズリ（面取り）。瓦当裏面は不定方向のナデ、下端の一部に何らかの工具による凹みが認められる。	6区火災処理土坑	近世末
瓦9		篆書体の「大光山」を配す。	瓦当成形は瓦当貼り付け。周縁外縁及び文様区側ケズリ（面取り）。瓦当裏面は不定方向のナデ、下端は周縁に沿ってナデ。丸瓦接合部は横方向のカキメ。	6区火災処理土坑	近世末、瓦10と同範か
瓦10		篆書体の「大光山」を配す。	瓦当成形は瓦当貼り付け。周縁外縁及び文様区側ケズリ（面取り）。瓦当裏面丸瓦接合付近は丸瓦凹面に沿ってナデ、裏面は不定方向のナデ、下端は周縁に沿ってナデ。丸瓦接合部にカキメ。瓦当凸面から丸瓦凸面にかけて縦ケズリ。	6区火災処理土坑	近世末、瓦9と同範か
瓦11	軒平瓦	左偏向唐草文。唐草の主葉は連続し、支葉の先は巻き込む。	瓦当成形は折曲げ。瓦当凹面はナデ、凸面はケズリ、裏面はナデ。平瓦凹面に布目。	7区15層	山城産、平安時代後期
瓦12		均整唐草文。中心から外側に先端が巻き込む唐草を配す。第2唐草の先端は二股に分かれる。外区は無文で圏線が巡る。	瓦当成形は顎貼り付け。瓦当凹面から平瓦凹面にかけてケズリ。瓦当凸面はケズリ、裏面はナデ。	2区重機掘削中	中世末～近世
瓦13		均整唐草文。独立した唐草が2回反転する。唐草の先端が巻き込む。	瓦当成形は瓦当貼り付け。瓦当凹面はケズリ、凸面はケズリ、裏面は横ナデ。瓦当裏面から平瓦の移行部分に凹型成形台圧痕。平瓦凸面は縦ケズリ。瓦当側面はケズリ。	6区火災処理土坑	中世
瓦14		篆書体の「本国（國）寺」を配す。瓦当右側に「◇」を押印。	瓦当成形は顎貼り付け。周縁外縁（凹凸面）及び文様側ケズリ（面取り）。瓦当凸面から裏面にかけて横ナデ。顎接合部に横方向のカキメ。平瓦凹面は横ケズリ。	6区火災処理土坑	近世末
瓦15		「本国寺」を配す。	瓦当成形は顎貼り付け。周縁外縁（凹凸面）及び文様側ケズリ（面取り）、周縁平坦面はナデ。瓦当凸面はナデ、裏面は横ナデ。平瓦凹面はケズリ後に横ナデ。瓦当側面はナデ。	6区火災処理土坑	近世末。瓦16と同範か。

瓦16		「本国（國）寺」を配す。	瓦当成形は顎貼り付け。周縁平坦面はナデ。凸面から瓦当裏面にかけて横ナデ。	6区火災 処理土坑	近世末、 瓦15と 同範か
瓦17		「本國寺」を配す。	瓦当成形は顎貼り付け。周縁外縁（凹凸面）及び文様側、裏面凸面側はケズリ（面取り）。瓦当凸面から瓦当裏面にかけて横ナデ。平瓦凹面はミガキ、凸面はケズリ後に縦ナデ。瓦当側面瓦当付近はケズリ（面取り）。	6区火災 処理土坑	近世末
瓦18		「本國寺」を配す。	瓦当成形は顎貼り付け。周縁外縁（凹凸面）及び文様側ケズリ（面取り）。瓦当凸面は横ナデ、裏面は横ナデ、側面付近のみ縦ナデ。顎接合部に横方向のカキメ。平瓦凹面はケズリ、凸面は縦ケズリ。	6区火災 処理土坑	近世末
瓦19	軒平瓦	均整唐草文。中心に左巻三巴文を配し、左右に向かって独立した唐草が2回反転する。第1唐草の先端に支葉を配す。	瓦当成形は顎貼り付け。瓦当凹面から平瓦凹面にかけて横ナデ、凸面から裏面にかけて横ナデ。顎接合部にカキメ。	6区火災 処理土坑	近世末
瓦20		均整唐草文。中心に三葉を配し、左右に向かって独立した唐草文が2回反転する。唐草の先端は緩やかに巻き込む。	瓦当成形は瓦当貼り付け。瓦当凹面から平瓦凹面にかけてミガキ。瓦当凸面から裏面にかけてケズリ後横ナデ。瓦当側面はナデ。	6区火災 処理土坑	近世
瓦21		均整唐草文。中心に下向きの三葉を配し、左右に向かって独立した唐草が2回反転する。	瓦当凹面は横ナデ、凸面はケズリ後にナデ、裏面は横ナデ。平瓦凹面は縦ナデ、凸面はナデ。側面に粘土紐を付けて立ち上がりをつくる。	6区火災 処理土坑	近世
瓦22		均整唐草文。中心に五葉を配し、左右に向かって独立した唐草が3回反転する。第1唐草は中心飾りの下部から派生する。唐草の先端は緩やかに巻き込む。	瓦当成形は顎貼り付け。瓦当凹面はケズリ、凸面はケズリ後にナデ、裏面は横ナデ。顎接合部に横方向のカキメ。	6区火災 処理土坑	近世末
瓦23	棧瓦	軒丸瓦部に右巻三巴文、軒平瓦部に唐草文を配す。唐草文は瓦19と類似する。	軒丸部：瓦当凸面はケズリ、側面はナデ、裏面から丸瓦凹面にかけてナデ。丸瓦凸面は縦ケズリ。軒平瓦部：瓦当凹面は縦ケズリ、凸面はナデ、裏面から平瓦にかけて横ナデ。平瓦凹面は横ナデ、凸面成形台痕跡。	6区火災 処理土坑	近世末
瓦24	鬼瓦	鬼面文。文様部分が欠落しているが髭が認められることから、鬼面の可能性が高い。外区に珠文が巡る。	范で制作し盤面に粘土を盛り上げて鬼面を彫刻する。盤面周縁外ナデ。底面は横ケズリ、裏面ナデ。	6区火災 処理土坑	近世末

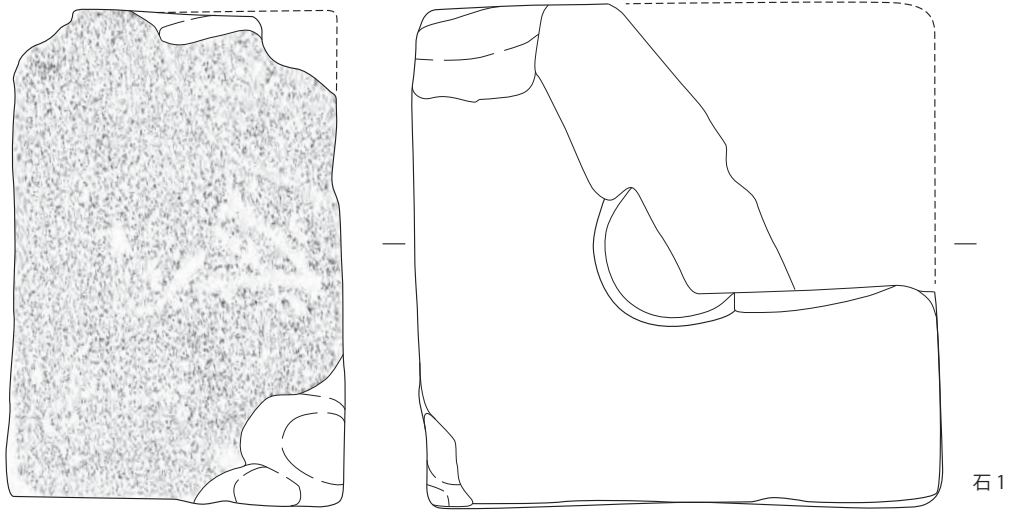
口縁部は外反する。外面にはユビオサエが明瞭に残る。17～22は15層から、23は土坑1から出土した。

**6区（図14）** 土師器、須恵器、瓦質土器、肥前磁器、瓦などが出土した。24は土師器の火鉢底部で、高台径29cmである。内外面ともに煤が付着する。火災処理土坑から出土した。

**7区（図14）** 土師器、瓦質土器、国産施釉陶器、瓦などが出土した。

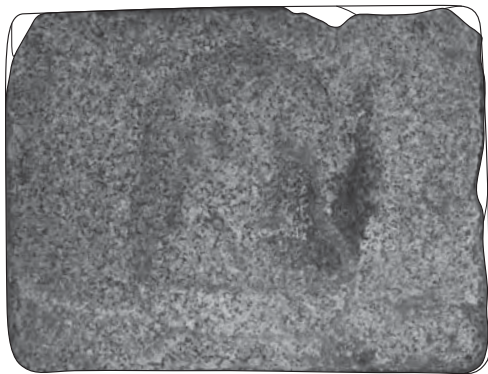
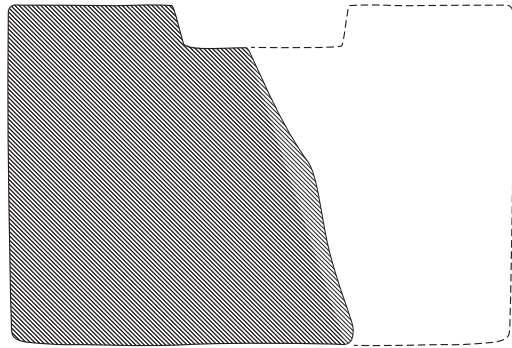
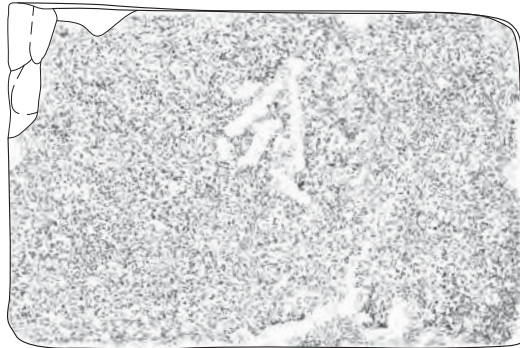
25は鉄釉の仏飯器である。口径6cm、底径3.8cm、器高4.3cmである。26・27は灰釉の小壺である。香炉の可能性もある。28～30は京焼の小皿である。いずれも口径7cmを測る。底部内面に鉄絵で文様を描く。25～30は2層から出土した。

**瓦（図15～17・表2）** 多くの調査区で天明大火に伴う廃棄土坑を確認した。中でも6区の廃棄土坑は規模が大きく、近世本國寺の所用瓦である山号を示す「大光山」銘の軒丸瓦（瓦6～10）、寺名の「本國寺」「本国寺」銘の軒平瓦（瓦14～18）が数多く出土している。瓦の特徴や出土地点については、表2に記述している。



石1

0 20cm



石2

图18 出土石製品 (1 : 6)

**石製品 (図18)** 3区掘削中に、石塔の部材が出土した。石1は五輪塔の地輪で、幅40cm、高さ26～27cm、上面に組み合わせのためのほぞ穴が残る。二面に梵字が残る。石2は層塔の軸部で、幅38cm、高さ28cmを測る。1面に石仏が彫られている。阿弥陀如来と思われる。いずれも花崗岩製である。なお、石1・2については、現地で保管することとなったため、持ち帰っていない。

#### 4. まとめ

調査の結果、1区を除く計画地の大半で、平安時代から江戸時代にかけての遺構が広く展開している様相が把握できた。しかし、当初想定された近世本國寺の堂舎については、駐車場整備に伴う表層改良によって、大きく攪乱を受けており、残存状況は芳しくなかった。一方で仮本堂が所在した3区付近の計画地北東部は改良の影響が少なく、建物跡の痕跡が残る可能性は高い。また、各調査区で天明大火に伴う処理土坑が確認され、「大光山本國寺」「本國寺」「本國寺」銘などの瓦が多数出土した。

近世以前の遺構面の残存状況は良好で、2区で五町内の六条大路内溝（巻頭図版1-1）、5区で猪熊小路東築地（巻頭図版1-2）を確認したほか、室町時代に本國寺が造営された際の整地層が各調査区で確認された。本國寺が当地に所在した期間については、ほぼ全域で中世から近世前半の遺構面が残り、現代の攪乱が少ない北東部では、江戸時代後半の遺構面も良好に残る。

したがって、遺構面は地山上面で1面、平安後期の整地層で1面、本國寺期の3、4面の計5～6面が想定される。遺物についても、隣接地調査で多量に出土しており、計画地内においても同様の様相と想定できる。

（西森 正晃）

#### 註

- 1) 近藤知子「平安京左京七条二坊・本圀寺跡」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、1996年。
- 2) 「平安京左京六条二坊五町・猪熊殿跡・本國寺跡」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所、2012年。

## Ⅱ - 3 平安京左京八条二坊一町跡、東市跡

No.50 (25H027)

### 1. はじめに (図19)

本件は、簡易宿所建設に伴う試掘調査である。調査地は、下京区大宮通木津屋橋上る上之町426-1に位置し、西側が大宮通に面している。周知の埋蔵文化財包蔵地の「平安京跡」及び「東市跡」に該当する。条坊では、左京八条二坊一町跡に比定され、敷地西側には大宮大路東築地心が復元されるとともに、東市の南側外町にあたる。今回の計画建物では、建築面積が小規模であるが改良などによる遺構面への影響が極めて大きいことから、試掘調査を実施することとなった。試掘調査は令和7年6月17日に実施した。調査面積は26㎡である。

周辺では複数調査が行われている。調査1<sup>1)</sup>・2<sup>2)</sup>の発掘調査では、平安時代前期の井戸や柵、平安時代～鎌倉時代の溝や土坑、中世末期～近世の溝や土坑などを確認している。特に、平安時代～鎌倉時代の溝は幅2.05mの南北溝で、大宮大路東築地心より約2m東側の位置にあり、内溝と考えられている。調査3<sup>3)</sup>の試掘調査では、鎌倉時代の南北溝を検出し、東築地心想定位置の西寄りにあることから東側溝と考えられている。今回の調査地においても、周辺調査と同様の遺構が確認できる可能性を想定して調査を実施した。

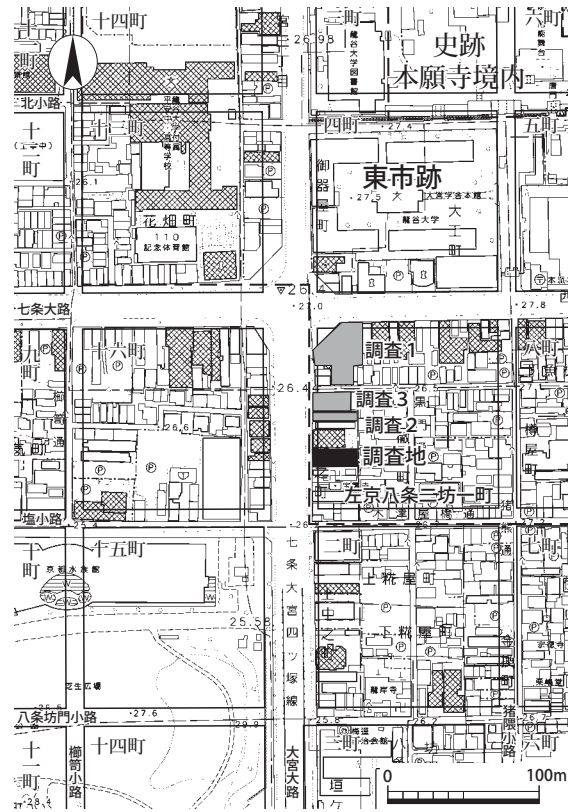


図19 調査位置図 (1 : 5,000)

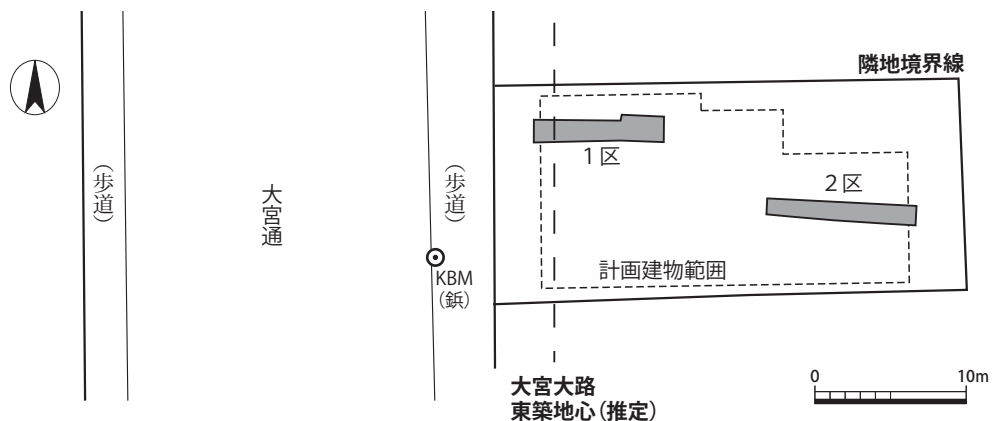
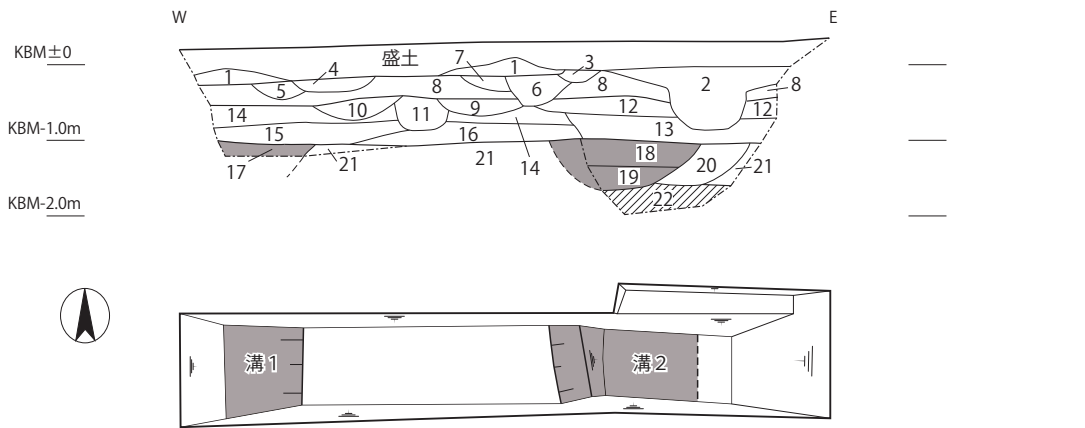


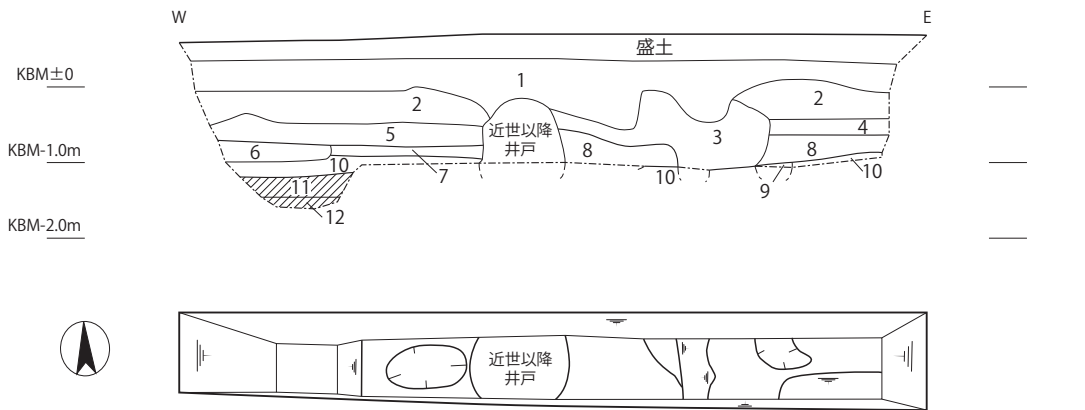
図20 調査区配置図 (1 : 500)

【1区 平面・北壁】



- |                          |                               |               |
|--------------------------|-------------------------------|---------------|
| 1 10YR6/3 にぶい黄橙色砂泥       | 13 2.5Y5/1 黄灰色泥砂              | 【中世整地層】       |
| 2 10YR4/1 褐灰色粘質土【近代土坑】   | 14 2.5Y5/1 黄灰色粗砂混じり砂泥         |               |
| 3 10YR6/6 明黄褐色砂泥         | 15 7.5Y5/1 灰色粗砂混じり泥土          |               |
| 4 10YR4/4 褐色泥砂           | 16 5Y4/2 灰オリーブ色小礫混じり砂泥(固く締まる) | 【溝2】          |
| 5 10YR3/4 暗褐色小礫混じり砂泥     | 17 2.5Y4/1 黄灰色粗砂【溝1】          |               |
| 6 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥【土坑】     | 18 5Y4/1 灰色礫混じり粘質土            | 【溝2】          |
| 7 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土【土坑3】 | 19 5Y3/1 オリーブ黒色礫混じり砂泥         |               |
| 8 10YR5/2 灰黄褐色泥砂【近世整地層】  | 20 10YR5/2 灰黄褐色粘質土【土坑】        | 【平安時代後期以前整地層】 |
| 9 2.5Y5/1 黄灰色砂泥【土坑】      | 21 5Y5/2 灰オリーブ色シルト混じり泥土       |               |
| 10 7.5Y6/1 灰色粘質土【土坑】     | 22 10YR7/8 黄橙色砂礫【地山】          |               |
| 11 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土【土坑】  |                               |               |
| 12 7.5Y5/1 灰色礫混じり砂泥【土坑】  |                               |               |

【2区 平面・北壁】



- |                           |                                |             |
|---------------------------|--------------------------------|-------------|
| 1 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂泥        | 7 10YR4/2 灰黄褐色粘質土              | 【中世整地層】     |
| 2 5Y5/2 灰オリーブ色砂泥【近世後半整地層】 | 8 2.5Y5/1 黄灰色泥砂                |             |
| 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色粗砂混じり泥土   | 9 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土【土坑】          | 【中世末～近世整地層】 |
| 4 5Y4/3 暗オリーブ色粘質土         | 10 5Y6/3 オリーブ黄色砂泥【平安時代後期以前整地層】 |             |
| 5 5Y3/2 オリーブ黒色小礫混じり砂泥     | 11 2.5Y3/2 黒褐色泥土               | 【地山】        |
| 6 10YR5/1 褐灰色泥土【土坑】       | 12 2.5Y5/6 黄褐色細砂               |             |



図21 1・2区平・断面図(1:100)

## 2. 遺構 (図20・21)

調査は、計画建物範囲に対し、東西方向に2箇所(1・2区)の調査区を設けて行った。その結果、平安時代後期～江戸時代初期の整地層及び溝や土坑などを検出した。また、1区では大宮大路東側溝と考えられる鎌倉時代以前の南北溝を確認した。

**1区** 層序は、GL-0.5mで灰黄褐色泥砂で近世整地層、-0.7mで黄灰色泥砂などの中世整地層、-1.3mで灰オリーブ色シルト混じり泥土の平安時代後期以前整地層、-1.9m以下黄橙色砂礫の地山となる。整地層及び地山を切って、土坑や溝などが成立することを確認した。また、灰黄褐色泥砂の近世整地層を切り込む土坑からは、17～18世紀頃の施釉陶器(瀬戸・美濃焼)の皿が出土した。遺構検出は灰オリーブ色シルト質泥土の平安時代後期以前の整地層上面で行い、溝を2条確認した。

溝1は、西端で検出した。南北方向の溝で、幅1.2m以上、深さ0.2m以上である。東肩を検出し、西側は調査区外へと続く。大宮大路東築地心の推定ラインの少し西寄りで確認し、東側溝と考えられる。埋土は黄灰色粗砂である。遺物は出土しなかったが、鎌倉時代の土師器皿が出土している整地層(16層)の下層で検出していることから、鎌倉時代以前の溝とみられる。

溝2は、東側で検出した南北方向の溝で、幅1.8～2.0m、深さ約0.7mである。埋土は上層が灰色礫混じり粘質土、下層がオリーブ黒色礫混じり砂泥である。平安時代末期～鎌倉時代の土師器皿が出土した。大宮大路東築地の内溝と考えられる。

**2区** 層序は、GL-0.6mで灰オリーブ色砂泥の近世後半整地層、-1.1mでオリーブ黒色の小礫混じり砂泥で中世末～近世整地層、-1.3mで灰黄褐色粘質土・黄灰色泥砂の中世整地層、-1.6mでオリーブ黄色砂泥の平安時代後期以前整地層、-1.8m以下黒褐色泥土・黄褐色細砂の地山となる。中世以前整地層上面で遺構検出を行った。近世以降の攪乱などの影響を受けていたが、土坑・ピットを数基確認できた。

## 3. 遺物 (図22)

1は1区溝2(19層)から出土した、土師器皿Nである。12世紀後半～13世紀前半に属する。

2は1区溝2(18層)から出土した、製塩土器である。口径12.6cm、残高5.1cmである。口縁部には粘土紐の痕跡が残る。

3・4は1区中世整地層(16層)から出土した、土師器皿Nである。13世紀に属する。

5は1区中世整地層(12層)から出土した、土師器皿Sである。口径7.8cm、残高1.6cmで

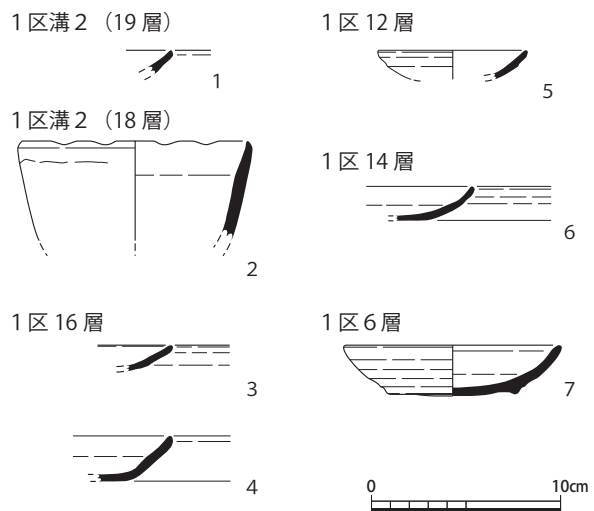


図22 出土遺物(1:4)

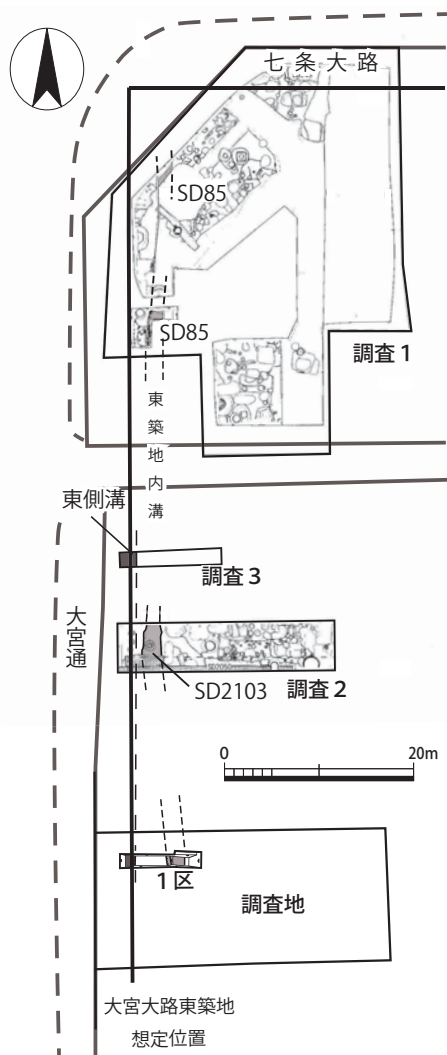


図23 周辺調査との関係（1：800）

註

- 1) 龍谷大学『平安京左京八条二坊一町（東市外町）発掘調査報告書 龍谷大学大宮学舎清風館建設に伴う調査』2009年。
- 2) 龍谷大学『平安京左京八条二坊一町（東市外町）発掘調査報告書 龍谷大学大宮学舎白亜館建設に伴う発掘調査』2011年。
- 3) 京都市文化市民局「Ⅲ-5 平安京左京八条二坊一町跡・東市跡」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成30年度』2019年。

ある。14世紀に属する。

6は1区中世整地層（14層）から出土した、土師器皿Sである。14世紀に属する。

7は1区の土坑（6層）から出土した、施釉陶器（瀬戸・美濃焼）の皿である。口径11.5cm、高さ2.7cmで、全体に長石釉がかかる。内外面に重ね焼きの目痕が残る。17～18世紀に属する。

#### 4. まとめ（図23）

今回の調査で、平安時代後期以前～江戸時代初期の整地層とともに、1区では鎌倉時代以前の溝1と平安時代末期～鎌倉時代の溝2を確認した。調査1～3で見つかる溝と比較すると、溝1は大宮大路東築地推定ラインの少し西寄りにあり、調査3の大宮大路東側溝の南延長上に位置することから、大宮大路東側溝の可能性が高い（図23）。溝2は、調査2の溝よりさらに東側に位置するが、調査1・2で確認した溝が蛇行するため、大宮大路東築地の内溝の可能性が高い。今後、周辺調査が増えることで、大宮大路と溝の関係性が明らかになるだろう。

（八軒 かほり）

### Ⅲ-1 大覚寺古墳群

#### 令和6年度No.81 (24S307)

##### 1. 調査の経緯 (図24)

本件は、共同住宅建設とそれに先立つ造成工事に伴う試掘調査である。調査地は右京区嵯峨大覚寺門前登り町40-3の一部他に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地「大覚寺古墳群」に該当する。大覚寺古墳群は4基の古墳からなり、調査地の南西には古墳群中最大の規模をほこる1号墳(円山古墳)が所在し、淳和天皇の皇后正子内親王の墓候補として、南東に所在する方墳の2号墳(入道塚古墳)とともに明治32(1899)年に陵墓参考地に比定されている。調査地は1号墳の周溝の北端に接するような位置関係にある。本計画では計画地東寄りに共同住宅が建つ予定であるが、敷地全体が造成工事の対象となり、1号墳の周溝想定位置にも擁壁を設ける計画であったため、計画地全体を対象として試掘調査を実施した。調査は令和6年11

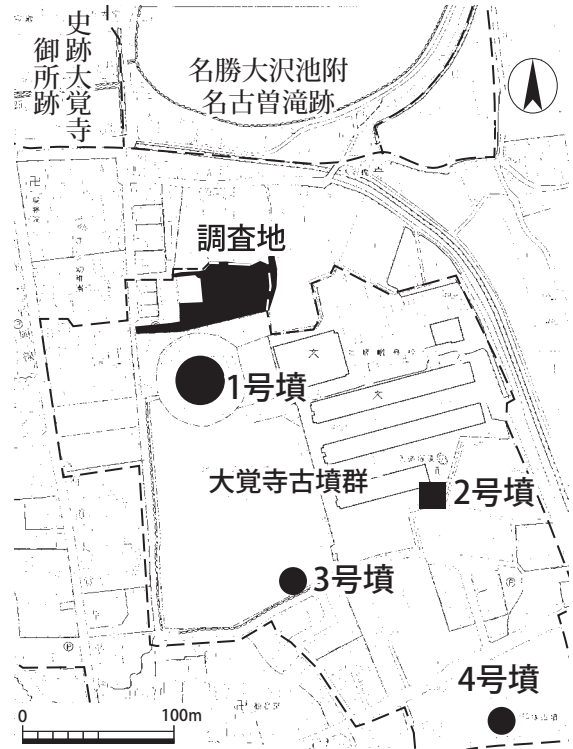


図24 調査位置図 (1 : 5,000)

月13・14日に実施し、調査面積は76㎡である。

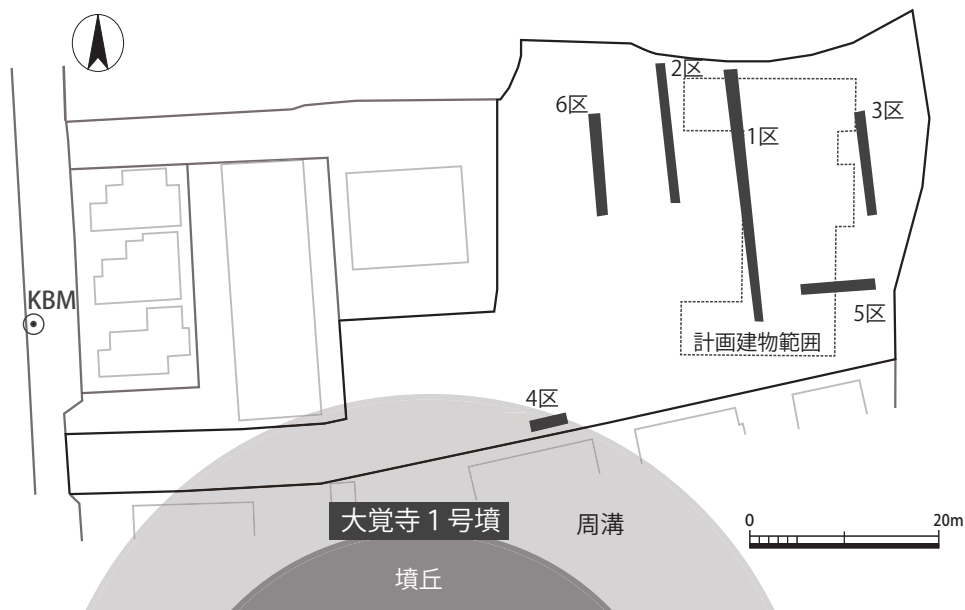


図25 調査区配置図 (1 : 800)

## 2. 遺跡の環境

### (1) 地理的・歴史的環境

調査地が位置する嵯峨野は、調査地の北を南東流する有栖川をはじめとした北方の山麓から流れる複数の川によって形成された、洪積台地や扇状地が広がる緩斜面にある。調査地は歴史的風土保存区域、北嵯峨・嵯峨特別修景地域に含まれ、周囲には田園風景が広がっている。しかしこのような景観は大規模な灌漑が可能となった時代以降に生み出されたものであり、元来は稲作には適さない高燥な土地であった。周辺の台地上や山裾に古墳時代後期の古墳が多数存在するにも関わらず、同時期の集落が展開しないことも耕作に適さない土地であったことを裏付ける。

平安時代になると、文献上で調査地周辺で大規模な開発が行われたことが確認できる。延暦21(802)年に桓武天皇が神野親王(後の嵯峨天皇)の「嵯峨荘」に立ち寄ったことが記録にのこる。承和元(834)年、淳和天皇が嵯峨天皇皇子正良親王に譲位すると、冷泉院から嵯峨上皇が「嵯峨院」に移り、承和9(842)年に崩御するまで離宮として用いられた。その後、貞観18(876)年、清和天皇が「嵯峨院」を仏寺とする勅許を下し、盛衰を経ながら現代まで続く「大覚寺」となる。

### (2) 周辺の調査

これまでに、大覚寺古墳群を対象とした調査は複数行われている。特筆すべき調査は、昭和50年度に京都府教育委員会によって行われた、府立北嵯峨高校建設に伴う発掘調査である<sup>1)</sup>。この調査では1号墳周溝及び2・3号墳の主体部・周溝が調査され、1号墳の周溝が幅13mを測り、平安時代前期に埋没したことや、2号墳が東西25m、南北30mの不整形な方墳であることなどが確認されている。

## 3. 遺跡

### (1) 層序及び概要(図25・26)

調査地は、調査前まで耕作地として使用されており、耕作土・床土の直下が遺構面となる。

**1・2・3・6区** 南北方向に設けた調査区である。0.2～0.4mほどある耕作土・床土の下に、黒褐色ないし灰黄褐色粘質土の無遺物層、黄褐色砂礫ないしオリーブ黄色微砂の地山となる。1区南半・2区では無遺物層がなく、床土直下が地山となる。3区南半では部分的に土壌化層を確認した。無遺物層・地山をそれぞれ切り込む溝を検出した。

**4区** 大覚寺1号墳周溝の検出を目的に設けた調査区である。GL-1.0mで地山を検出したものの、直上まで近代包含層を確認した。周溝は削平されたものと見られる。

**5区** 東西方向に設けた調査区である。GL-0.15mで無遺物層、-0.25mで浅黄色粘質シルトなどの土壌化層、-0.4mで浅黄色シルトなどの地山に至る。土壌化層を切り込む遺構を複数検出したが、

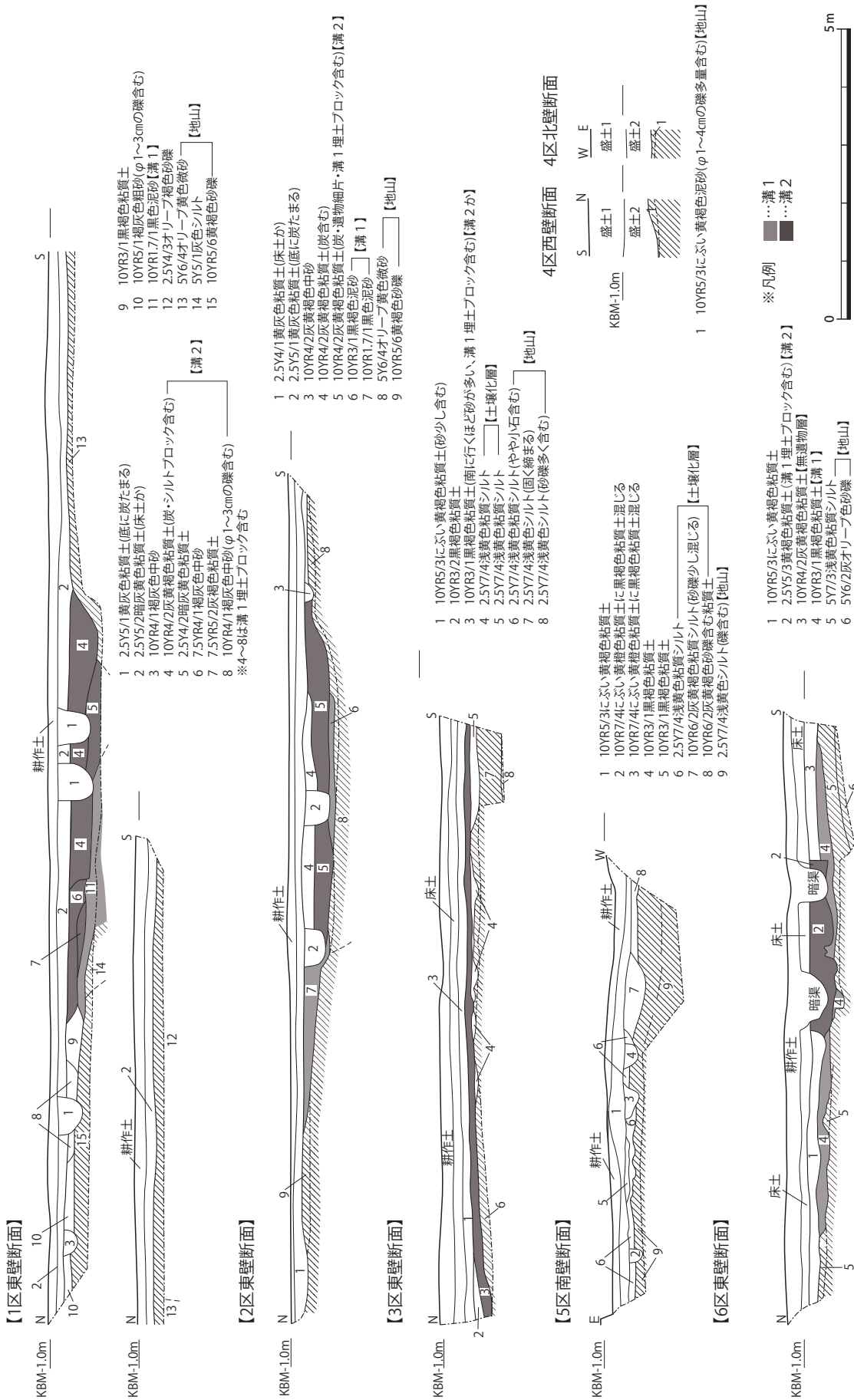


図 26 1~6 区断面図 (1:100)

遺物が出土せず時期は不明である。

各調査区で確認した地山は砂礫ないし微砂・シルトであり、6区北端でKBM-1.22m、5区東端で-1.53mと、北西から南東にかけて緩やかに傾斜する。調査地の北・東を流れる有栖川由来の堆積と考えられる。各調査区とも地山上面で検出を行った。

## (2) 検出遺構 (図26・27)

**溝1** 1・2・6区で検出した東西溝である。地山を切り込んで成立しており、上層は溝2に削平される。最も良好に検出した6区では、南北幅8.5m、深さ0.3mを測る。ただし、2区では検出面からの深さが0.45mであることから上面は削平を受けている可能性が高い。埋土は黒色泥砂ないし黒褐色粘質土の単層である。

**溝2** 1・2・6区で検出した、東西方向の溝である。無遺物層を切り込んで成立している。最も良好に検出した2区では、南北幅7.5m、深さ



図27 1区溝1・2検出状況(北西から)  
器片が出土した。

0.55m以上を測る。埋土は灰黄褐色粘質土や暗灰黄色粘質土が基本となり、いずれも溝1埋土のブロックを含んでいる。なお、3区3層は溝2の埋土とよく似る。3区は溝1の東延長線上に位置しており、同一遺構の可能性はあるが、3区内では肩を検出しておらず、南北幅が10.3mを超えることになる。2区5層、6区2層から土師

## 4. 遺物 (図28)

主に溝1・2から少数の土師器が出土したが、いずれも細片で時期判断が難しいものであった。図化に耐えられた資料を抽出し、報告する。

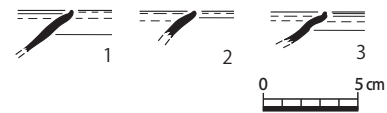


図28 出土遺物(1:4)

1～3は土師器皿Aである。1は残存高2.2cm、2は1.4cm、3は1.7cmを測る。いずれも体部に横ナデを施した後、口縁部を肥厚させるように横ナデを施す。いずれも平安時代前期頃か。1・2は溝2(1:2区5層、2:6区2層)、3は5区5層から出土した。

## 5. まとめ (図29)

本調査では、重複関係にある溝2条を検出した。概ね東西方向に延びるが、検出した調査区によって幅や深度が異なり、上面は削平を受けている可能性がある。また、溝1は地山上面で、溝2は無遺物層上面で成立しており、時期差があることが確認できる。しかし、その性格については判然としない。調査地南側に現存する大覚寺1号墳の周溝は、「黒褐色粘土層」が堆積し、平安時代には埋没したと報告されている。調査当初は溝1・2の埋土がこれに類似し、平安時代と考えられ

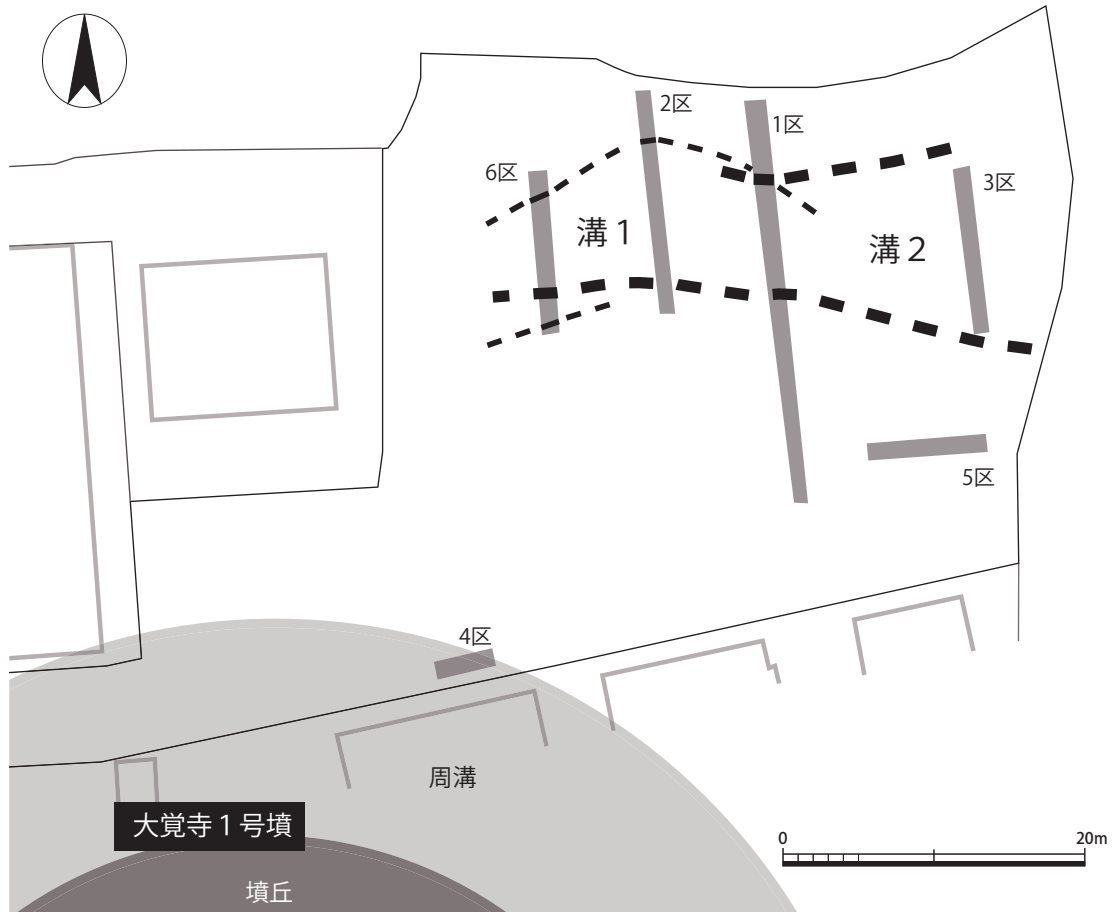


図29 溝1・2想定図(1:500)

る遺物を含んでいることから、未確認の古墳の周溝である可能性を想定して調査を行った。しかし、1・2・6区で確認した溝1北肩の延長線上に位置する5区ではその延長部分が確認できず、墳丘の存在が推定される1区南半では耕作土直下で地山を検出したのみで、古墳の存在を示すものは何も確認できなかった。現状では、調査地に未知の古墳が存在したと評価することは難しい。調査地は平安時代以降、「嵯峨庄」に含まれ、嵯峨院領、後の大覚寺領となる<sup>2)</sup>。嵯峨庄は平安時代初期から開発が行われていたとされており、今調査で検出した溝はこれらの開発に関連する可能性が考えられる。

協議により造成工事は遺跡に影響のない設計に変更され、施工された<sup>3)</sup>。現在、建物計画について取扱いを協議中である。溝1・2の性格については、将来の調査に委ねたい。

(佐藤 拓)

註

- 1) 安藤信策「4 大覚寺古墳群発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘概要(1976)』京都府教育庁指導部文化財保護課、1976年。
- 2) 金田章裕「平安初期における嵯峨野の開発と条里プラン」『条里と村落の歴史地理学研究』1985年。
- 3) 造成工事時に、遺構面が保護されているかの確認のために、令和6年12月23日～翌年1月14日まで詳細分布調査を実施した。調査の結果、遺構面が保護されている状況を確認している。京都市文化市民局「一覧表」『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和7年度』2026年。

## Ⅲ-2 常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡

No.70 (25S180)

### 1. 経緯と経過 (図30)

本件は宅地造成にともなう調査である。調査地は右京区常盤村ノ内町8-12で、丸太町通と城北街道の交差点の北西に位置する。当該地は、常盤東ノ町古墳群及び村ノ内町遺跡にあたる。

御室川扇状地の扇中央部分に該当し、北西にむけて高くなる地形で、周辺では交差点の南東側で円墳4基(常盤東ノ町古墳群：調査①)が調査されているほか、北東の近接地で飛鳥時代の竪穴建物跡(調査②)が確認されている。

試掘調査は令和7年9月1日～3日に行った。調査地には、かつて社宅が建っていた。周辺では比較的浅い位置で遺構面が確認されることが多いことを踏まえ、解体の影響と遺構の遺存状況の確認を目的として、道路部分及び切土範囲に13箇所の調査区を設けた。調査面積は204㎡である。

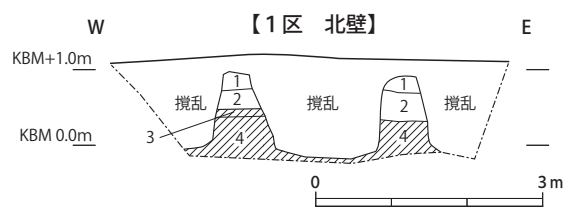


図30 調査位置図 (1 : 5,000)

### 2. 遺構

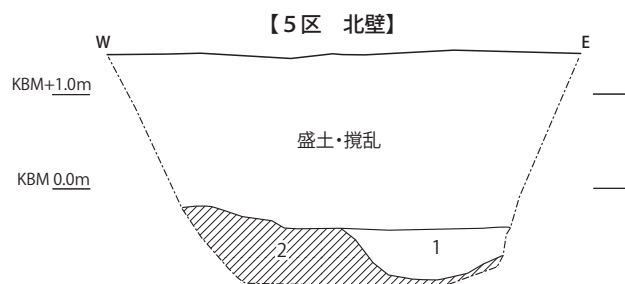
**層序 (図31)** 当該地のほとんどの範囲にはGL-1.0mまで現代攪乱が及んでいた。1区では部分的に地層が残っている範囲があり、そこで得られた基本層序はGL-0.4～-0.7mで黒褐色シルト～細砂の遺物包含層、-0.7～-1.0mでぶい黄褐色細砂～シルトもしくはぶい黄色砂礫の地山となる。このため遺構面の大部分は電電公社等の既存建物によって削平されたと判断した。

ただし4・5・7・12区(図35)では現代攪乱下で平安時代の溝1が遺存して



- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥(小礫多量に含む)
- 2 10YR3/1 黒褐色細砂～シルト
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂～シルト【地山】
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄色砂礫【地山】

図31 1区断面図 (1 : 1,000)



- 1 10YR3/1 黒褐色砂泥(シルト含む)【溝1】
- 2 10YR6/6 明黄褐色砂礫(マンガン沈着)【地山】

図32 5区断面図 (1 : 80)

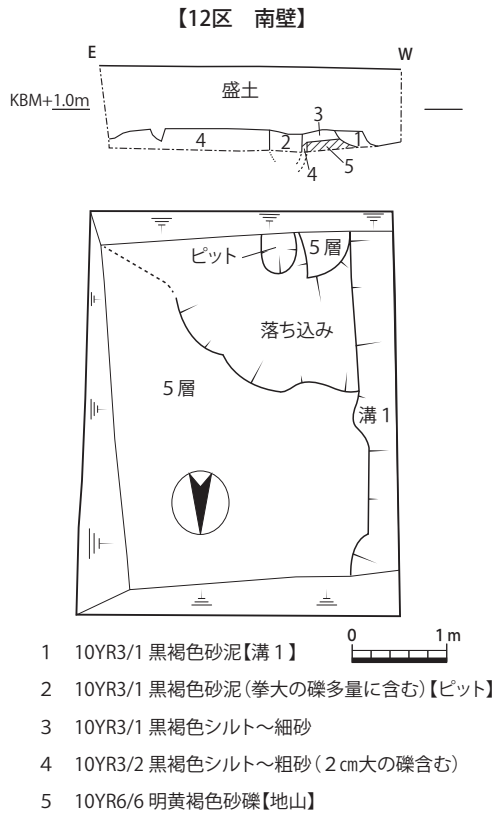


図33 12区平・断面図（1：80）

いたため、5・7・12区で断面の記録を行った。とくに7区は今回の調査の中では比較的遺存状態が良好で、断ち割って断面を記録した。

**溝1（図32～34）** 南北方向に蛇行しながら流れる溝で7区で確認できた幅は3m、深さは1.3mであった。埋土は5層に分かれ、大きくは2層に分かれる。下位の溝埋土である図34-4層は礫を含む黒褐色シルト～細砂で、溝堆積層である。図34-5

層は褐色の極細砂ブロックを含む黄灰色シルトで溝掘削後に埋まった層と考えられる。上位の溝である図34-1・2層は拳大の礫を多量に含む暗褐色及び黒褐色砂泥の埋土である。図34-3層は褐灰色極細砂～細砂の堆積層と考えられる。溝は少なくとも1度の掘り直しが認められた。遺物は細片だが土師器が出土した。

### 3. まとめ（図35）

今回の調査では、対象地の西側で大規模な溝を検出した。溝1は上部を削平されているものの幅約3m、深さは1.3m以上あり、延長距離は40m以上に及ぶ。少なくとも平安時代には存在したと

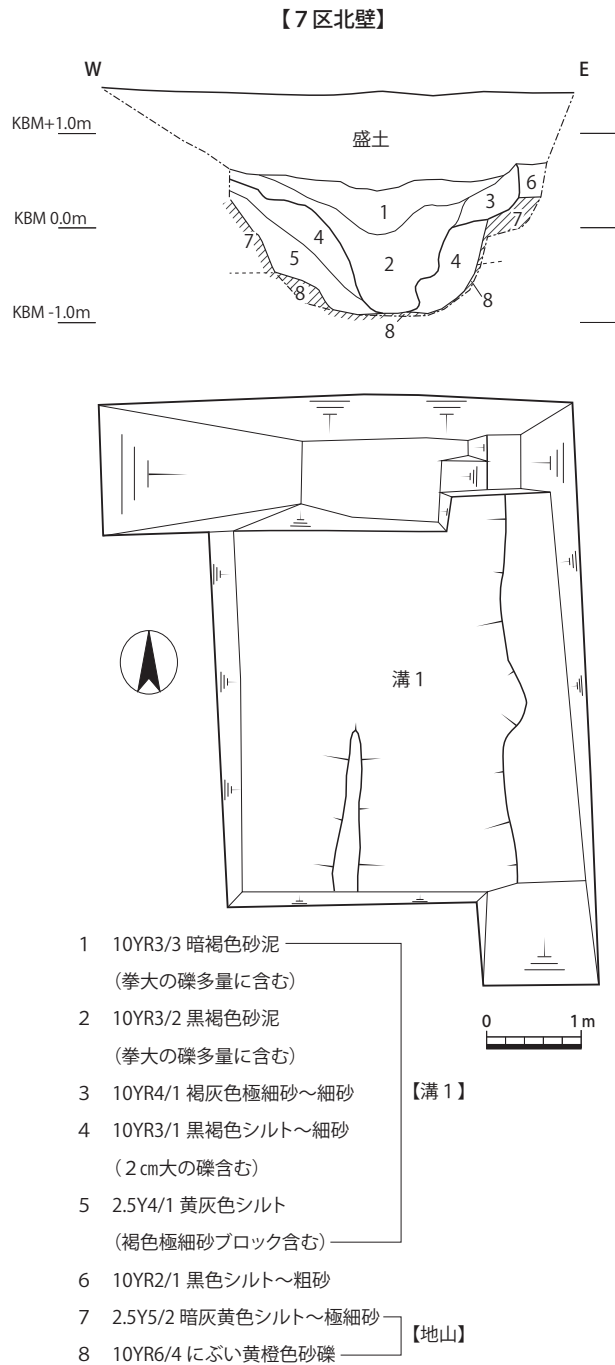


図34 7区平・断面図（1：80）

推定され、上部は埋められていた。令和7年に発掘調査をおこなった調査③では、飛鳥時代から平安時代の灌漑水路が見つかった。この水路は御室川から取水しており、今回確認された溝も規模と方向から平安時代の灌漑水路の一部の可能性がある。これまでの調査では灌漑水路が大規模に検出された例がなかったため推定に終わっていたが、同じような規模の溝を逐次つないでいくことで将来的にはおよその在り方がわかるかもしれない。調査を積み重ねていきたいと考える。

(赤松 佳奈)

参考文献

調査①：(財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤東ノ町古墳群』京都市埋蔵文化財研究所調査報告-I、1977年。

調査②：(財)京都市埋蔵文化財研究所『村ノ内町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2010-3、2010年。

調査③：24S141 京都市文化財保護課が発掘調査実施。現在、報告書作成中。

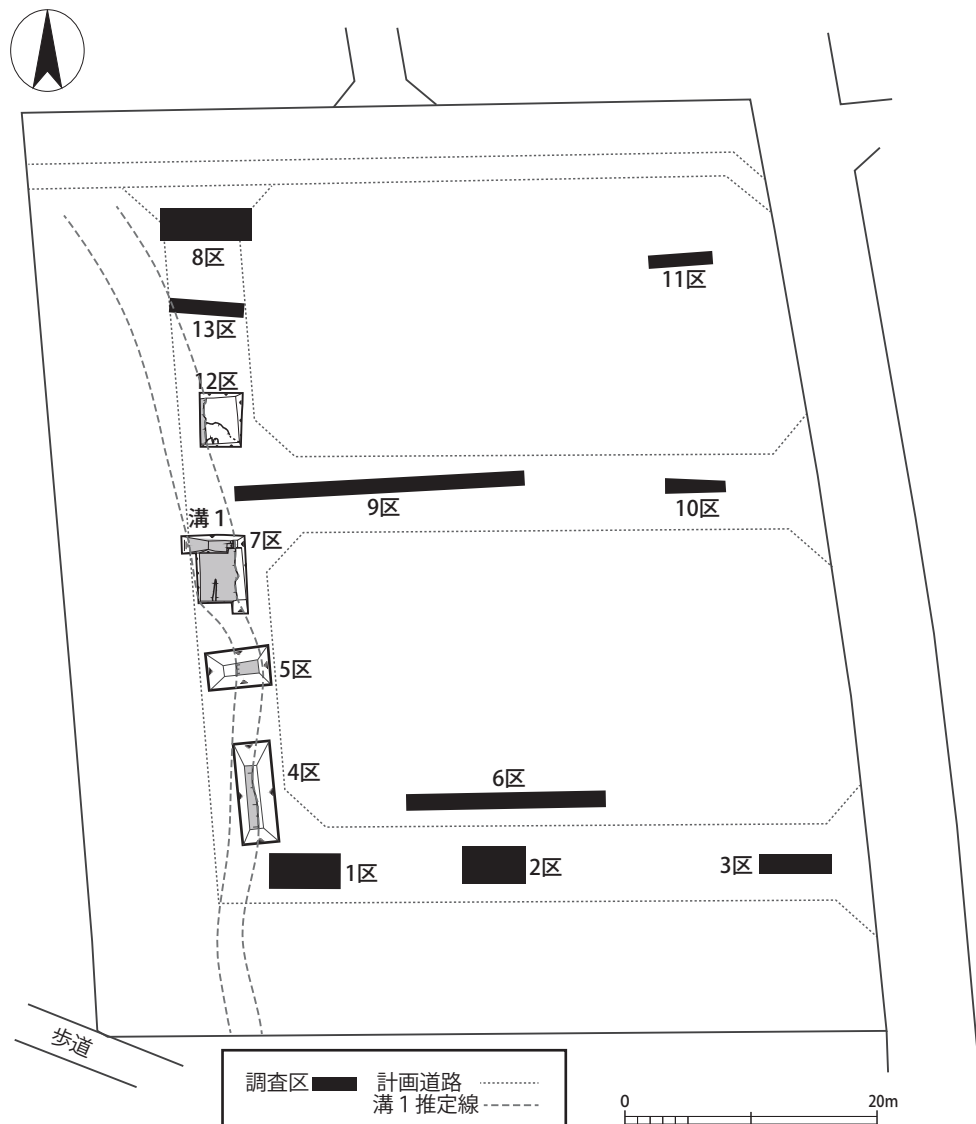


図35 調査区配置及び溝1推定図(1:600)

### Ⅲ-3 広隆寺旧境内、常盤仲之町遺跡

#### 令和6年度No.89 (24S187)

##### 1. はじめに (図36)

本件は、店舗建設に伴う試掘調査である。試掘調査は令和6年度に実施したが、取扱い協議が長引いたことから、令和6年度の報告には一覧表のみ掲載し<sup>1)</sup>、今年度の報告となった。

調査地は右京区太秦東蜂岡町10に所在し、飛鳥時代創建である広隆寺の北東に位置する。周知の埋蔵文化財包蔵地である「広隆寺旧境内」及び「常盤仲之町遺跡」に該当する。テーマパークの再整備に伴い届出がされた2棟の建物(図37-計画建物1・2)を対象に、令和6年9月20・24・25日に試掘調査を実施した。調査区は計画建物内に12箇所設定し、調査面積は合計155㎡である。調査の結果、飛鳥時代～中世の遺構群を良好な状態で検出したことから、事業者と保存協議を行った。その結果、当初の建物計画が変更され、全体として遺構面への抵触が回避された(24S645、24S646)。ただし、当初計画建物1の範囲内で新たに計画された池(25S192)は、部分的に遺構面に抵触する掘削が生じることから、詳細分布調査を実施した。調査期間は令和7年9月1日から30日までに計5箇所で行った。

合わせて、試掘調査で検出した遺構深度を鑑み、敷地内で計画された他の小規模建物計画(24S646)範囲及びインフラ整備(24S364)範囲についても、それぞれ詳細分布調査を実施した。前者は令和7年4月23日から12月10日までに計16箇所、後者は令和6年10月15日から令和7年5月13日までに計35箇所で行った。本報告では、試掘調査結果と合わせて、この3件に係る詳細分布調査(25S192、24S646、24S364)の成果も報告する。

合わせて、試掘調査で検出した遺構深度を鑑み、敷地内で計画された他の小規模建物計画(24S646)範囲及びインフラ整備(24S364)範囲についても、それぞれ詳細分布調査を実施した。前者は令和7年4月23日から12月10日までに計16箇所、後者は令和6年10月15日から令和7年5月13日までに計35箇所で行った。本報告では、試掘調査結果と合わせて、この3件に係る詳細分布調査(25S192、24S646、24S364)の成果も報告する。

調査地内北東で実施された発掘調査(図36-調査1)では、古墳時代～飛鳥時代の竪穴建物・柱穴、平安時代～鎌倉時代の柱穴・土坑・溝、室町時代～江戸時代の土坑・溝などを確認している<sup>2)</sup>。平安時代～鎌倉時代、室町時代の溝は東西方向の溝で、西側の調査区外へと続く。北側で実施された発掘調査(図36-調査2)では、飛鳥時代～奈良時代の溝・竪穴建物、平安時代の土坑などの遺構・遺物を確認し、鎌倉時代の遺物も出土している<sup>3)</sup>。南側で実施された発掘調査(図36-調

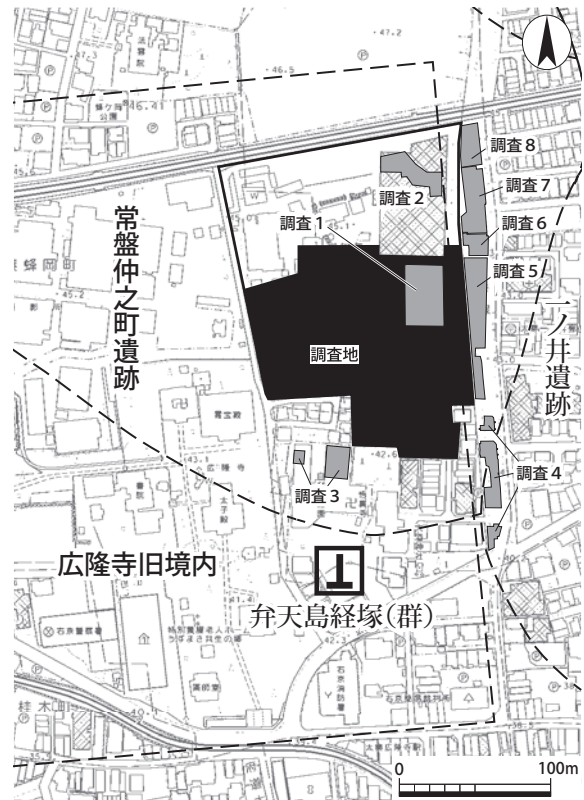


図36 調査位置図(1:5,000)

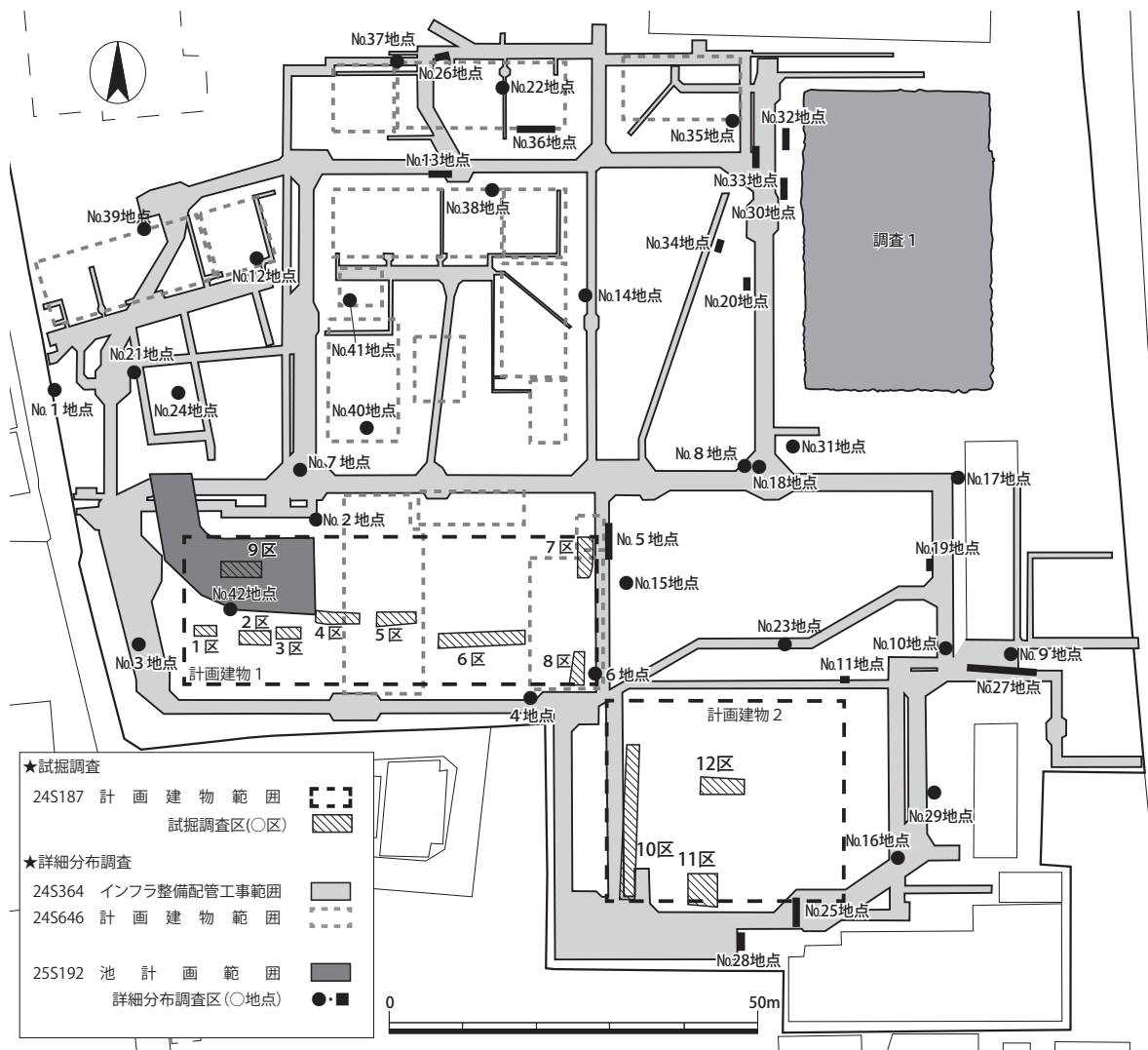


図37 調査区配置図（1：1,000）

査3）では、平安時代中期～後期の溝・土坑、中世～近世の土坑などを確認している<sup>4)</sup>。このうち、平安時代中期のL字形に曲がる溝は、広隆寺に関連する区画溝と考えられており、溝の北側で平安時代中期頃の土師器が含まれた廃棄土坑が見つかった。また、東側で実施された発掘調査（図36-調査4～8）では、飛鳥時代以前の竪穴建物、奈良時代の掘立柱建物、平安時代の区画施設・溝・土坑、鎌倉時代～室町時代の溝・土坑などを確認している<sup>5)</sup>。以上から周辺調査で古墳時代～室町時代にかけての遺構・遺物を確認し、長期に渡って土地利用がされていたことが明らかになっている。今回の調査地でも同様の遺構が想定される。

## 2. 層序と遺構（図37）

調査地の地表面は北側で標高44.3m、南側で標高43.1mで、北から南に向かって緩やかに傾斜する。以下、試掘調査と詳細分布調査に分けて述べる。

### （1）試掘調査（24S187）（図38・39）

調査は、計画建物範囲1に9箇所（1～9区）、計画建物範囲2に3箇所（10～12区）の調査区

を設けて実施し、飛鳥時代～中世の溝・土坑・ピットなどを確認した。以下、4・6～9区、10・11区に分けて、主要な遺構について述べる。

**4・6～9区 (図38)** 地表面は標高43.5～43.8mである。一部攪乱の影響もあるが、代表して6区でみると、盛土以下、GL-0.4mで暗褐色細砂混じり粘質土の近世整地層、-0.6mで暗褐色礫混じりシルトの中世整地層、-0.7mでにぶい黄色砂礫の地山となる。また、4区についてはGL-0.8mで灰黄褐色砂質土の近世整地層、-1.0mで黒褐色泥砂の鎌倉時代以前整地層、-1.2mで黒色砂礫の地山となる。地山は北東側の7区で標高約42.8m、南西側の4区で標高約42.0mで、南西に向かって下る。鎌倉時代以前・中世整地層及び地山を切って成立する溝・土坑などを確認した。

6区中央の地山上面で検出した平安時代の溝1は、南北方向の溝である。北で西に7°傾く。幅2.6m、深さ0.2m以上で、埋土は暗褐色礫混じり粘質土である。平安時代の須恵器・黒色土器が出土した。7区北側の地山上面で検出した平安時代の溝2は、東西方向の溝である。正方位を向く。幅1.1m、深さ0.2m以上で、埋土は暗褐色細砂混じり砂質土である。平安時代の瓦が出土した。

4区の地山上面で検出した中世以前の土坑3は、東西2.0m以上、南北0.8m以上の半円形で、埋土は褐色小礫混じり粘質土である。8区の西壁で、地山上面で成立する中世以前ピット4を確認した。幅0.4m、深さ0.4mである。埋土は暗褐色微砂混じりシルトで、土師器細片が出土した。

9区の地山上面で検出した鎌倉時代の溝5は、北東～南西方向の溝である。北で東に60°傾く。幅0.6m、深さ0.2mである。埋土は暗褐色細砂混じりシルトである。鎌倉時代の土師器が出土した。4区南壁で、鎌倉時代以前の整地層を切って成立する鎌倉時代のピット6を確認し、幅0.5m、深さ0.2mである。鎌倉時代の土師器が出土した。

**10・11区 (図39)** 地表面は標高43.1～43.4mである。層序は攪乱の影響はあるが、代表して10区でみると、盛土以下、GL-0.4mで暗褐色粘質土の近世整地層、-0.7mで黒褐色礫混じりシルトの中世整地層、-1.0mで褐色微砂混じり粘質土～砂礫の地山となる。中世整地層及び地山を切って成立する落込みや土坑、ピットなどを確認した。

10区南側の地山上面で落込みや土坑などを確認した。飛鳥時代の土坑6は、径0.8mの半円形である。埋土は黒褐色細砂混じりシルトである。飛鳥時代の土師器が出土した。平安時代中期の土坑7は、径1.2mの半円形で、埋土は黒褐色細砂混じりシルトである。平安時代前期～中期の土師器が出土した。時期不明の落込み8は、東西0.5m以上、南北4.7m以上の長方形である。埋土は暗褐色礫混じり砂質土である。遺物は出土しなかった。他にも、整地層を切って成立する土坑や、地山を切って成立する根石を持つピットなどを確認した。

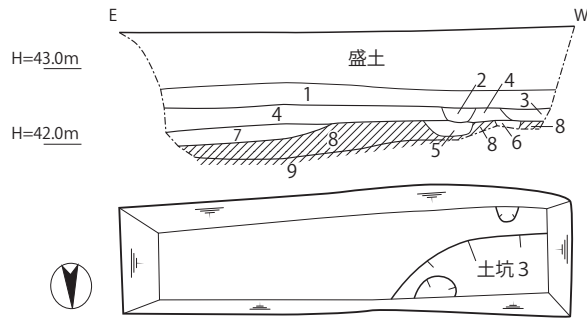
11区は遺構の密度はそれほど高くないが、径0.5mの円形状のピットを数基確認した。

## (2) 詳細分布調査 (24S364、24S646、25S192)

(表3・図40～42)

インフラ整備、計画建物、池計画に伴う詳細分布調査で、層序や遺構が確認できた地点を取り上

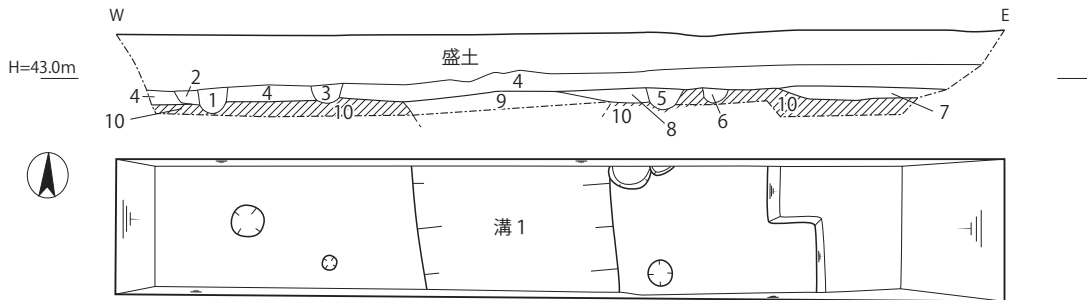
【4区 南壁】



【4区 土色】

- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂質土【近世遺物包含層】
- 2 10YR3/1 黒褐色泥砂(炭含む)【ピット6】
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂(炭含む)【土坑】
- 4 10YR3/2 黒褐色泥砂(拳大の砂少量含む)
- 【鎌倉時代以前整地層】
- 5 10YR3/3 暗褐色砂礫(地山ブロック含む)【土坑】
- 6 10YR4/4 褐色小礫混じり粘質土【ピット】
- 7 10YR4/2 灰黄褐色砂礫(地山ブロック含む)
- 8 10YR2/1 黒色砂礫
- 9 10YR5/6 黄褐色シルト

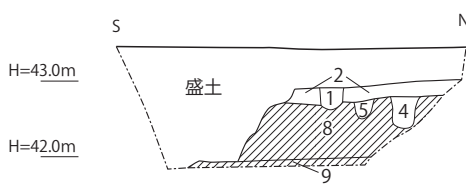
【6区 平面・北壁】



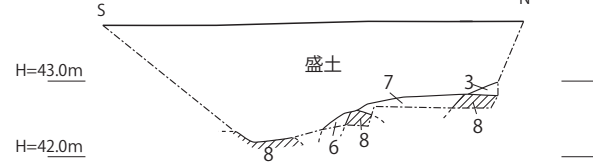
【6区 土色】

- 1 10YR3/2 黒褐色微砂混じりシルト【ピット】
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト【ピット】
- 3 10YR2/3 黒褐色微砂混じりシルト(土器器細片)【ピット】
- 4 10YR3/3 暗褐色細砂混じり粘質土(土器器細片)【近世整地層】
- 5 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【ピット】
- 6 10YR3/2 黒褐色礫混じりシルト【ピット】
- 7 10YR3/3 暗褐色礫混じりシルト【中世整地層】
- 8 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【土坑】
- 9 10YR3/3 暗褐色礫混じり粘質土【溝1】
- 10 2.5Y6/4 にぶい黄色砂礫【地山】

【8区 西壁】

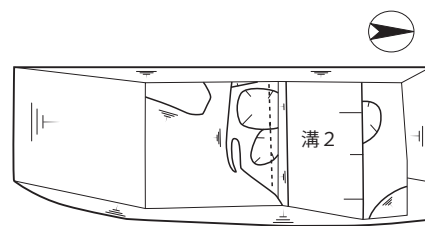


【7区 平面・西壁】

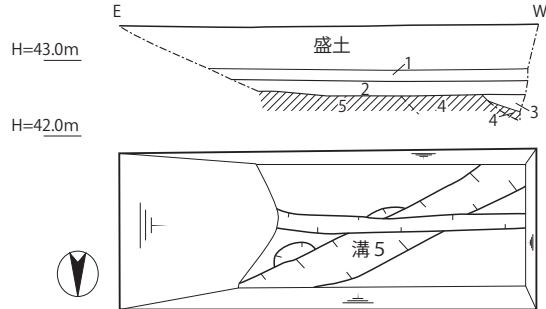


【7・8区 土色】

- 1 10YR3/2 黒褐色粗砂混じりシルト【ピット】
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色微砂混じりシルト
- 3 10YR3/3 暗褐色微砂混じりシルト
- 4 10YR3/3 暗褐色微砂混じりシルト(炭含む)(土器器細片)【ピット4】
- 5 10YR4/2 灰黄褐色細砂混じりシルト
- 6 10YR3/2 黒褐色微砂混じりシルト
- 7 10YR3/3 暗褐色細砂混じり砂質土【溝2】
- 8 10YR4/4 褐色微砂混じり粘質土
- 9 10YR3/2 黒褐色砂礫



【9区 平面・南壁】



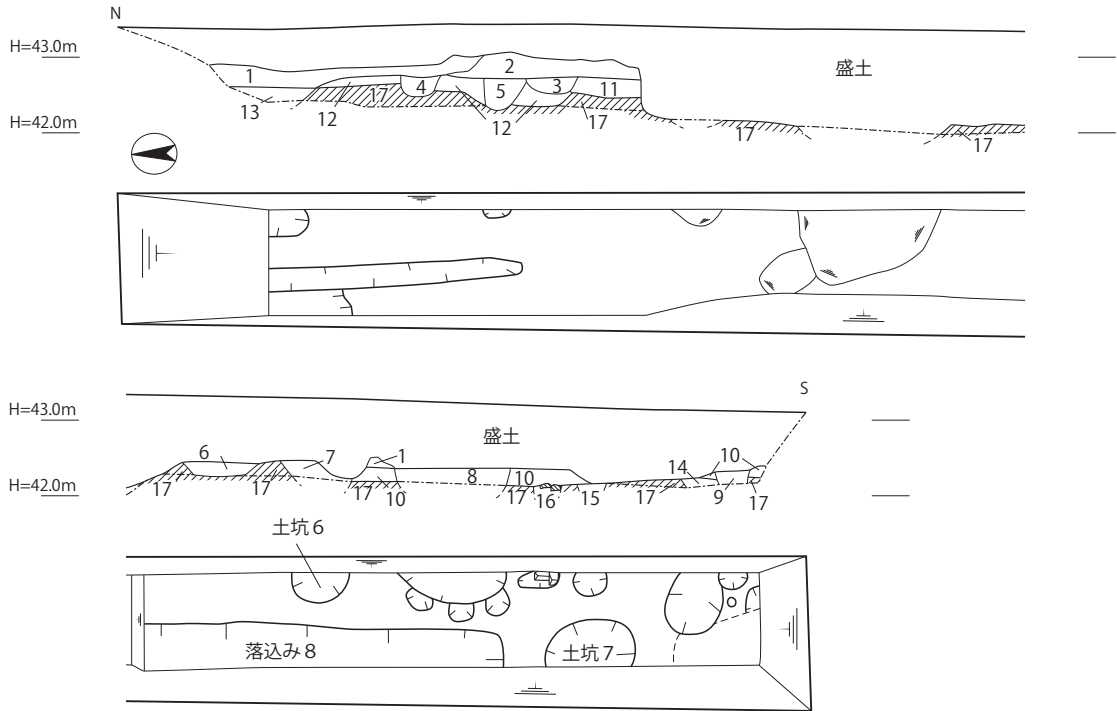
【9区 土色】

- 1 10YR3/3 暗褐色粗砂混じりシルト
- 2 10YR3/2 黒褐色微砂混じり粘質シルト(炭含む)【中世整地層】
- 3 10YR3/3 暗褐色細砂混じりシルト(炭含む)【溝5】
- 4 2.5Y5/4 黄褐色砂質土
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫



図38 4・6～9区平・断面図(1:100)

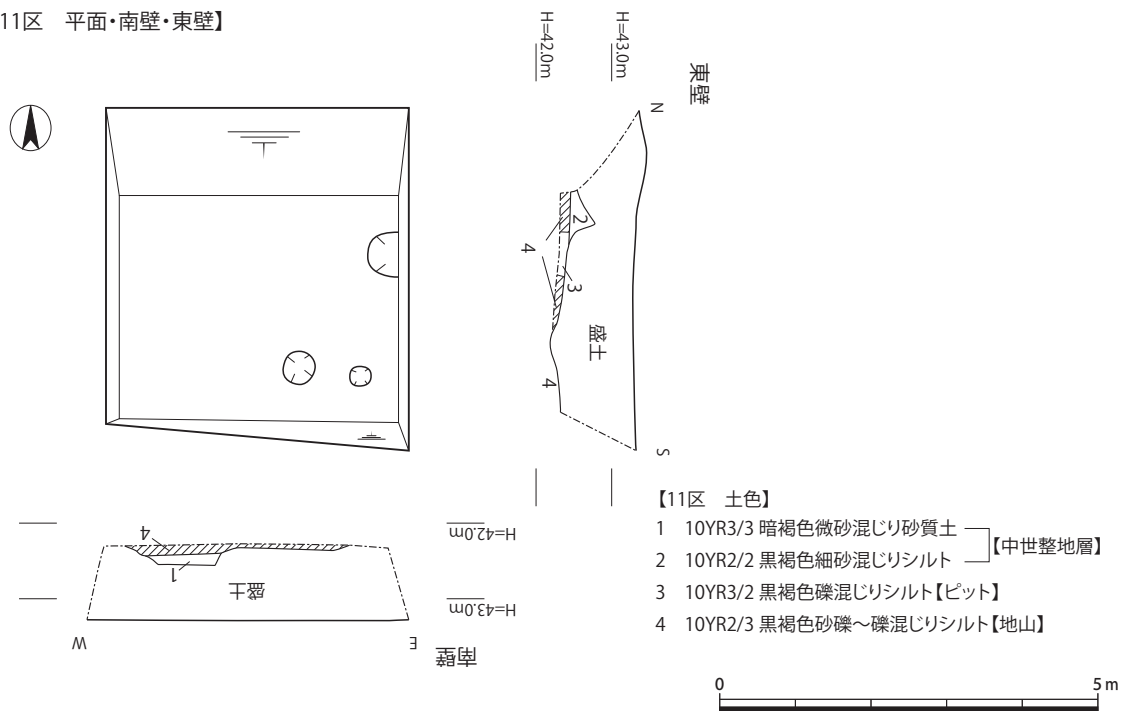
【10区 平面・東壁】



【10区 土色】

- |                             |                                      |         |
|-----------------------------|--------------------------------------|---------|
| 1 10YR3/3 暗褐色粘質土【近世整地層】     | 10 10YR3/2 黒褐色砂質土                    | 【中世整地層】 |
| 2 10YR3/2 黒褐色礫混じり砂質土        | 11 10YR2/2 黒褐色細砂混じり砂質土               |         |
| 3 7.5YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【ピット】 | 12 10YR3/2 黒褐色礫混じりシルト                |         |
| 4 7.5YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【ピット】 | 13 10YR3/3 暗褐色砂質土【土坑】                |         |
| 5 7.5YR2/1 黒色細砂混じりシルト【ピット】  | 14 10YR3/4 暗褐色礫混じり砂質土(焼土・炭多量に含む)【土坑】 |         |
| 6 7.5YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【土坑】  | 15 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【ピット】          |         |
| 7 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト【土坑6】  | 16 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト(根石有)【ピット】     |         |
| 8 10YR3/2 黒褐色細砂混じり粘質土【土坑】   | 17 10YR4/4 褐色微砂混じり粘質土～砂礫【地山】         |         |
| 9 2.5Y3/2 黒褐色細砂混じり粘質土【ピット】  |                                      |         |

【11区 平面・南壁・東壁】



【11区 土色】

- |                             |         |
|-----------------------------|---------|
| 1 10YR3/3 暗褐色微砂混じり砂質土       | 【中世整地層】 |
| 2 10YR2/2 黒褐色細砂混じりシルト       |         |
| 3 10YR3/2 黒褐色礫混じりシルト【ピット】   |         |
| 4 10YR2/3 黒褐色砂礫～礫混じりシルト【地山】 |         |

図39 10・11区平・断面図(1:100)

げて、図37及び表3に示した。なお、番号は改めて付け直している。平安時代～室町時代の落込み・溝・土坑などを確認した。広い範囲で調査を行ったため、北側・西側・南西側に分けて主要な成果について述べる。

**北側 (図40)** No.13・14・20・22・26・30・32・33・34・35・36・37・38地点で調査した。地表面は北のNo.22地点で標高44.3m、南側のNo.34地点で標高43.9mで、北から南に向かって傾斜する。No.22地点の層序では、盛土以下、GL-0.55mで暗褐色粗砂混じりシルト、極暗褐色粗砂混じりシルトの中世整地層、-0.95mで褐色粘土質シルトの地山を確認した。No.33地点の層序は、盛土以下、GL-0.6mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.8mで橙色粘質土、明黄褐色砂礫の地山である。

No.13地点南壁で、平安時代整地層を切って成立する平安時代、中世以前の落込みを確認した。平安時代の落込み1は、幅1.9m、深さ0.5～0.7mで2段落ちになっている。埋土は褐色泥砂である。平安時代の須恵器・白磁が出土した。中世以前の落込み2は土坑に切られていたが、幅0.7m以上、深さ0.4mを確認した。埋土は褐色泥砂である。

No.36地点南壁で、地山を切って成立する中世以前の落込み3を確認した。西側は攪乱の影響を受けているため全体像は不明であるが、「く」の字にまがる東肩で、長さ4.8m以上、深さ0.2m以上を検出した。埋土は灰褐色粘質土である。遺物は出土しなかったため明確な時期は不明であるが、No.36地点1層の中世整地層の下層である、遺構が地山を切って成立していることと、調査2で竪穴建物が確認されていることから考えて、中世以前の竪穴建物の南東角を検出した可能性がある。

No.26地点東壁で、地山を切って成立する中世以前の土坑4を確認した。幅1.3m、深さ0.8mで、埋土は暗褐色細砂混じり粘質土シルトである。遺物は出土しなかった。

No.33地点西壁で、地山を切って成立する平安時代～鎌倉時代の溝5を確認した。幅1.3m、深さ0.3mで、埋土は暗灰黄色礫混じり砂泥である。直上に暗灰黄色砂泥の落込みを確認したが、溝との関係は不明である。調査1の溝300の西延長上にあるため、平安時代～鎌倉時代の溝と考える。

No.32地点東壁で、地山を切って成立する鎌倉時代の土坑6を確認した。幅2.2m、深さ0.6mで、埋土は上層がにぶい黄褐色砂泥、下層が灰黄色泥砂である。飛鳥時代～奈良時代の須恵器、鎌倉時代の土師器などが出土した。

No.30地点東壁で、地山を切って成立する時期不明の土坑7は、幅2.7m、深さ0.4mで、埋土はにぶい黄橙色泥砂である。遺物は出土しなかったため明確な時期は不明である。

No.34地点の東壁で、地山を切って成立する時期不明の土坑8は幅0.4m、深さ0.5mで、埋土はにぶい黄褐色砂質土である。土師器細片が出土したが時期は不明である。

**西側 (図41)** No.1・2・3・12・21・24・39・40・41・42地点で調査した。地表面は北側のNo.41地点の標高約43.9m、南側のNo.42地点の標高43.6mで、北から南に向かって緩やかに傾斜する。このエリアで遺構は検出していないが、時期不明または中世の整地層が確認できた。

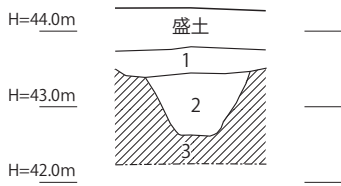
No.41地点の層序は、盛土以下、GL-0.3mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明整地層、-0.5mで明褐

表3 詳細分布調査地点一覧表

○地点	調査概要	受付番号
No.1	GL-0.68 mで暗褐色砂質土（土師器）、-0.99 m～-1.28 mで黄褐色シルトの地山。	24S364
No.2	GL-0.5 mで褐灰色粘質土の近世整地層、-0.65 mでにぶい黄褐色泥砂の近世整地層、-0.85 m～-0.9 mで黄褐色砂礫の地山。	
No.3	GL-1.05 mで暗褐色粘質土の時期不明整地層、-1.25 m～-1.98 mで明褐色粘質土の地山。	
No.4	GL-1.21 mで黄褐色微砂の地山、-1.36 mで褐色粗砂、-1.59 m～-1.97 mでの礫混じり黒褐色粗砂。	
No.5	GL-0.5 mで褐色粘質土、-0.7 mで暗褐色粘質土の中世整地層（土師器）、-1.0 mで明黄褐色粘質土の地山を切って灰褐色粘質土の平安溝、-1.22 m～-2.2 mで黒褐色粗砂。	
No.6	GL-1.02 mで明黄褐色粘質土の地山、-1.26 mで明褐色中砂、-1.39～-2.89 mで極暗赤褐色砂礫。	
No.7	GL-0.52 mで暗褐色粘質土の時期不明包含層、-0.63 mで浅黄褐色砂礫の地山、-1.06 mで黄褐色粘質土、-1.46 m～-2.16 mで浅黄褐色砂礫。	
No.8	GL-0.61 mで褐色粘質土の飛鳥遺物包含層（土師器）、-0.94 m～-1.94 mでにぶい褐色砂礫、黄褐色粘質土の地山。	
No.9	GL-1.56 mで明褐色径1～3cmの礫混じり粗砂、-1.9～-2.13 mで橙色粗砂。	
No.10	GL-1.07 mでにぶい黄褐色粘質土、-1.2 mで黄褐色砂礫の地山。	
No.11	GL-1.84 mで褐色粘質土の近世整地層、-2.1 mで黄褐色粘質土の地山を切って暗褐色泥砂の鎌倉ピット。	
No.12	GL-1.88 mで黄褐色細砂の地山、-2.1～-2.3 mまでにぶい褐色砂礫。	
No.13	GL-0.5 mでにぶい褐色泥砂の中世整地層、-0.68 mで橙色泥砂の平安時代整地層を切って褐色泥砂の平安、中世以前落込み、-1.0 mでにぶい褐色砂礫の地山。	
No.14	GL-1.0 mで褐色粘質土、-1.19 mでにぶい褐色砂礫の地山。	
No.15	GL-0.7～-0.79 mで明黄褐色シルト。	
No.16	GL-1.2 mで褐灰色泥砂、-1.34 mでにぶい赤褐色粘質土、-1.77 m～-1.98 mまで明褐色砂礫。	
No.17	GL-0.76 mで暗褐色泥砂（土師器）、-0.93 mでにぶい黄褐色泥砂、-1.06 mで明黄褐色砂礫の地山、-1.32～-1.76 mまで黄褐色砂礫。	
No.18	GL-0.55 mで灰黄褐色砂泥、-0.7 mで褐色砂泥（土師器）、-0.99 mで明黄褐色砂礫、-1.52～-1.81 mで明黄褐色シルト。	
No.19	GL-0.72 mでにぶい黄褐色砂泥、-0.9 mで明黄褐色砂礫の地山を切ってにぶい黄褐色砂泥の室町落込み（土師器、瓦）。	
No.20	GL-0.42 mで灰黄褐色泥砂、-0.6 mでにぶい褐色粗砂の地山、-0.90 mで灰褐色砂礫、-1.18 mで黒褐色砂礫、-1.34 mで暗灰黄色粗砂。	
No.21	GL-0.51 mでにぶい褐色粘質土、-0.93 mで褐色泥砂、-0.96～-1.04 mまで橙色砂礫の地山。	
No.22	GL-0.58 mで暗褐色粗砂混じりシルトの中世整地層、-0.82 mで極暗褐色粗砂混じりシルトの中世整地層、-0.92 mで褐色粘土質シルトの地山。	
No.23	GL-0.59 mで黄褐色砂泥、-0.75 mでにぶい黄褐色砂泥、-0.95 mで灰黄褐色砂泥、-1.05～-1.29 mで明黄褐色礫混じりシルトの地山。	
No.24	GL-1.59 mで灰黄褐色粘土、-0.78 mで褐灰色砂泥、-0.89～-1.07 mで黄褐色礫混じりシルトの地山。	
No.25	GL-1.0 mで暗褐色粗砂混じり粘土質シルトの近世整地層、-1.3 mで暗褐色細砂混じり粘土質シルトの中世整地層、GL-1.45 mで褐色礫混じりシルトの地山、-1.75～-1.85 mで褐色砂礫。	
No.26	GL-0.5 mで暗褐色粗砂混じり粘土質シルトの中世整地層、-0.85 mで黄褐色砂礫～礫混じりシルトの地山を切って暗褐色細砂混じり粘土質シルトの中世以前土坑。	
No.27	GL-1.0 mで黒褐色細砂混じりシルトの近世整地層、-1.2 mでにぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの室町整地層、-1.3 mで褐色礫混じり粘質シルトの地山を切って暗褐色粗砂混じりシルトの鎌倉土坑・ピット。	
No.28	GL-0.96 mで暗オリーブ褐色泥砂の近世整地層、-1.18 mで黄褐色礫混じり泥砂の中世整地層、-1.35 mで明褐色粘質土、浅黄褐色砂礫の地山を切って平安土坑（土師器）。	
No.29	GL-0.5 mで緑灰色粘土、-0.9 mで黄褐色砂礫の地山。	
No.30	GL-0.55 mで灰黄褐色泥砂の時期不明包含層を切って明黄褐色泥砂などの土坑、-0.7～-1.55 mで淡黄色礫混じりシルトを切ってにぶい黄褐色泥砂の土坑。	
No.31	GL-0.75 mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.95～-1.45 mで明褐色砂礫の地山。	
No.32	GL-0.57 mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.8 mで淡黄色礫混じりシルトの地山を切ってにぶい黄褐色泥砂などの鎌倉土坑、-1.45 mで明黄褐色砂礫の地山。	
No.33	GL-0.65 mで灰黄褐色泥砂の時期不明整地層、-0.75 mで褐色粘質土、明黄褐色砂礫の地山を切って暗灰黄色礫混じり砂泥の平安～鎌倉東西溝。	
No.34	GL-0.51 m～-1.21 m 淡黄色礫混じりシルトの地山を切ってにぶい黄褐色砂質土の土坑。	
No.35	GL-0.54～-0.61 mで褐色粘質土。	
No.36	GL-0.24 mで褐色粘質土の中世整地層、-0.45 mで褐色粘質土の地山を切って灰褐色粘質土の中世以前落込み。	
No.37	GL-0.56～-0.7 mまで明褐色シルトの地山。	
No.38	GL-0.45 m～-0.54 mまで褐色泥砂（土師器細片）	24S646
No.39	GL-0.38 mで褐色泥砂の土壌化層、-0.58～-0.68 mまで明黄褐色礫混じり砂泥の地山。	
No.40	GL-0.37～-0.61 mでにぶい黄褐色砂泥。	
No.41	GL-0.33 mでにぶい黄褐色砂泥の時期不明整地層、-0.48 mで明褐色礫混じり粘質土の地山。	
No.42	GL-0.82～-0.99 mで暗褐色粘土質シルトの中世整地層。	25S192

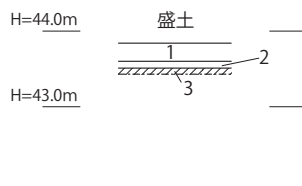
《北側調査地点》

【No.26地点 東壁】



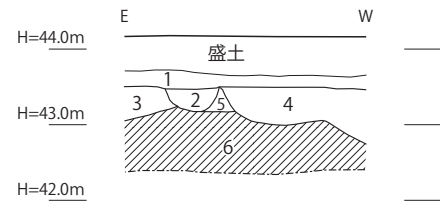
- 1 10YR3/4 暗褐色粗砂混じり粘土質シルト (径 1 cm大礫少量含む)【中世整地層】
- 2 10YR3/3 暗褐色細砂混じり粘土質シルト (径 3 cm大礫少量含む、やや締まり悪い)【土坑 4】
- 3 10YR5/6 黄褐色砂礫～礫混じりシルト【地山】

【No.22地点 南壁】



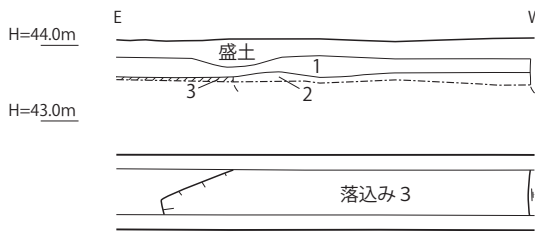
- 1 7.5YR3/3 暗褐色粗砂混じりシルト (径 2 cm大礫少量含む)【中世整地層】
- 2 7.5YR2/3 極暗褐色粗砂混じりシルト (炭含む、やや締まり悪い) (土師器)
- 3 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト【地山】

【No.13地点 南壁】



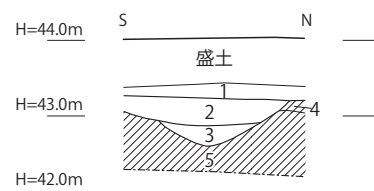
- 1 7.5YR5/3 にぶい褐色泥砂【中世整地層】
- 2 7.5YR4/4 褐色泥砂 (炭含む)【土坑】
- 3 7.5YR4/4 褐色泥砂【落込み 2】
- 4 7.5YR4/4 褐色泥砂 (須恵器、施釉陶器)【落込み 1】
- 5 7.5YR6/6 橙色泥砂【平安時代整地層】
- 6 7.5YR5/4 にぶい褐色砂礫【地山】

【No.36地点 南壁】



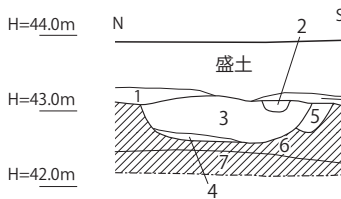
- 1 7.5YR4/4 褐色粘質土【中世整地層】
- 2 7.5YR4/2 灰褐色粘質土【落込み 3】
- 3 7.5YR6/6 橙色粘質土【地山】

【No.33地点 西壁】



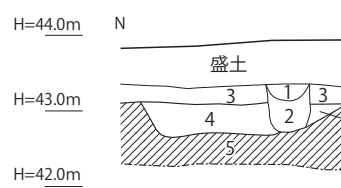
- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂【時期不明整地層】
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂泥【落込み】
- 3 2.5Y4/2 暗灰黄色礫混じり砂泥【溝 5】
- 4 7.5YR6/6 褐色粘質土【地山】
- 5 2.5Y7/6 明黄褐色砂礫【地山】

【No.32地点 東壁】



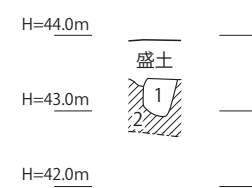
- 1 10YR4/2 灰黄褐色泥砂【時期不明整地層】
- 2 10YR3/2 黒褐色小礫混じり砂泥
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥
- 4 2.5Y6/2 灰黄色泥砂 (灰、炭化物含む)【土坑 6】
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥【ピット】
- 6 2.5Y8/4 淡黄色礫混じりシルト
- 7 2.5Y7/6 明黄褐色砂礫【地山】

【No.30地点 東壁】



- 1 10YR7/6 明黄褐色泥砂 (黒褐色泥砂ブロック混)【土坑】
- 2 10YR3/2 黒褐色泥砂
- 3 10YR4/2 灰黄褐色泥砂【時期不明整地層】
- 4 10YR6/4 にぶい黄褐色泥砂【土坑 7】
- 5 2.5Y8/4 淡黄色礫混じりシルト【地山】

【No.34地点 東壁】



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 (土師器)【土坑 8】
- 2 2.5Y8/4 淡黄色礫混じりシルト【地山】



図 40 詳細分布調査地点平・断面図 (1 : 100)

色礫混じり粘質土の地山となる。

No.42地点の層序は、盛土以下、GL-0.8mで暗褐色粘土質シルトの中世整地層である。整地層から時期不明の土師器細片が出土したが、北隣の試掘調査9区において標高42.7mで中世整地層を確認しており、この整地層も標高42.8mとおおむね同じ高さで確認したため中世整地層と考える。

**南東側 (図41・42)** No.4・5・6・8・9・10・11・15・16・17・18・19・23・25・27・28・29・31地点で調査した。地表面は北側のNo.5地点で標高約43.7m、南側のNo.28地点の標高約43.4mで、北から南に向かって緩やかに傾斜する。No.8地点の層序は、盛土以下、GL-0.4mで褐色粘質土の飛鳥時代遺物包含層、-0.9mでにぶい褐色砂礫、黄橙色粘質土の地山となる。褐色粘質土から飛鳥時代の土師器が出土した。No.27地点の層序は、盛土以下、GL-1.0mで黒褐色細砂混じりシルトの近世整地層、-1.2mでにぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルトの室町時代整地層、-1.3mで褐色礫混じり粘質シルトの地山となる。No.28地点の層序は、盛土以下、GL-0.9mで暗オリーブ褐色泥砂の近世整地層、-1.2mで黄橙色礫混じり泥砂の中世整地層、-1.3mで明褐色粘質土、浅黄橙色砂礫の地山となる。また、No.25地点の中世整地層からは、中世の土師器が出土した。

No.28地点東壁で、地山を切って成立する平安時代前期の土坑9を確認した。幅0.8m、深さ0.3mで、埋土は暗褐色泥砂である。平安時代前期の土師器が出土した。

No.5地点の東壁で、地山を切って成立する平安時代の溝10を確認した。上部が幅1.2m、下部が幅0.6mと下に行くほど窄まる。深さ0.9mである。埋土は灰褐色粘質土である。遺物は出土しなかったが、試掘調査7区の溝2の東側延長にあり、平安時代と考えられる。

No.11地点北壁で、地山を切って成立する鎌倉時代のピット11を確認した。幅約0.3m、深さ約0.3mで、埋土は暗褐色泥砂である。鎌倉時代の土師器が出土した。

No.27地点北壁で、地山を切って成立する鎌倉時代のピット12・13を確認した。ピット12は幅0.7m、深さ0.3mで、ピット13は幅約0.8m、深さ約0.4mである。埋土は2基とも暗褐色粗砂混じりシルトである。ピット12からは鎌倉時代の瓦器が出土した。ピット13は時期不明の土師器細片が出土したが、ピット12と大きさや埋土が似ていることから、鎌倉時代の遺構と考える。

No.19地点西壁で、地山を切って成立する室町時代の落込み14を確認した。幅1.6m以上、深さ0.6mで、埋土はにぶい黄褐色砂泥である。室町時代の土師器、瓦が出土した。

### 3. 遺物 (図43)

遺物は細片がほとんどであったため、図化できたものについて報告する。1～4は試掘調査、5～10は詳細分布調査で出土した。

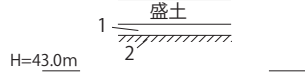
1は6区溝1から出土した、須恵器壺の胴部～底部片である。底径7.8cmである。2・3は4区ピット6から出土した、土師器皿Nである。鎌倉時代に属する。4は10区土坑6から出土した、土師器杯Cである。口径16.0cm、高さ4.7cmである。口縁部内外面は磨かれ、底部外面にケズリを施す。7世紀に属する。

5はNo.13地点落込み1から出土した、白磁皿の底部片である。底径3.5cmである。平安時代に属

《西側調査地点》

【No.41地点 西壁】

H=44.0m

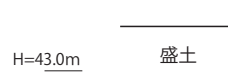


H=43.0m

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥  
【時期不明整地層】
- 2 7.5YR5/6 暗褐色礫混じり粘質土【地山】

【No.42地点 南西壁】

H=44.0m



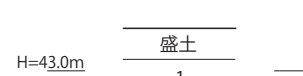
H=43.0m

- 1 10YR3/3 明褐色粘土質シルト  
(土師器)【中世整地層】

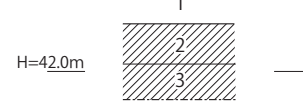
《南東側調査地点》

【No.8地点 北壁】

H=44.0m



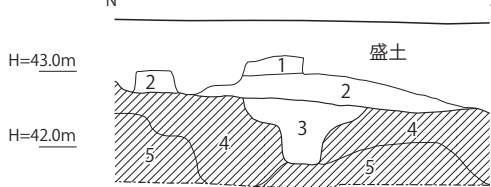
H=43.0m



- 1 7.5YR4/4 褐色粘質土(土師器)  
【飛鳥時代遺物包含層】
- 2 7.5YR5/3 にぶい褐色砂礫
- 3 10YR7/8 黄橙色粘質土

【No.5地点 東壁】

H=44.0m



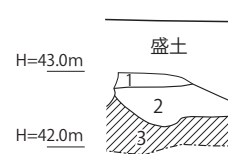
H=43.0m

H=42.0m

- 1 7.5YR4/3 褐色粘質土(径2~4cm大の礫含む)
- 2 7.5YR3/3 暗褐色粘質土(土師器)【中世整地層】
- 3 7.5YR4/2 灰褐色粘質土  
(10YR6/8 明黄褐色粘質土のブロック含む)【溝10】
- 4 10YR6/8 明黄褐色粘質土
- 5 7.5YR3/2 黒褐色粗砂(径3~7cm大の礫多量に含む)

【No.19地点 西壁】

H=44.0m



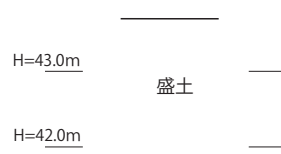
H=43.0m

H=42.0m

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥  
【落込み14】
- 3 10YR6/6 明黄褐色砂礫【地山】

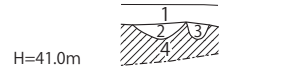
【No.11地点 北壁】

H=44.0m



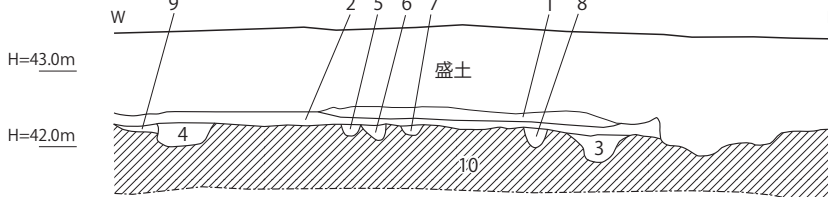
H=43.0m

H=42.0m



- 1 7.5YR4/3 褐色粘質土  
【近世整地層】
- 2 7.5YR3/4 暗褐色泥砂  
【ピット】
- 3 7.5YR3/4 暗褐色泥砂  
(土師器)【ピット11】
- 4 10YR5/8 黄褐色粘質土  
【地山】

【No.27地点 北壁】



H=43.0m

H=42.0m

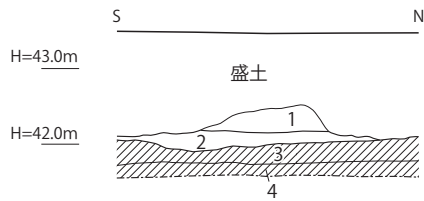
- 1 10YR3/2 黒褐色細砂混じりシルト(径2cm大の礫少量含む、締り悪い)【近世整地層】
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粗砂混じり粘土質シルト(土師器)【室町時代整地層】
- 3 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(径0.5cm大の礫少量含む)(土師器)【ピット13】
- 4 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトブロック、炭含む)(瓦器)【ピット12】
- 5 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトブロック含む)
- 6 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトのブロック含む)
- 7 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトのブロック含む)
- 8 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトのブロック含む)
- 9 10YR3/4 暗褐色粗砂混じりシルト(10YR3/2 黒褐色シルトのブロック含む)【土坑】
- 10 10YR4/6 褐色礫混じり粘土質シルト【地山】



図41 詳細分布調査地点断面図1 (1:100)

《南東側調査地点》

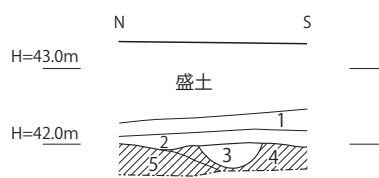
【No.25地点 西壁】



- 1 10YR3/4 暗褐色粗砂混じり粘土質シルト  
(炭含む、やや締まり悪い) (土師器) 【近世整地層】
- 2 10YR3/4 暗褐色細砂混じり粘土質シルト  
(炭含む、やや締まり悪い) (土師器) 【中世整地層】
- 3 10YR4/6 褐色礫混じりシルト
- 4 10YR4/6 褐色砂礫

【地山】

【No.28地点 東壁】



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色泥砂【近世整地層】
- 2 7.5YR7/8 黄橙色礫混じり泥砂【中世整地層】
- 3 10YR3/3 暗褐色泥砂 (土師器) 【土坑 9】
- 4 7.5YR5/8 明褐色粘質土
- 5 7.5YR8/6 浅黄橙色砂礫

【地山】

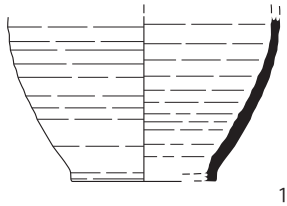


図42 詳細分布調査地点断面図2 (1:100)

する。6・7はNo.32地点土坑6から出土した、土師器皿Sである。土師器の中で図化できたのがこの1点だけであったため、細片ではあるが反転復元を行った。口径約10.4cm、高さ約2.7cmである。13世紀に属する。7は須恵器杯Bの底部片である。貼り付け高台を有する。底径11.5cm、残高2.1cmである。飛鳥時代に属する。8はNo.8地点1層から出土した、土師器甕である。飛鳥時代に属する。9・10はNo.28地点土坑14から出土した、土師器皿Aである。9は、口径15.0cm、高さ1.8cmで、外面にユビオサエの痕跡が残る。10は、口径20.5cm、残高3.1cmである。ともに10世紀頃に属する。

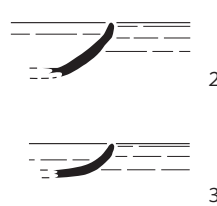
《試掘調査(24S187)》

6区溝1



1

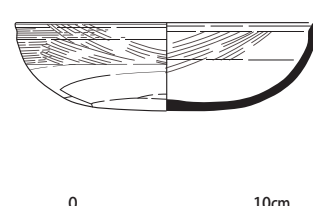
4区ピット6



2

3

10区土坑6



4



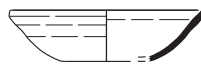
《詳細分布調査(24S364)》

No.13 地点落込み1



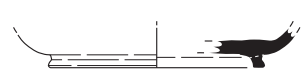
5

No.32 地点土坑6



6

No.32 地点土坑6



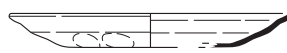
7

No.8 地点1層



8

No.28 地点土坑9



9



10

図43 出土遺物 (1:4)

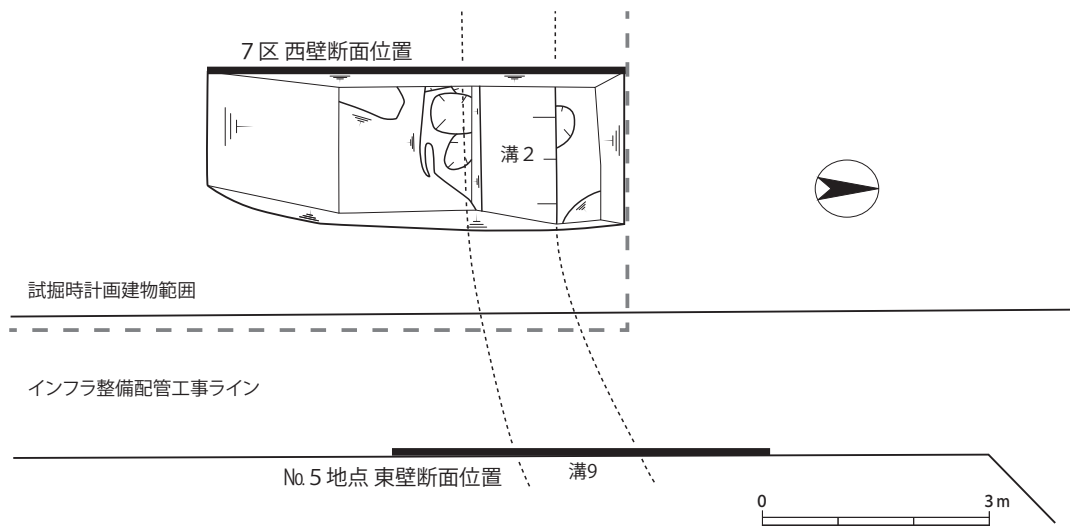
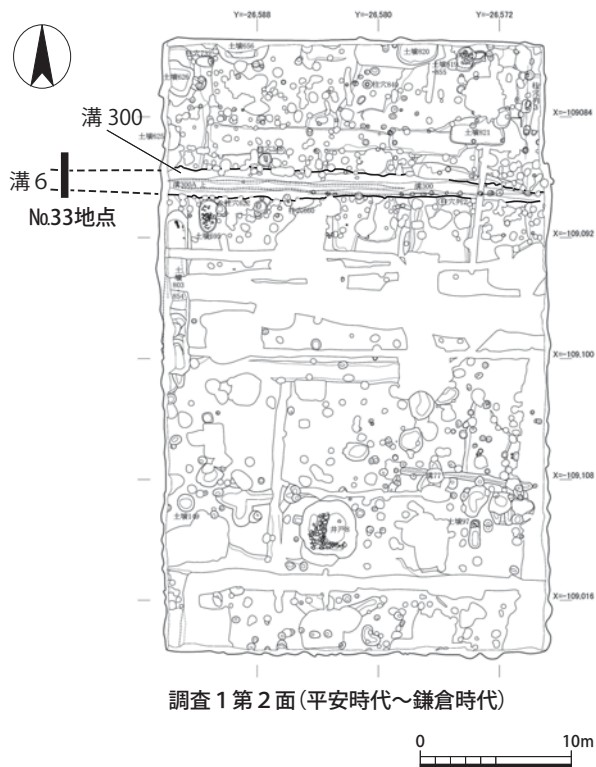


図44 7区及びNo.5地点検出溝の位置関係図（1：100）

#### 4. まとめ（図44・45）

今回、調査地で試掘調査及び詳細分布調査を実施し、飛鳥時代～室町時代にかけての遺構群を確認した。

飛鳥時代の遺構は、南東側で試掘調査10区の土坑6を確認した。北側では明確な遺構は確認していないが、詳細分布調査No.32地点の土坑6から鎌倉時代の土師器皿とともに飛鳥時代の須恵器杯Bが出土している。また、近接した位置で実施された調査1で当該期の柱穴や竪穴建物を確認していることを踏まえると、付近に同様の遺構が展開する蓋然性は高い。



※終了報告の調査1平面図を古代文化調査会より提供。（一部加筆）

図45 調査1及びNo.33地点検出溝の位置関係図（1：500）

平安時代～鎌倉時代の遺構は、溝・落込み・土坑などを確認した。調査地全域で確認することができ、かつ数も多い。平安時代の南北溝である試掘調査7区の溝2と、その東側延長にある詳細分布調査No.5地点の溝9との位置関係を整理すると、蛇行はするものの同一の溝と考えられる。また、平安時代～鎌倉時代の南北溝である詳細分布調査No.33地点の溝6は、調査1の溝300西側延長上にあたることから、同一の溝と考えられる。これ

らの区画溝は調査地の東半に位置しており、土地利用の実態を考える上で興味深い。

室町時代の遺構については、南東側で落込みを確認した。周辺調査でも同時期の遺構を検出していることから、調査地全体に遺構が展開する可能性が高い。

以上、本調査では古墳時代に遡る遺構は確認できなかったものの、飛鳥時代以降の遺構群を検出した。この状況から、推古11年(603)に建立されたとされる広隆寺とともに、本調査地でも土地の開発・利用が本格的に開始されたものと推察される。

また、飛鳥時代の土坑や、平安時代～鎌倉時代の区画溝・土坑などは、広隆寺やもしくはそれに付帯する集落等に関連する遺構と考えられ、今後の周辺域での調査成果と合わせて検討することで、より具体的に遺跡の様相の復元が可能となろう。

(八軒 かほり)

#### 註

- 1) 京都市文化市民局『京都市内試掘調査報告 令和6年度』2025年。
- 2) (調査1) 古代文化調査会調査 令和7年度終了報告。
- 3) (調査2) 関西文化財調査会 平成8年度終了報告。
- 4) (調査3) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2010-4、2010年。
- 5) (調査4) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡・一ノ井遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-11、2013年。  
(調査5) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2011-8、2012年。  
(調査6) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-18、2010年。  
(調査7) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-16、2010年。  
(調査8) (財)京都市埋蔵文化財研究所『常盤仲之町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2008-21、2008年。

### Ⅲ-4 建仁寺旧境内 令和6年度No.103 (24S095)

#### 1. 調査の経緯 (図46)

調査地は、東山区大和大路通四条下る4丁目小松町584で、建仁寺の小鐘楼である。小鐘楼は京都府指定有形文化財となっており、今回その保存修理工事が計画された。本工事は建造物の保存修理が主であるが、基壇部分でも外装石材の傾きの修正などに伴い、若干の掘削が生じることから、基壇を対象に調査を実施した。調査は令和6年5月21日から10月18日にかけて断続的に行った。調査面積は1㎡である。

小鐘楼は法堂の北東隅に位置し、殿鐘楼とも呼ばれる。1間四方で、妻入の小規模な形式の鐘楼である。明治時代の文書では寛文12年(1672)の建築と考えられており、細部様式からもその年代観に大きな差異はないとされる<sup>1)</sup>。

なお、本件については修理中であったことから『京都市内遺跡試掘調査報告 令和6年度』では一覧表で掲載したが、今回、保存修理及び調査が完了したことから詳細について報告を行う。



図46 調査位置図 (1:5,000)

#### 2. 調査成果 (図47・48)

調査は工事の進捗状況に合わせて計5箇所を実施した。No.1・4地点は礎石及び地覆座の状況、No.2地点は床面の状況、No.1・3・4は外装及び構築土の様相確認を目的とした。

基壇は、花崗岩を用いた石積基壇である。各辺で若干の長短があるが、平面形はおおむね正方形を呈し、長さは北辺4.65m、東辺4.68m、南辺4.68m、西辺4.67mで、地表面から基壇上面までの高さは0.61～0.73mである。

基壇外装は、葛石、羽目石、東石、地覆石で構成される。地覆石は柱状に加工した花崗岩を横方向に用い、東西辺は2石、南北辺は3石を据える。各辺とも地覆石の上に羽目石4石と東石5石を交互に据える。ただし、角部の東石は各辺で共有する。羽目石・東石の上には、柱状に加工した花崗岩製の葛石を各辺とも2石据える。葛石は上面及び下面、外面のみ丁寧に調整されるが、内面は不整形である。なお、葛石と地覆石は東・西辺の石材を北・南辺の石材で挟み込むように組む。

小鐘楼の扉は東面北寄りにあり、それに伴い基壇北東部に2段の階段が取り付く。階段は柱状の花崗岩を計3石積み構築する。また、基壇上面の扉の内側に2石、外側に1石の踏石を設ける。

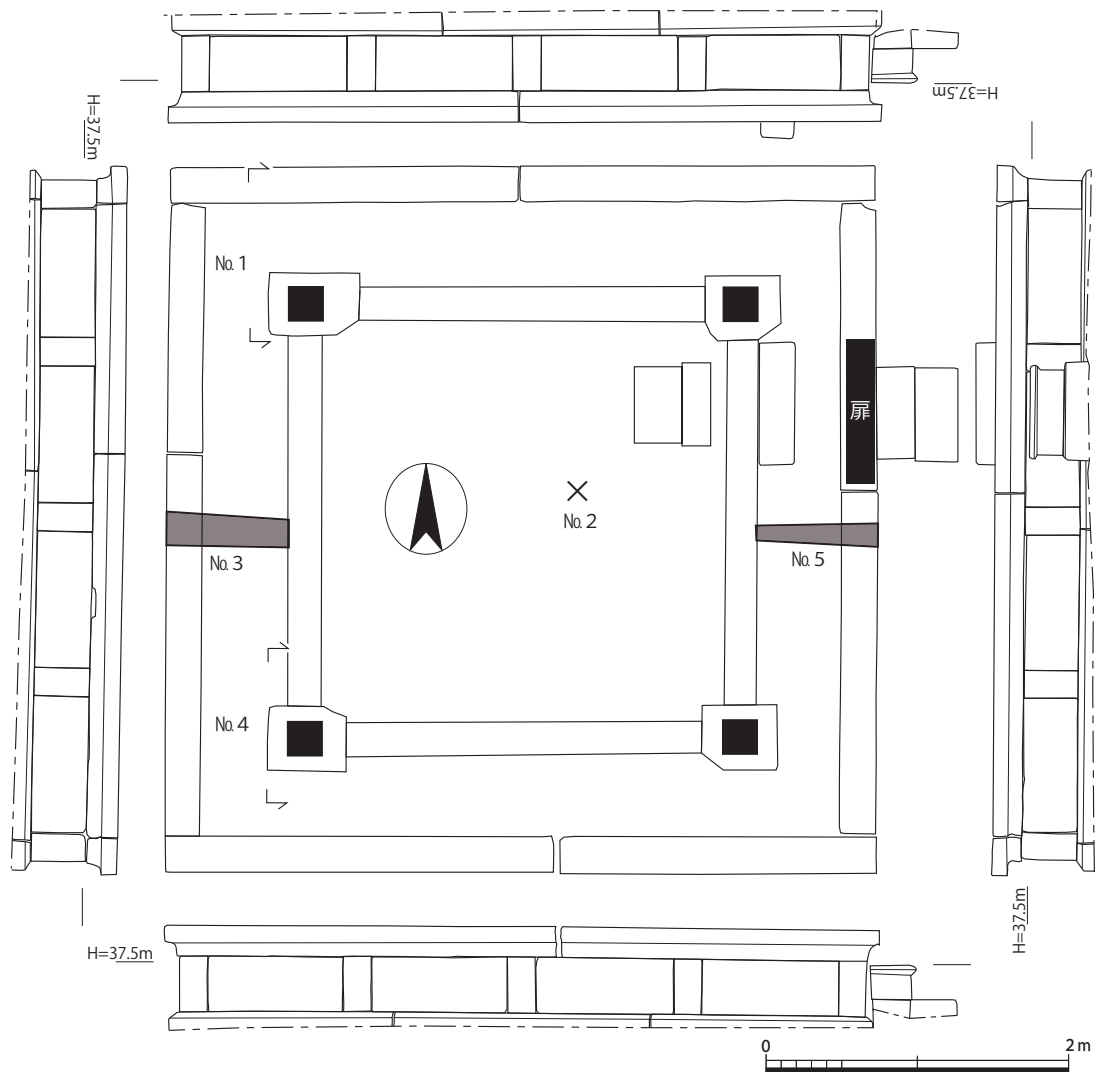


図47 小鐘楼基壇平・立面図（1：50）

礎石は基壇上面の四隅にそれぞれ1石据えられており、その上に角柱の柱材が直接のる。礎石も花崗岩が用いられ、全体の正確な大きさは不明だが直径0.7m前後で厚さ0.2m以上の大型の石材を使用する。礎石は掘方を有し、掘方の平面は不整形で礎石より一回り大きい。礎石の下半部は不整形だが、基壇上面より上に露出する部分は丁寧に調整される。この露出部は、平面形は隅切り長方形で、長辺0.5～0.6m、短辺0.4m前後である。なお、各柱の心々間距離は約2.9mである。

各礎石の間には地覆座が設けられる。地覆座に掘方は確認できず、礎石の上に重なるように配されることから、礎石を据えた後にそれに合わせて設置したと考えられる。地覆座も礎石と同様に露出する部分のみ丁寧に調整され、それ以下は不整形である。

基壇構築土については、標高37.4mを境に上下で様相が異なり、上部はシルトや砂質土（基壇構築土B）だが、下部は砂礫層（基壇構築土C）となる。基壇構築土Bには拳大以下の礫が含まれる。この礫は角がやや丸まっていることから河川由来と考えられる。この基壇構築土B・Cの層界は、羽目石・束石と葛石との境に当たることから、基壇構築時の工程の違いを反映している可能性が高い。なお、部分的に羽目石・束石と葛石の境界部に塊状の漆喰を貼り付け補強している。

基壇上面の中央部では、モルタルの下で三和土と思われる浅黄色粘土層（No.2-2層）を確認して

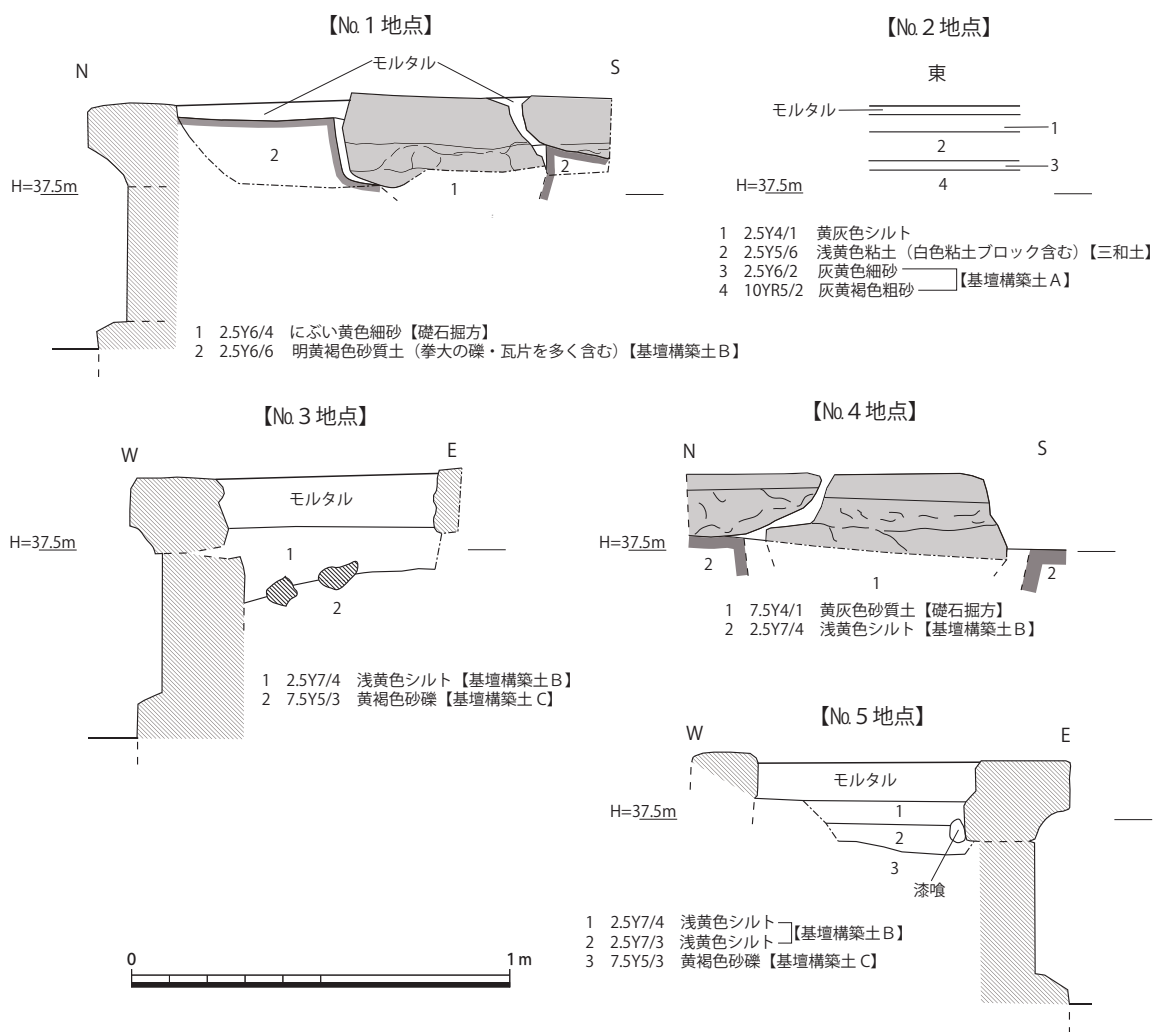


図48 各地点断面図（1：20）

おり、その直下は砂層（基壇構築土A）となる事から、当初は床面が三和土であった可能性が高い。ただし、この三和土が確認できるのは地覆座よりも中央部に限られることから、地覆座と葛石の間の床面の状況は不明である。また、三和土の確認できる範囲でのみ基壇構築土Aが存在することから、基壇構築土Aは三和土の敷設に伴う整地土の可能性も想定できる。

以上の状況から推定すると、①羽目石・東石を据えつつ基壇構築土Cを盛る、②葛石を据えつつ基壇構築土Bを盛る、③基壇構築土Bを掘って礎石を据え、その後に地覆座を据える、④基壇構築土Aと三和土を敷設し床面を作るという4つの工程が考えられる。ただし、小鐘楼の建物の構築作業は③と④の間に入る可能性が高く、これらの工程の間には若干の時期差を見込むことが出来る。

### 3. まとめ

保存修理に伴う調査の性格上、限定的ではあるが、江戸時代前期に遡る基壇の様相の一端が明らかとなった。当該期の調査事例は少なく、今後、構造や時期・地域的変遷を考える一助となろう。

（熊井 亮介）

註

1) 京都府教育委員会『京都の文化財 第28集』2011年。

### Ⅲ-5 芹川城跡 No.23 (24S362)

#### 1. はじめに (図49)

本件は、伏見区下鳥羽渡瀬町127・128における店舗建設に伴う試掘調査である。調査地は、室町時代の城館跡である「芹川城跡」に該当している。芹川城跡については、明治時代まで東・北・南辺を画する堀が残っていたとされ、遺跡範囲北西に残る旧集落域が中枢部と考えられる。城主については、付近に「河野」や「築山」の名を刻んだ慶長年間の墓石が残ることから、両氏に関わる城館の可能性が指摘されている<sup>1)</sup>。

遺跡内では、南東部で複数の試掘調査を実施しているが(調査1・2)、河川や湿地状堆積を確認する程度で城跡に関する明確な遺構は確認できておらず<sup>2)</sup>、その実態については詳らかではない。

調査地は城跡南西部に位置しており、上記成果を踏まえ、芹川城跡の遺構を確認することを調査目的とした。調査は令和7年1月9日に実施、面積は15㎡である。調査の結果、芹川城跡に関する遺構は確認できなかったものの、古墳時代後期の竪穴建物と考えられる埋土を確認したため、これを報告する。

#### 2. 遺構・遺物 (図50～53)

調査区は、計画建物に合わせ東西方向に設定したが、既存建物基礎が残置されていたため、2箇所に分けて調査を実施した(図51)。調査区の層序はほぼ共通しており、現代盛土、旧耕作土と続き、GL-1.5mで中世包含層、1区で-1.6m、2区では-1.75mで締めりある黒色シルトの包含層となる。地山は1区で-1.75mで浅黄色シルト質細砂、2区で-1.95mにて浅黄色シルトとなる。遺構は、両区とも地山上面で検出を行い、2区にてピット2基を確認した(図50・52)。また、2区の包含層である黒色シルト層(図52-5層)から古墳時代後期の遺物が出土した。包含層は、底面が平坦であることから竪穴建物埋土の可能性が高く、平面で確認した

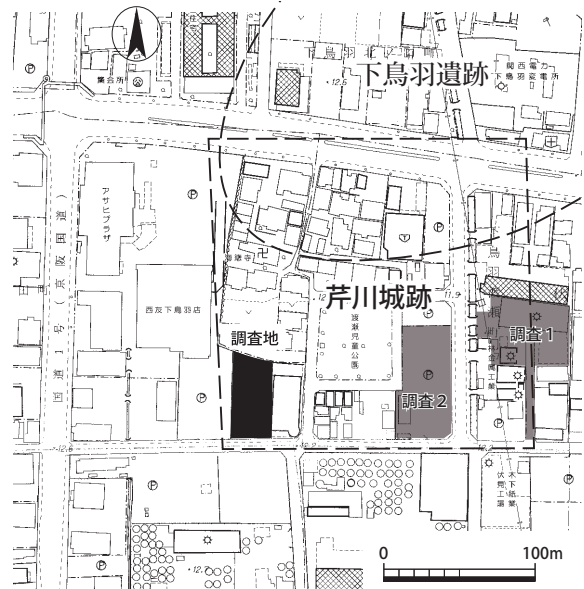


図49 調査位置図 (1 : 5,000)



図50 2区全景 (北東から)

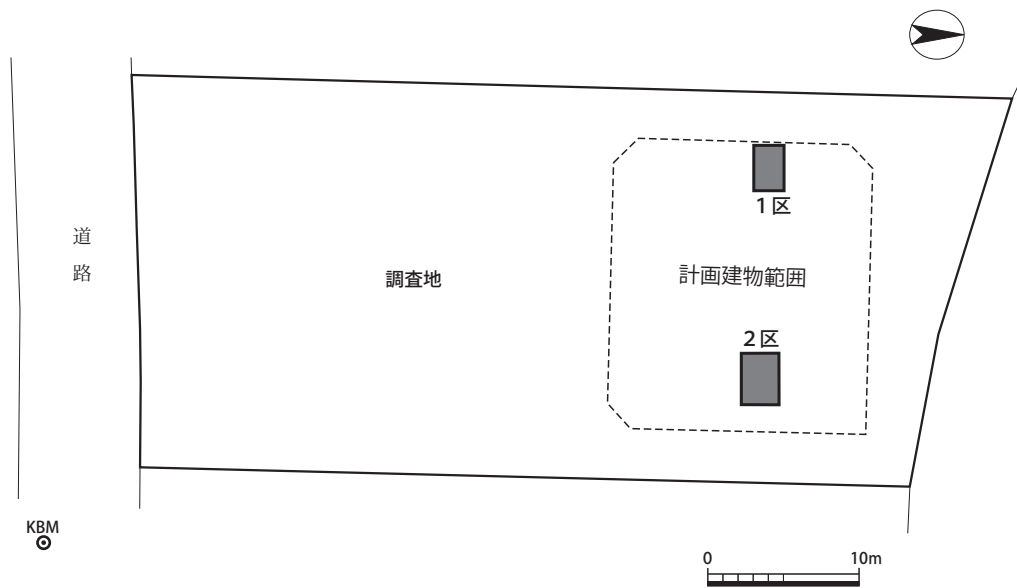


図51 調査区配置図 (1 : 500)

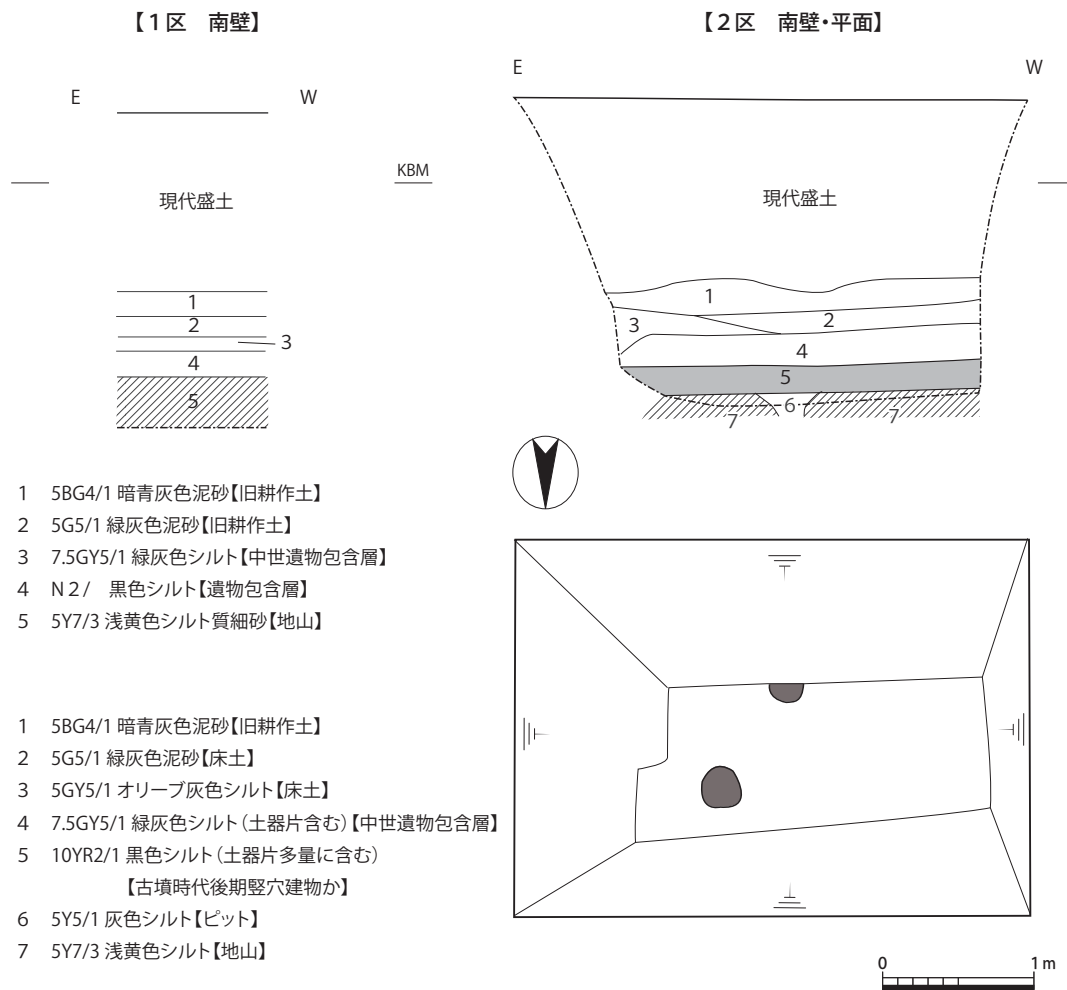


図52 1・2区平・断面図 (1 : 50)

ピットがそれに伴う支柱穴と捉えることも可能である。

遺物は、土師器、須恵器、瓦質土器などが出土したが、細片が多く図示できたものは2区5層から出土した土師器高杯、須恵器杯蓋である。

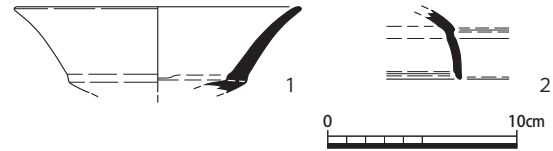


図53 出土遺物（1：4）

1は土師器高杯の杯部である。底部から屈曲して外半する。内外面ともにヨコナデを施す。2は須恵器杯蓋の口縁部である。稜線は明瞭であり、口縁端部は丸く、内側に段を有する。1・2とも6世紀前半（古墳時代後期）の所産である。

（西森 正晃）

### 3. 下鳥羽遺跡の範囲について

今回の調査では、芹川城が存在したとされる中世を大きく遡る古墳時代後期の遺構群を検出した。この背景には、調査地の北に位置する弥生時代～平安時代の複合遺跡である下鳥羽遺跡の広がりや想起される。ここでは、芹川城跡に加えて下鳥羽遺跡までを含めた周辺調査成果を整理し、その範囲と変遷について記述したい。

表4には、これまでに両遺跡で実施された発掘調査、試掘調査、詳細分布調査・立会調査（総計136件）のうち、考古学的成果が得られた事例（83件）を示した。これを時期的にまとめたものが図54～57である。以下、時代ごとに示す。

**弥生時代（図54）** 下鳥羽遺跡内では、弥生時代前期中葉の段階で居住域の形成が確認できる。遺跡の南半部にあたる27・47・51地点がその中心であり、弥生時代中期から後期にかけて周辺へと集落が拡大する。43・46地点では湿地状堆積が確認されていることから、居住域の東～南に低地の広がりや推測される。現時点では未確認であるが、生産域（水田）が存在した可能性がある。この湿地を居住域の限界とすると、半径100m程度の小集落を想定することができる。なお、遺跡北半部の58地点では弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物が採取されており、次代におこる分村の動きと捉えられる。

**古墳時代（図55）** 古墳時代後期（6世紀初頭）になると、集落は大きく拡張する。南半部では前代より存続する居住域を中心としつつ、さらに南方向へと広がりをみせる。今回の調査地で検出された柱穴もこの時期に帰属する遺構であり、現段階では集落の南限と捉えることができる。

一方、遺跡の北半部では、新たな居住域（北居住域）が形成される。23地点では、古墳時代前期まで湿地であった地点に竪穴建物が構築されており、積極的に居住地を拡充したことが窺える。北居住域の東には低湿地があり、前代と同じく生産域を有していた可能性が高い。南居住域と北居住域の間に位置する73地点では同時期の砂礫層が確認されており、旧河道が北西～南東方向に存在したと推測される。

**平安時代（図56）** 広範囲にわたり、河川堆積が確認される時期である。洪水砂の広がりから、現在の油小路通付近を南北に流れる河道と、これへ流れ込む北西からの河道を想定できる。遺跡の

表4 下烏羽遺跡・芹川城跡調査一覧

No.	市番号	遺跡名	種類	住所	検出遺構	出土遺物	調査機関	文献
1		下烏羽遺跡	立会	下烏羽北/口町 31-2	弥生時代後期～古墳時代前期/包含層	土師器壺	埋文研	2
2		下烏羽遺跡	立会	毛利町	古墳時代/流路 鎌倉～室町/柱穴、溝	弥生土器、土師器、須惠器、馬骨	埋文研	3
3		下烏羽遺跡	試掘	竹田泓/川町	鎌倉～室町時代/河川		埋文研	4
4		下烏羽遺跡	立会	下烏羽芹川町	弥生時代/包含層		埋文研	5
5		下烏羽遺跡	立会	竹田薬屋町 27A	奈良～平安時代/包含層	弥生土器	埋文研	5
6		下烏羽遺跡	試掘	竹田松林町 40、40-1	古墳時代後期/湿地	土師器壺、須惠器杯	埋文研	5
7		下烏羽遺跡	試掘	竹田泓/川町～下烏羽城/越町	河川		埋文研	5
8		下烏羽遺跡	試掘	狭小屋町 62.62-4.64.64-3.67	鎌倉時代/溝		埋文研	5
9		下烏羽遺跡	試掘	毛利町 25 ほか	鎌倉～室町時代/包含層		埋文研	6・7
10		下烏羽遺跡	立会	竹田真幡木町 41-1	平安時代中～後期/包含層		埋文研	6・7
11		下烏羽遺跡	試掘	毛利町 1.1-2	平安時代/河川		埋文研	6・7
12		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽城/越町 23	河川		埋文研	8
13		下烏羽遺跡	立会	下烏羽芹川町 26-1	湿地		埋文研	8
14	8955266	下烏羽遺跡	試掘	下烏羽芹川町下烏羽公園内	平安時代/流路 鎌倉時代/包含層	土師器、須惠器、瓦器	埋文研	6・7
15		下烏羽遺跡	試掘	竹田泓/川町 4-2	池状(湿地)		埋文研	9
16		下烏羽遺跡	試掘	竹田泓/川町 15	河川		埋文研	9
17		下烏羽遺跡	試掘	竹田泓/川町 17.17-1.24	江戸時代/溝		埋文研	9
18		下烏羽遺跡	立会	下烏羽城/越町 29	時期不明/包含層		埋文研	9
19		下烏羽遺跡	試掘	竹田松林町 38	時期不明/包含層、池状(湿地)		埋文研	9
20		下烏羽遺跡	試掘	中島外山町 19	河川		埋文研	10
21		下烏羽遺跡	試掘立会	竹田松林町 35	古墳時代後期/焼土坑、柱穴		埋文研	10
22		下烏羽遺跡	立会	毛利町 10-1.2.11	平安時代後期～室町時代/包含層		埋文研	11・12
23	8651199	下烏羽遺跡	試掘 発掘	下烏羽城/越町 34-1.2	古墳時代前期/湿地 古墳時代後期/竪穴建物、掘立柱建物、 焼土坑、溝、 平安時代/流路	土師器壺・甕・高杯・鉢・器台・手焙形・皿・杯、 須惠器高杯・蓋・臍・甕・杯・提瓶、瓶子、緑釉陶 器、灰釉陶器、黒色土器、焼締陶器、円筒埴輪、瓦、 土製品、木製品、種実	京都市 埋文研	13
24		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽芹川町	弥生～古墳時代/溝・河川東肩		京都市	13
25		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽芹川町	河川		京都市	14
26		下烏羽遺跡	立会	毛利町ほか	古墳時代/湿地 平安時代/河川		埋文研	13 14
27	875622	下烏羽遺跡	試掘発掘	下烏羽芹川町	弥生時代前期/土坑、溝 弥生時代中期/竪穴建物、方形周溝墓 弥生時代後期～古墳時代前期/竪穴建物 古墳時代後期/土壘墓、溝 平安時代中期/井戸 鎌倉～室町時代/耕作溝	弥生土器壺・甕・鉢・高杯・器台、土師器壺・壺・高杯、 須惠器蓋杯・甕、埴輪、石包丁、石斧、石鏃、土製 紡錘車、土錘、曲物井戸杵、井戸側	埋文研 京都市	15
28		下烏羽遺跡	立会	下烏羽芹川町	弥生～古墳時代/包含層		京都市	15
29		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽北端町	河川		京都市	15
30		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽芹川町	河川		京都市	16
31		下烏羽遺跡	立会	下烏羽北/口町	平安時代/包含層		京都市	16
32		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽北/口町	古墳～平安時代/包含層		京都市	16
33		下烏羽遺跡	試掘	下烏羽毛利町	河川、湿地		京都市	17
34	905250	下烏羽遺跡	試掘立会	下烏羽芹川町	古墳時代/包含層、平安時代/河川		京都市	17
35	905202	下烏羽遺跡	試掘	下烏羽芹川町	河川		京都市	17
36		下烏羽遺跡	立会	下烏羽北端町	河川		京都市	18
37		下烏羽遺跡	立会	竹田松林町	時期不明/包含層		京都市	18
38	915375	下烏羽遺跡	試掘	下烏羽北端町	河川		京都市	19
39	925289	下烏羽遺跡	試掘	竹田窪川町	湿地	土師器、須惠器、灰釉陶器、平瓦	京都市	20
40	925007	下烏羽遺跡	試掘	下烏羽北端町	古墳時代/竪穴建物 奈良時代/包含層	土師器、須惠器	京都市	20
41		下烏羽遺跡	立会	竹田松林町	時期不明/包含層		京都市	21
42		下烏羽遺跡	立会	下烏羽北端町	河川		京都市	21
43		下烏羽遺跡	立会	下烏羽芹川町	弥生時代/包含層、湿地 鎌倉～室町時代/包含層		京都市	21
44		下烏羽遺跡	立会	竹田松林町～下烏羽北端町	河川		京都市	21
45		下烏羽遺跡	立会	竹田松林町	古墳時代/包含層		京都市	21
46		下烏羽遺跡	立会	下烏羽渡瀬町 A 地点	弥生時代/湿地	弥生土器	京都市	21
47		下烏羽遺跡	立会	下烏羽渡瀬町 B 地点	弥生前期中葉/溝 弥生後期前半/溝 平安時代/溝、落込	弥生土器壺・器台・壺・蓋・石鏃	京都市	21
48		下烏羽遺跡	立会	下烏羽渡瀬町 C	古墳時代/土坑・落込・柱穴・溝	弥生土器、須惠器	京都市	21

No	市番号	遺跡名	種類	住所	検出遺構	出土遺物	調査機関	文献
49		下鳥羽遺跡	立会	下鳥羽渡瀬町 D 地点	弥生時代／溝 時期不明／落込	弥生土器、土師器、須恵器	京都市	21
50		下鳥羽遺跡	立会	竹田松林町	古墳時代／包含層		京都市	24
51		下鳥羽遺跡	立会	竹田松林町	弥生前期／落込（竪穴建物？） 時期不明／溝	弥生土器	京都市	24
52	955497	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽芹川町	河川		京都市	25
53		下鳥羽遺跡	立会	下鳥羽芹川町	弥生～平安時代後期／包含層 奈良時代／包含層		京都市	26
54	975033	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽芹川町	弥生～古墳時代／竪穴建物、溝	弥生土器、土師器、須恵器	京都市	27
55		下鳥羽遺跡	立会	竹田泓／川町～下鳥羽芹川町	古墳時代／包含層		京都市	28
56	985288	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽西芹川町	弥生時代／溝 古墳時代／溝	弥生土器、土師器、須恵器	京都市	29
57	985152	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	湿地		京都市	29
58	985034	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	古墳時代／掘立柱建物	弥生土器、土師器、須恵器	京都市	29
59		下鳥羽遺跡	立会	下鳥羽西芹川町	弥生時代／落込 古墳時代／包含層 鎌倉時代／包含層	弥生土器、土師器、須恵器蓋・杯、瓦器皿	京都市	30
60	995096	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	湿地		京都市	31
61	015267	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	時期不明／包含層	土師器、須恵器	京都市	34
62	007390	下鳥羽遺跡	発掘	竹田松林町～東芹川町 A～H 地点	平安時代／溝、土坑、ビット 鎌倉～室町時代／溝、ビット 桃山時代／溝	土師器、須恵器、緑釉陶器、黒色土器、瓦器、 焼締陶器、瓦質土器、磁器、軒丸瓦、滑石 製温石、軒丸瓦	埋文研	35・40
63	015502	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	湿地		京都市	37
64		下鳥羽遺跡	立会	竹田松林町～東芹川町	湿地、河川		京都市	38
65	045196	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽西芹川町	古墳時代中期／竪穴建物、溝、土坑、落込	弥生土器、須恵器高杯、埴輪	京都市	39
66		下鳥羽遺跡	立会	下鳥羽西芹川町	湿地、洪水砂		京都市	41
67	055428	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽東芹川町	洪水砂		京都市	42
68	055260	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽西芹川町	弥生～古墳時代／柱穴、土坑、溝、竪穴建物？ 平安時代／整地層	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦 質土器	京都市	42
69	045304	芹川城跡	試掘	下鳥羽渡瀬町	湿地、流路		京都市	42
70	045619	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽西芹川町	弥生時代／大溝 古墳後期／大溝	弥生土器壺、土師器、須恵器	京都市	41・42
71	065091	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	古墳時代／竪穴建物	土師器、須恵器	京都市	44
72	075085	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽北／口町	鎌倉～室町時代／水田	弥生土器、土師器、瓦器	京都市	46
73	075041	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽東芹川町	古墳時代／河川	弥生土器、土師器	京都市	46
74	075007	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	古墳時代／竪穴建物、土坑、溝、柱穴	土師器、須恵器	京都市	46
75	105189	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	古墳時代後期／竪穴建物	土師器、須恵器	京都市	48
76	125200	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽東芹川町	河川		京都市	50
77	135666	芹川城跡	試掘	下鳥羽渡瀬町	湿地		京都市	53
78	175234	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽東芹川町	河川		京都市	56
79	175741	下鳥羽遺跡	詳細	下鳥羽西芹川町	古墳時代／包含層	土師器壺、須恵器壺	京都市	57
80	195432	下鳥羽遺跡	試掘	竹田松林町	弥生～古墳時代／耕作溝、柱穴	弥生土器、土師器	京都市	58
81	225303	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽西芹川町下鳥羽公園内	弥生時代／包含層 平安時代／包含層	弥生土器、瓦器椀	京都市	61
82	225403	下鳥羽遺跡	試掘	下鳥羽北／口町	弥生時代／方形周溝墓、土坑 平安時代／整地層	弥生土器、土師器、須恵器、滑石製勾玉	京都市	62・63
83	245362	芹川城跡	試掘	下鳥羽渡瀬町	古墳時代後期／柱穴（竪穴建物？）	土師器高杯、須恵器杯蓋	京都市	本報告

北側には、旧鴨川の本流が北東から南西へ向かって流れており、その支流が下鳥羽遺跡一帯を網の目状に流走していたことが推測される。河川堆積には弥生時代から平安時代までの遺物が含まれていることから、削平された遺構も多いとみられる。

**平安時代末期～鎌倉時代、室町時代（図57）** 河川の氾濫は平安時代末期頃に収束し、やがて後背湿地となる。平安時代以後の遺構群はこの湿地を避けるように展開する。油小路付近の河道は自然堤防を形成し、その微高地上へと居住域が移動する。一方、南居住域付近は、河川の氾濫をまぬがれたことから鎌倉時代～室町時代も安定した遺構面が形成されており、中世村落への発展が窺える。芹川城の築城はこの頃と推定されるが、現包蔵地範囲内の南東部は河川の影響による湿地化が顕著であり、遺構の確認には至っていない。これらの成果を踏まえると、芹川城はより安定した地盤が得られる北西側に展開した可能性が高い。（黒須 亜希子）

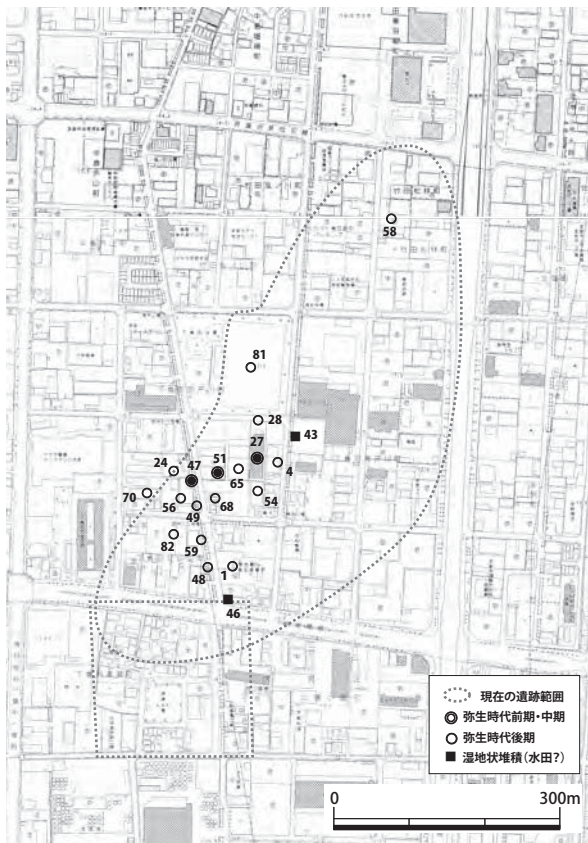


図54 弥生時代前期～後期の遺構検出地点  
(1 : 10,000)

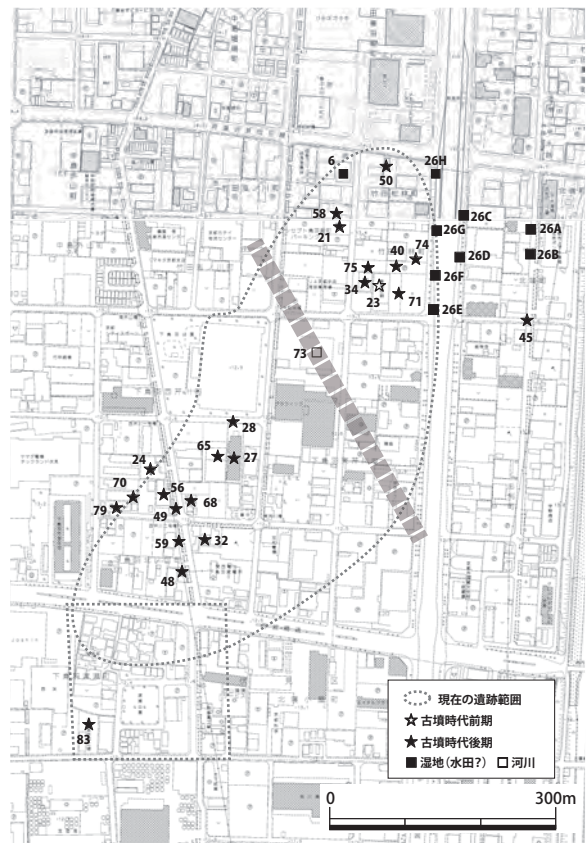


図55 古墳時代の遺構検出地点 (1 : 10,000)

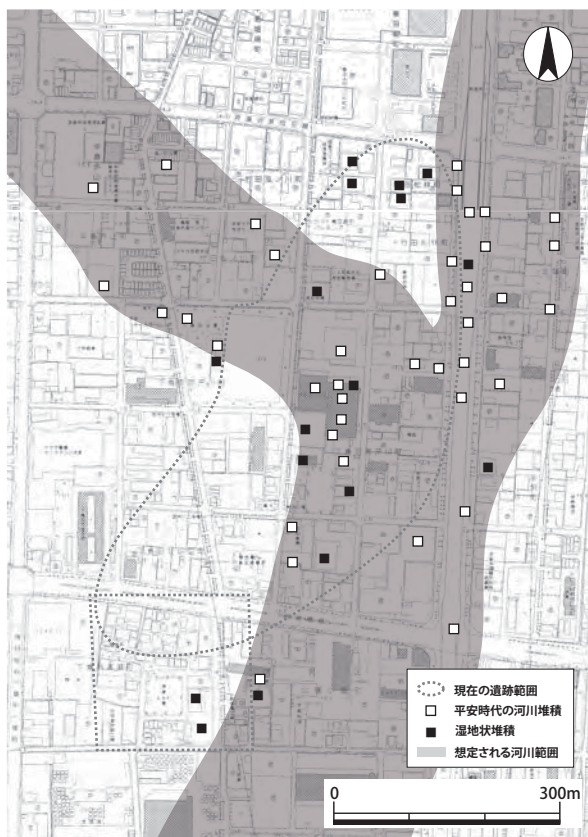


図56 平安時代の河川と湿地確認地点  
(1 : 10,000)



図57 平安時代～室町時代の遺構検出地点  
(1 : 10,000)

## 4. まとめ

以上、芹川城跡の試掘調査成果について、周辺の調査状況を含めて報告した。

今回の調査では、城跡を示す明確な遺構・遺物は認められなかったが、6世紀に属する土師器及び須恵器が出土した。芹川城跡北半以北には、弥生～古墳時代の集落跡である下鳥羽遺跡が存在しており、今回確認した遺構群もこれに連なる可能性が高い。

これまで、下鳥羽遺跡の範囲については、遺跡東側に広がる湿地に挟まれた細長い微高地上に集落・墓域が展開するものと想定されてきた<sup>3)</sup>。今回の成果を踏まえると、下鳥羽遺跡が当該地附近まで及ぶことが想定できる。今後、当該期の遺構の分布状況に注意を払う必要がある。

(西森 正晃)

### 註

- 1) 山下正男『京都市内及びその近辺の中世城郭-復原図と関連資料-』京都大学人文科学研究所調査報告第35号』、京都大学人文科学研究所、1986年。
- 2) 調査1：「一覧表No.21」引用文献42、調査2：「一覧表No.132」引用文献52、「一覧表No.115」引用文献53
- 3) 堀大輔「下鳥羽遺跡1」引用文献42

### 引用文献

1. 京都市文化観光局文化財保護課『京都市内遺跡試掘・立会調査報告』1980年。
2. 京都市埋蔵文化財調査センター・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘・立会調査報告 昭和55年度』1981年。
3. (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2011年。
4. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘・立会調査概報 昭和56年度』1982年。
5. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』1983年。
6. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和58年度』1984年。
7. (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1985年。
8. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』1985年。
9. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』1986年。
10. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』1987年。
11. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『下鳥羽遺跡発掘調査概報 昭和62年度』1988年。
12. (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1989年。
13. 京都市文化観光局・(財)京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』1988年。
14. (財)京都市埋蔵文化財研究所『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』1991年。
15. 京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』1989年。
16. 京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』1990年。
17. 京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』1991年。
18. 京都市文化観光局『京都市内遺跡立会調査概報 平成3年度』1992年。
19. 京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘調査概報 平成3年度』1992年。
20. 京都市文化観光局『京都市内遺跡試掘調査概報 平成4年度』1993年。
21. 京都市文化観光局『京都市内遺跡立会調査概報 平成5年度』1994年。

22. 京都市文化観光局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成5年度』1994年。
23. 京都市文化観光局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』1995年。
24. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』1997年。
25. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成8年度』1997年。
26. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』1998年。
27. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成9年度』1998年。
28. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』1999年。
29. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成10年度』1999年。
30. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』2000年。
31. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成11年度』2000年。
32. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』2001年。
33. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』2002年。
34. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成13年度』2002年。
35. (財)京都市埋蔵文化財研究所 『鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-8、2002年。
36. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』2003年。
37. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成14年度』2003年。
38. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査概報 平成16年度』2005年。
39. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成16年度』2005年。
40. (財)京都市埋蔵文化財研究所 『平成13年度 京都市埋蔵文化財調査概要』2004年。
41. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』2006年。
42. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成17年度』2006年。
43. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査報告 平成18年度』2007年。
44. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成18年度』2007年。
45. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』2008年。
46. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成19年度』2008年。
47. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』2009年。
48. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成22年度』2011年。
49. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成24年度』2013年。
50. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成24年度』2013年。
51. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成25年度』2014年。
52. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成25年度』2014年。
53. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成26年度』2015年。
54. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成28年度』2017年。
55. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成29年度』2018年。
56. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 平成29年度』2018年。
57. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成30年度』2019年。
58. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 令和元年度』2020年。
59. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告令和元年度』2020年。
60. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和3年度』2022年。
61. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡詳細分布調査報告 令和4年度』2023年。
62. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 令和4年度』2023年。
63. 京都市文化市民局 『京都市内遺跡試掘調査報告 令和5年度』2024年。

## IV 試掘調査一覧表

□令和7年 1～3月 【令和6年度】

### 平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
1	内裏跡、聚楽遺跡	上京区下立売通千本東入田中町 430	2/28	GL-0.85m で明黄褐色シルトの地山を確認。大部分が近世以降の攪乱。	16 m <sup>2</sup>	24K612
2	内裏跡、聚楽遺跡	上京区田中町 448、450-1	1/16	GL-0.79m で黒褐色泥土の平安時代整地層を確認。発掘調査を指導。	23 m <sup>2</sup>	24K304
3	朝堂院跡	中京区聚楽廻南町 1-24	2/20	GL-0.65 m でにぶい黄橙色砂礫の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	14 m <sup>2</sup>	24K608

### 平安京左京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
4	二条二坊十二町跡	中京区矢幡町 308	3/5・6	GL-0.9 m でにぶい黄褐色細砂混じりシルトを主体とする平安時代整地層、-1.4 m でにぶい黄橙色砂礫の河川堆積を確認。発掘調査を指導。	77 m <sup>2</sup>	24H372
5	二条三坊七町跡、烏丸丸太町遺跡	中京区室町通丸太町下る道場町 4-1、4-4、4-13、4-14、8-1	3/25・26	GL-1.5 m で室町時代の整地層、-2.0 m で黄褐色シルトの地山。	59 m <sup>2</sup>	24H462
6	三条四坊二町跡	中京区間之町通押小路下る高田町 499、499-6、495、497・同区左京町 126-1、126-2、126-3	3/3・4	GL-1.4 ～ -2.3 m で中世以前から近世の遺構面5面を確認。土坑や押小路南側溝とみられる東西溝などの遺構を検出。発掘調査を指導。	77 m <sup>2</sup>	24H442
7	四条一坊四町跡	中京区壬生御所ノ内町 29-3、29-4	3/7	GL-1.05 ～ -1.6 m で黄灰混じりシルト・灰色砂礫の河川堆積。河川堆積上面で平安～中世の遺構を確認。発掘調査を指導。	8 m <sup>2</sup>	24H329
8	六条二坊五町・七条二坊八町跡、本國寺城跡	下京区猪熊通五条下る柿本町 600-1	1/27～2/14	平安時代末期～江戸時代にかけての複数の遺構面を確認。本文7ページ。	399 m <sup>2</sup>	24H452
9	八条四坊十二町跡	下京区西之町	1/17	GL-1.08m で褐色砂礫を確認。遺構・遺物なし。	11 m <sup>2</sup>	24H374

### 平安京右京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
10	四条三坊十町跡、西ノ京遺跡	右京区西院春栄町 39、40	3/24	GL-1.2 m で平安時代整地層、-1.3 m で地山を確認。地山上面で溝・土坑などを確認。	27 m <sup>2</sup>	24H547
11	八条三坊十一町跡	右京区西京極下沢町 22-1、23-1、25	1/20	GL-1.01 m 以下で河川堆積を確認。	82 m <sup>2</sup>	24H306
12	九条一坊十二町跡、史跡西寺跡、西寺跡、唐橋遺跡	南区唐橋西寺町 68-2	2/18	GL-0.25m で黄褐色砂泥の地山を確認。顕著な遺構・遺物は確認できず。	8 m <sup>2</sup>	6 N092

13	九条四坊七町跡、 九条坊門小路跡	南区吉祥院宮ノ西町 34、35、36	2/18	GL-1.07 m～-1.35 mで暗灰黄色細砂～粗砂の河川堆積を確認。遺構・遺物は確認できず。	52 m <sup>2</sup>	24H443
----	---------------------	-----------------------	------	--	-------------------	--------

#### 太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
14	嵯峨折戸町遺跡	右京区嵯峨天龍寺 油掛町 8-2、8-4、 8-5	3/28	GL-1.4 mで時期不明包含層、-1.6 mで褐色シルトの地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	24 m <sup>2</sup>	24S672
15	史跡及び名勝嵐山、 嵯峨遺跡	右京区嵯峨天龍寺 芒ノ馬場町 3-49	1/8	北半では GL-0.2 mで中世の遺構面、南半では -0.65 mで平安時代末～鎌倉時代の遺構面が残存。地中保存。	36 m <sup>2</sup>	6N076
16	史跡及び名勝嵐山、 嵐山谷ヶ辻子町遺跡	京都市西京区嵐山 山ノ下町 4-9の一部	2/27	GL-0.7 mで近世包含層と地山を確認。	5 m <sup>2</sup>	6N096

#### 洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
17	史跡賀茂御祖神社境内 (下鴨神社)	左京区下鴨泉川町 59	2/5	GL-0.3 mで遺構面を確認。	10 m <sup>2</sup>	6N009
18	上京遺跡	上京区大宮通五辻下 る観世町 123-6・同 区今出川通大宮東入 元伊佐町 271-4 ほか	2/25	GL-2.1m で黄褐色シルト～細砂の地山を確認。顕著な遺構・遺物なし。	47 m <sup>2</sup>	24S472

#### 北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
19	白河街区跡、岡崎遺跡	左京区岡崎円勝寺町 91-4 ほか	2/26・ 27	GL-2.0m で黒褐色泥土の中世包含層、-2.4 mで灰白色細砂～粗砂の地山を確認。	30 m <sup>2</sup>	24S322

#### 洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
20	法性寺跡	東山区福稲上高松町 11	1/10	GL-0.3 mで黒褐色シルトの土壌化層、-0.4 mで明褐色砂礫の地山、-0.6 mでにぶい黄橙色シルト～粘土の地山。攪乱により遺構面の大半は削平を受ける。	15 m <sup>2</sup>	23S411

#### 伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
21	伏見城跡	伏見区深草大亀谷 万帖敷町 312	3/10・ 11	GL-0.5～-1.3 mで明赤褐色やにぶい黄橙色の砂礫が混じる粘質土や灰白色砂礫の地山。遺構・遺物は確認できず。	136 m <sup>2</sup>	24F275

#### 烏羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
22	烏羽離宮跡	伏見区中島前山町 75 の一部、76の一部	2/7	GL-1.5 mまで水成堆積を確認。	2 m <sup>2</sup>	24T568

23	芹川城跡	伏見区下鳥羽渡瀬町 127、128	1/9	GL-1.75 mで古墳時代包含層、-1.95 mで浅黄色シルトの地山。包含層は竪穴建物の可能性あり。設計変更の上、地中保存。 本文 52 ページ。	15 m <sup>2</sup>	24S362
----	------	----------------------	-----	---	-------------------	--------

### 長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
24	左京三条四坊六町・十一町跡	伏見区久我西出町 8-17	3/17 ～ 21	GL-0.7 mで灰色粘土質シルトの中世包含層、-1.0 mでオリーブ褐色細砂混じり砂質シルト、-1.4 mで灰色粘土質シルトの地山を確認。顕著な遺構・遺物なし。	172 m <sup>2</sup>	24NG520
25	左京三条四坊十町跡	伏見区久我西出町 7-19、82	1/14・ 15	GL-1.5m で黄褐色シルトの地山を確認。顕著な遺構・遺物なし。	81 m <sup>2</sup>	24NG327
26	左京三条四坊十五町・十六町跡	伏見区久我森ノ宮町 6-7 ほか 24 筆	1/23・ 24	GL-1.3 mで褐色シルトの地山。地山上面で長岡京期の溝のほか、時期不明ピット、弥生時代の土坑を確認。発掘調査を指導。	171 m <sup>2</sup>	24NG483

## ■令和7年 4～12月 【令和7年度】

### 平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
27	大蔵省跡	上京区中立売通千本 西入亀屋町 42、 47-2、47-3、48-3	7/15	GL-0.8 mでにぶい黄橙色シルト礫混じりの地山。近世前半の土坑、ピットを確認。	21 m <sup>2</sup>	24K629
28	大蔵省跡、聚楽第跡	上京区上長者町通浄 福寺西入新柳馬場頭 町 520	6/20	GL-1.3 ～ -1.7 mで粘質シルトの地山。顕著な遺構・遺物確認できず。	27 m <sup>2</sup>	25K019
29	内蔵寮跡	上京区二本松町 7-3	4/24	GL-0.42m で暗オリーブ色砂礫、-1.0m で暗オリーブ褐色泥砂、-1.43 ～ -1.69m で灰黄色細砂を確認。顕著な遺構・遺物なし。	7 m <sup>2</sup>	24K569
30	内蔵寮跡	上京区下長者町通 土屋町西入二本松町 8、10-4、10-17	6/19	GL-0.4m で褐色細砂の地山。近代の攪乱のみ。	20 m <sup>2</sup>	25K169
31	内裏跡、聚楽第跡	上京区裏門通出水 上る白銀町 248	10/14	GL-1.1 m以下に湿地状堆積を確認したが、-2.5 mまで近世遺物が出土。	23 m <sup>2</sup>	25K292
32	朝堂院跡、聚楽遺跡	上京区千本通下立売 下る小山町 908-70、 908-71、908-100	4/25	GL-1.25m で明黄褐色シルトの地山を確認。	20 m <sup>2</sup>	24K111
33	朝堂院跡、聚楽遺跡	上京区千本通下立売 下る小山町 906・同 区下立売通千本東 下る中務町 491-48、 491-84	6/4	GL-0.55 ～ -0.8 mで黄橙色粘質シルトの地山。顕著な遺構・遺物確認できず。	24 m <sup>2</sup>	23K310
34	豊楽院跡	中京区聚楽廻中町 31-2	10/6	GL-0.2 ～ -1.5 mでにぶい黄橙色泥砂の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	62 m <sup>2</sup>	25K145

35	大膳職跡、二条城北遺跡	上京区日暮通丸太町下る南伊勢屋町 751	12/24	GL-1.52 mまで攪乱、-1.52 mで明黄褐色砂礫混シルトの地山を確認。上部は全て近世～近代の土取り穴で壊されており遺構・遺物は確認できず。	12 m <sup>2</sup>	25K286
----	-------------	----------------------	-------	---	-------------------	--------

平安京左京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
36	北辺三坊三町跡、内膳町遺跡	上京区室町通中立売下る花立町 502	9/24	GL-1.15 ~ -1.6 mで平安時代から江戸時代前期の遺構面4面を確認。室町小路西側溝とみられる南北溝などを検出。 <b>設計変更を指導。遺構は地中保存。本文3ページ。</b>	37 m <sup>2</sup>	25H245
37	一条三坊十一町跡、旧二条城跡	上京区烏丸通下立売上る桜鶴岡町 375-1、376、377の一部	12/26・27	旧二条城跡の堀を確認。	42 m <sup>2</sup>	25H384
38	二条三坊六町跡	中京区衣棚通竹屋町下る花立町 272-1	11/13・14	GL-1.2 mで室町時代の整地層、-1.6 mで鎌倉時代の整地層、-1.9 mでにぶい黄褐色砂礫の地山を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	62 m <sup>2</sup>	25H210
39	二条三坊十四町跡、烏丸丸太町遺跡	中京区少将井町 226ほか 11 筆	6/9	GL-1.2mで中世末～近世初頭遺構面、以下計7面の遺構面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	12 m <sup>2</sup>	25H126
40	三条三坊七町跡、烏丸御池遺跡、妙覚寺城跡	中京区御池上る御池之町 315、315-1、315-2、317	6/6	GL-0.5 ~ -1.0 mで暗灰黄色粘質土、-1.5 mで灰色オリーブ粘質シルト、-1.6 mでにぶい黄橙色細砂、-2.0 mで炭化物を多く含む黒褐色粘質土、-2.25 ~ -2.75 mで浅黄色砂礫の地山。	45 m <sup>2</sup>	25H074
41	三条四坊二町跡	中京区間之町通押小路下る高田町 99、499-6、495、497・同区左京町 126-1、126-2、126-3	10/31	GL-0.9 ~ -2.0 mで平安時代～江戸時代前期の遺構面5面を確認。土坑などの遺構を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	26 m <sup>2</sup>	24H442
42	四条一坊六町跡	中京区壬生坊城町 33-3	11/28	GL-0.65 ~ -1.0 mで平安時代～中世の遺構面3面を確認。土坑や坊城小路東側溝とみられる南北溝などの遺構を検出。 <b>発掘調査を指導。</b>	45 m <sup>2</sup>	25H129
43	四条一坊十六町跡	中京区大宮通三条下る三条大宮町 250	8/25・28	GL-2.0 mまで攪乱。遺構・遺物は確認できず。	8 m <sup>2</sup>	25H196
44	五条一坊十三町跡	中京区壬生相合町 1	8/26	GL-1.12mで径1 ~ 2 cmの礫含む黒色粗砂混シルト、-1.33mで径1 ~ 3 cmの礫含む黒色粗砂混シルト、-1.8mで黄橙色粗砂混シルト、-2.0mで黒褐色礫混シルトの地山。顕著な遺構・遺物確認できず。	7 m <sup>2</sup>	23H627
45	五条二坊五町跡	下京区岩上通高辻下る吉文字町 457、459-1、461-2	12/25	計画地の西半で3面の遺構面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	23 m <sup>2</sup>	25H421
46	六条二坊八町跡、烏丸綾小路遺跡	下京区猪熊通五条下る柿本町 690、626-1	5/12 ~ 15	計画地の一部で4面の遺構面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	146 m <sup>2</sup>	24H305
47	七条一坊五町跡	下京区夷馬場町 45	5/1	GL-0.3mで褐灰色シルトの中世包含層、-0.5mで暗赤褐色シルトの土壌化層、-0.55 mで径1 ~ 2 cmの礫含む褐色シルトの地山、-0.77mで径1 ~ 3 cmの礫含む褐色粗砂。顕著な遺構・遺物確認できず。	19 m <sup>2</sup>	25H034

48	七条一坊十町跡	下京区薬園町 170-1、170-6 同区二人司町 13-2、13-3	4/22	GL-0.6m 以下 4 時期の遺構面を確認。 発掘調査を指導。	47 m <sup>2</sup>	24H673
49	七条四坊十一町跡	下京区西高瀬川筋 正面下る八王子町 102 ほか	11/21	GL-0.5m で暗灰黄色細砂混シルトの近世包含層、-0.65m でにぶい黄褐色砂礫混シルトの時期不明包含層、-0.85m で黄褐色粗砂や暗灰黄色砂礫などの河川堆積。顕著な遺構・遺物確認できず。	43 m <sup>2</sup>	25H297
50	八条二坊一町跡、 東市跡	下京区大宮通木津屋 橋上る上之町 426-1	6/17	GL-0.5 ～ -1.9 m で平安時代～江戸時代初期の遺構面を確認し、土坑・溝などの遺構を検出。本文 24 ページ。	26 m <sup>2</sup>	25H027
51	八条二坊九町跡	下京区七条通東堀川 西入八百屋町 2、3、 11、19	6/24	GL-1.15m で黄灰色細砂混シルトの時期不明整地層、-1.2m で黒褐色粗砂混シルトの時期不明整地層、-1.6m で黄灰色～暗灰黄色砂礫の地山。整地層上面で室町時代の遺構を確認。発掘調査を指導。	28 m <sup>2</sup>	24H455
52	八条四坊五町跡	下京区西之町 36-7、 161-1、161-3、 161-5、284-1、 285、289	4/3 ・4	GL-0.65 ～ -1.4 m まで氾濫堆積、-1.4 m で灰黄色礫混じり粘質土の近世耕作土、-1.6 m で黄褐色砂礫の氾濫堆積。顕著な遺構は確認できず。	107 m <sup>2</sup>	24H491
53	八条四坊九町跡	下京区郷之町他 地内	10/27	GL-0.46 m 以下で、旧高瀬川に伴う護岸石垣や木板・木杭を確認。発掘調査を指導。	12 m <sup>2</sup>	25H162
54	九条三坊四町跡、 烏丸町遺跡	南区東九条下殿田町 12	10/9	GL-1.0 m でオリーブ灰色砂礫の氾濫堆積層。顕著な遺構・遺物は確認できず。	43 m <sup>2</sup>	25H137

### 平安京右京

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
55	一条二坊四町跡	上京区下立売通御前 西入行衛町 439-1 他	5/26	GL-0.76m で黒色シルトの中世包含層、-1.25m で黒色泥砂の中世包含層、-1.42m で地山のにぶい黄褐色砂礫。顕著な遺構・遺物は確認できず。	21 m <sup>2</sup>	25H093
56	二条二坊二町跡	中京区西ノ京南両町 105、106、108	5/2	GL-0.6m で黄褐色泥砂の時期不明整地土、-1.0m で明黄褐色シルトの地山。整地土上面で平安末～鎌倉時代の遺構を検出。発掘調査を指導。	62 m <sup>2</sup>	25H036
57	二条二坊三町跡	中京区西ノ京冷泉町 30-2	8/6	GL-0.7 ～ -0.9 m にて鎌倉時代整地層、-1.1 ～ -1.9 m で黄灰色シルトの地山。両遺構面上面で平安時代中期～鎌倉時代の溝、土坑、柱穴などを確認。発掘調査を指導。	41 m <sup>2</sup>	25H170
58	三条一坊十一町跡、 壬生遺跡	中京区西ノ京東月光 町 22-13 ほか	5/28	GL-0.4m で黒褐色シルト、-0.63m でにぶい黄褐色砂礫の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	23 m <sup>2</sup>	25H099
59	四条三坊十町跡、 西ノ京遺跡	右京区西院春栄町 39、40	6/30	GL-1.2 m で平安時代整地層、-1.45 m で地山を確認。地山上面では溝、ピットを確認するが、大半は攪乱による削平を受ける。設計変更。一部、発掘調査を指導。	80 m <sup>2</sup>	24H547

60	四条四坊九町跡、 山ノ内遺跡	山ノ内西裏町 11-2、 11-4 の一部	10/28	GL-1.0 m で明黄褐色砂礫の地山、-1.2 ~ -1.5 m で明黄褐色シルト～細砂の地山。 顕著な遺構・遺物は確認できず。	22 m <sup>2</sup>	25H352
61	五条一坊十六町跡	中京区壬生森前町 16-1	10/30	GL-1.69 m でにぶい黄褐色砂礫 (Fe 含む) の流れ堆積、-1.98 ~ -2.21 m で灰色礫混じ り粗砂。顕著な遺構・遺物は確認できず。	16 m <sup>2</sup>	25H389
62	五条二坊十二町跡、 西院遺跡	右京区西院平町 37-1 の一部、 37-2、37-3	10/29	GL-0.7 m でオリーブ黄色シルト～極細砂 の流れ堆積、-1.15 m で灰色砂礫、-1.65 m で暗青灰色粘土の湿地状堆積。顕著な遺構・ 遺物は確認できず。	25 m <sup>2</sup>	25H229
63	五条三坊十町跡	右京区西院久田町 2-1、2-4	10/8	GL-1.2 m で灰オリーブ色泥土又は砂礫の地 山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	37 m <sup>2</sup>	25H337
64	五条四坊六町跡、 西京極遺跡	右京区西院安塚町 98	11/20	GL-1.2m で弥生～古墳時代、中世の遺構を 検出。発掘調査を指導。	37 m <sup>2</sup>	25H230
65	六条三坊五町跡	右京区西院西溝崎町 35	4/23	GL-0.95m でにぶい黄褐色シルトの地山。	55 m <sup>2</sup>	24H422
66	六条三坊五町跡	右京西院西溝崎町 36、37	6/16	GL-0.5 m で褐灰色粘質土 (Mn 含む) の湿 地状堆積、-0.8 m で明黄褐色粘質シルト の地山。	88 m <sup>2</sup>	25H173
67	六条四坊八町跡、 西京極遺跡	右京区西院月双町 61-1、3、4	5/27	GL-1.2 ~ -1.4m でやや安定した灰色シル トを確認。発掘調査を指導。	59 m <sup>2</sup>	25H008
68	七条三坊十六町跡	右京区西京極豆田町 17、18、29-1、 29-4、30	8/29	GL-0.95 m でオリーブ黄色泥砂、-1.05 m でにぶい黄色砂泥の地山。顕著な遺構・ 遺物は確認できず。	15 m <sup>2</sup>	25H226

#### 太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
69	仁和寺院家跡、円宗寺 跡	右京区宇多野柴橋町 16-26、16-27	12/1	GL-1.0m で明黄褐色シルトの地山。顕著 な遺構・遺物は確認できず。	44 m <sup>2</sup>	25S309
70	常盤東ノ町古墳群、 村ノ内町遺跡	右京区常盤村ノ内町 8-12	9/1 ～3	GL-1.0 m 以下で溝を検出したが全体的な 残りは悪い。本文 33 ページ。	204 m <sup>2</sup>	25S180
71	史跡・名勝嵐山、 嵯峨遺跡	右京区嵯峨天龍寺 芒ノ馬場町 29-1 ほか 10 筆	9/3	顕著な遺構・遺物なし。	3 m <sup>2</sup>	7N017
72	上ノ段町遺跡	右京区太秦堀ヶ内町 1-3、1-9、1-10、 1-11	9/18	GL-0.5 m でにぶい黄褐色微砂混じり粘土 質シルト～礫混じりシルトの無遺物層 (造成土)、-0.9 ~ -1.25 m でにぶい黄褐 色微砂混じり粘土質シルトの地山を確認。 無遺物層上面で時期不明ピットを 1 基検 出。遺物は確認できず。	25 m <sup>2</sup>	25S251

#### 洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	番号
73	本山遺跡	左京区静海市原町 767-1、768、769、 770	5/22	GL-0.42 m で明黄褐色シルト～黄灰色粗砂 の地山を確認。	124 m <sup>2</sup>	24S352

74	河上瓦窯跡	北区西賀茂丸川町 63	7/14	GL-1.15 m で地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	15 m <sup>2</sup>	24S556
75	植物園北遺跡	北区上賀茂岡本町 30、30-1、30-3、 30-4	6/11 ・12	GL-0.7 m で橙色シルトの地山。地山上面で多数のピット、礎石、土坑を確認。発掘調査を指導。	69 m <sup>2</sup>	25S085
76	植物園北遺跡	北区上賀茂土門町 53、54、58	6/23	GL-0.6m で暗赤褐色粗砂、-0.73m で灰黄褐色砂礫の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	55 m <sup>2</sup>	24S656
77	植物園北遺跡	北区上賀茂土門町 58 の一部	6/23	GL-0.3 ~ -0.7m で灰黄褐色砂礫の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず。	5 m <sup>2</sup>	25S108
78	植物園北遺跡	北区上賀茂石計町 46-1、46-2	12/4	GL-0.65 m で黒褐色粗砂混じりシルトの古墳時代後期包含層、-0.75 m で褐色細砂混じりシルトの地山を確認。地山上面で時期不明のピット、土坑のほか、東西溝を検出。	36 m <sup>2</sup>	25S211

### 北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
79	寺町旧域、御土居跡	上京区今出川通寺町 東入大宮町 313、 313-2、315-1、 315-2、322	9/16	GL-0.6 m で黒褐色細砂混じりシルトの中世包含層、-0.85 ~ -1.6 m で暗オリーブ褐色砂礫の河川堆積を確認。御土居に由来するとみられる傾斜面を検出。発掘調査を指導。	12 m <sup>2</sup>	25S084
80	寺町旧域	上京区中筋通石薬師 下る新夷町 385	9/9	GL-0.75 m で灰黄褐色泥砂の江戸後期整地層、-1.0 m で黄灰色泥砂の江戸中期整地層、-1.25 m でにぶい黄色砂礫の基盤層を確認。遺構密度が希薄で顕著な遺構・遺物は確認できず。	12 m <sup>2</sup>	24S538
81	白河南殿跡、白河街区跡	左京区聖護院蓮華蔵 町 54-11	10/10	GL-1.1 m で時期不明包含層、-1.3 m で灰色砂礫の基盤層。顕著な遺構・遺物は確認できず。	10 m <sup>2</sup>	25R353
82	法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町 61 ほか	7/7 ~ 10	盛土及び旧耕作土の下に河川他堆積が続く。調査地北部のみ旧耕作土直下で中世以降の整地層を確認。ただし、遺構密度は希薄で、顕著な遺構・遺物は確認できず。	174 m <sup>2</sup>	25R185
83	法勝寺跡、白河街区跡、岡崎遺跡	左京区岡崎法勝寺町	11/10・ 17・18	GL-0.8 m 以下、塔に伴う掘り込地業を確認。	11 m <sup>2</sup>	25R123
84	白河街区跡	左京区新車屋町 166-1、166-2・ 同区新東洞院町 252、252-2	9/10	GL-0.75 m で褐灰色微砂、-1.25 m で礫含む褐灰色微砂、-1.55 m でオリーブ褐色砂礫。礫含む褐灰色微砂層より 12 世紀の土師皿が少量出土。	36 m <sup>2</sup>	25S016
85	白河街区跡、岡崎遺跡	左京区岡崎円勝寺町 85-3、85-4	6/26 ・7/28	GL-0.68m で黒褐色シルトの室町包含層、-0.95m で黄灰色シルトの時期不明包含層、-1.05m で黄灰色粗砂の河川堆積。時期不明包含層を切り込む室町後半の溝を検出するも、遺構密度希薄。	14 m <sup>2</sup>	25S163

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
86	芝町遺跡	山科区四宮奈良野町 57ほか6筆	10/15 ・17	GL-0.2m以下地山。遺構・遺物は確認できず。	52㎡	25S382
87	法住寺殿跡	東山区今熊野北日吉 町17他	10/23	GL-6.6mで黄灰色砂の地山。顕著な遺構・遺物は確認できず	22㎡	23S242
88	山科本願寺南殿跡	山科区音羽伊勢宿町 39-1、40-1、40-2	4/21	GL-0.3mで山科本願寺南殿跡に関連する遺構面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	38㎡	24S436
89	山科本願寺跡 (寺内町遺跡)	山科区西野山階町 11-18	7/3	GL-1.2mで中世の遺構面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	25㎡	25S030
90	史跡随心院境内	山科区小野御霊町 35の一部	5/26 ・27	GL-0.46mで褐色砂泥（時期不明遺物包含層）、-0.68mでにぶい黄橙色泥砂の地山を確認。	35㎡	6N120

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
91	伏見城跡	伏見区桃山町伊庭 40ほか	8/18 ～21	平地部でピット・溝を検出。斜面部では遺構を検出できず。	83㎡	24F665
92	伏見城跡、指月城跡	伏見区桃山町立売 28、29	4/30	GL-0.5mで黄橙色砂泥と暗褐色砂泥の固く締まる整地層、-0.7mで明黄褐色砂質土の整地層、-0.9mで青灰色礫混じり粘質土～粘土（瓦・木片含む）の堀埋土。安土桃山～江戸時代前期の遺構面3面を確認。 <b>発掘調査を指導。</b>	28㎡	24F457
93	向島城跡	伏見区向島善阿弥町 56-1、1-9・同区 本丸町17	9/29 ～10/2 ・12/18 ・19	GL-0.25mで明黄褐色粗砂の現代盛土、-0.35～-0.4mで固く締まった褐灰色砂質土の整地層、-0.5mで褐灰色砂質土の整地層、-0.7mで黄橙色粗砂の氾濫堆積層、-0.8mで浅黄色細砂～粗砂の氾濫堆積層。ピット・溝などを確認したが、遺構密度希薄で顕著な遺構・遺物は確認できず。	219㎡	24S663

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
94	上鳥羽城跡	南区上鳥羽城ヶ前町 57-63	7/22 ・23	GL-1.5mのにぶい黄色シルト上面で弥生～古墳時代の遺構を確認。 <b>設計変更により、中保存。</b>	167㎡	25S236
95	鳥羽離宮跡	伏見区中島前山町 35、36	4/2	GL-1.25mで灰色微砂混じり粘土質シルト、-1.35mで灰白色微砂混じり粘土質シルト、-1.55mで暗灰黄色微砂混じりシルト、以下湿地土堆積が続く。顕著な遺構・遺物確認できず。	21㎡	24T441
96	久我殿遺跡	伏見区久我本町 5-7、5-52	5/29	GL-0.38mでにぶい黄褐色砂礫、-1.57mでにぶい黄褐色シルト、-2.02mで江戸時代の遺物を含む粘土もしくはシルトを確認。	13㎡	24S541
97	久我殿遺跡	伏見区久我本町 5-3	8/4	GL-1.5mで近世包含層、-1.8～-2.2mで中世氾濫堆積層。顕著な遺構・遺物は確認できず。	3㎡	25S024

長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
98	左京二条四坊七・十・十一町跡	南区久世東土川町439-4 ほか 27 筆	4/7 ～ 15	GL-0.3 ～ -0.4 m で暗灰黄色シルト等の地山。柱穴等を確認。発掘調査を指導。	623 m <sup>2</sup>	24NG333
99	左京二条四坊九・十・十五・十六町跡	伏見区久我本町11-41 ほか 16 筆	12/8	GL-0.8 ～ -1.2m で河川堆積もしくは湿地状堆積が展開。弥生時代の溝を 1 条確認、長岡京に関わる遺構・遺物は確認できず。	297 m <sup>2</sup>	25NG156
100	左京二条四坊十二町・三条四坊九町跡	伏見区久我西出町1-20、1-21、1-26、1-27	8/1・5 ・9/8・ 9/26	GL-1.1 m で Fe を含む黄褐色粘質土の基盤層。基盤層上面で、長岡京跡の二条大路に関連する溝を確認。発掘調査を指導。	226	25NG066
101	左京三条三坊十六町跡	伏見区久我西出町4-8、4-9	10/21 ・ 22	GL-1.3 m で暗灰黄色微砂混じり粘土質シルトの中世耕作土、-1.5 m で灰オリーブ色微砂～シルトの基盤層を確認。基盤層上面で、弥生時代中期～長岡京期の流路と鎌倉時代の耕作溝を検出。古墳時代の埋没流路から大脚足板が出土。発掘調査を指導。	46 m <sup>2</sup>	25NG266
102	左京三条四坊一町跡	伏見区久我西出町5-10 ほか	12/22 ・ 23	GL-0.32 m で灰白色砂礫、-0.55 m で暗赤褐色シルト混粗砂、-0.71 m で褐灰色泥土もしくは淡黄色シルト、-1.46 m で青灰色シルト質極細砂であった。有機物を含む湿地状の落込みを検出したのみで、顕著な遺構・遺物は確認できず。	75 m <sup>2</sup>	25NG097
103	左京三条四坊一町跡	伏見区久我西出町5-10 ほか	11/4 ・ 5	GL-0.6 m で灰オリーブ色シルトの地山を確認。	193 m <sup>2</sup>	25NG096
104	左京四条三坊五町・六町跡	伏見区羽東師菱川町66、68、69、87	5/19 ～ 21	GL-0.16 m で灰黄色砂泥、-0.37 m で灰黄褐色砂泥 (Fe 含む)、-0.48 m で黄灰色細砂、-0.73 m で灰色砂、-0.93 m で粘土の互層、-1.05 m で灰色粘土の湿地状堆積を確認。	124 m <sup>2</sup>	25NG087
105	左京四条三坊七・十町跡	伏見区羽東師菱川町464、465、466	5/7 ～ 9	GL-0.3 ～ -0.5 m で明黄褐色泥砂の中世耕作土、-0.5 ～ -0.8 m で淡黄色砂泥、-0.8 ～ -1.1 m で灰色シルトの弥生包含層、-1.0 ～ -1.3 m で灰白色シルトの地山。淡黄色砂泥上面で東三条坊間小路の南北溝の確認。発掘調査を指導。	124 m <sup>2</sup>	25NG052
106	左京四条三坊十町跡	伏見区羽東師菱川町473、474 ほか	11/25 ～ 27	GL-0.6 m で褐灰色砂質土の包含層。上面で四条坊間北小路南側溝、土坑等を確認。-0.8 m で明青灰色粘質土の地山。中央で、GL-0.4 m で灰黄色粘質シルトの包含層。上面で長岡京期の土坑等を確認。-0.7 m で青灰色粘質土の地山。発掘調査を指導。	141 m <sup>2</sup>	25NG127
107	左京四条四坊二町跡、 曆田遺跡	伏見区羽東師菱川町528 の一部、529-4	6/27	GL-1.0m で灰オリーブ色細砂混粘土の基盤層。遺構・遺物は確認できず。	25 m <sup>2</sup>	24NG664
108	左京四条四坊二町跡、 曆田遺跡	伏見区羽東師菱川町527-1	12/3	湿地状堆積のため調査不要。	21 m <sup>2</sup>	25NG347
109	左京九条三坊十四町跡、 旧淀城跡	伏見区納所南城堀4-4 ほか	10/7	GL-0.7 m でややしまりのある灰色細砂の近世包含層。顕著な遺構・遺物は確認できず。	29 m <sup>2</sup>	25NG330

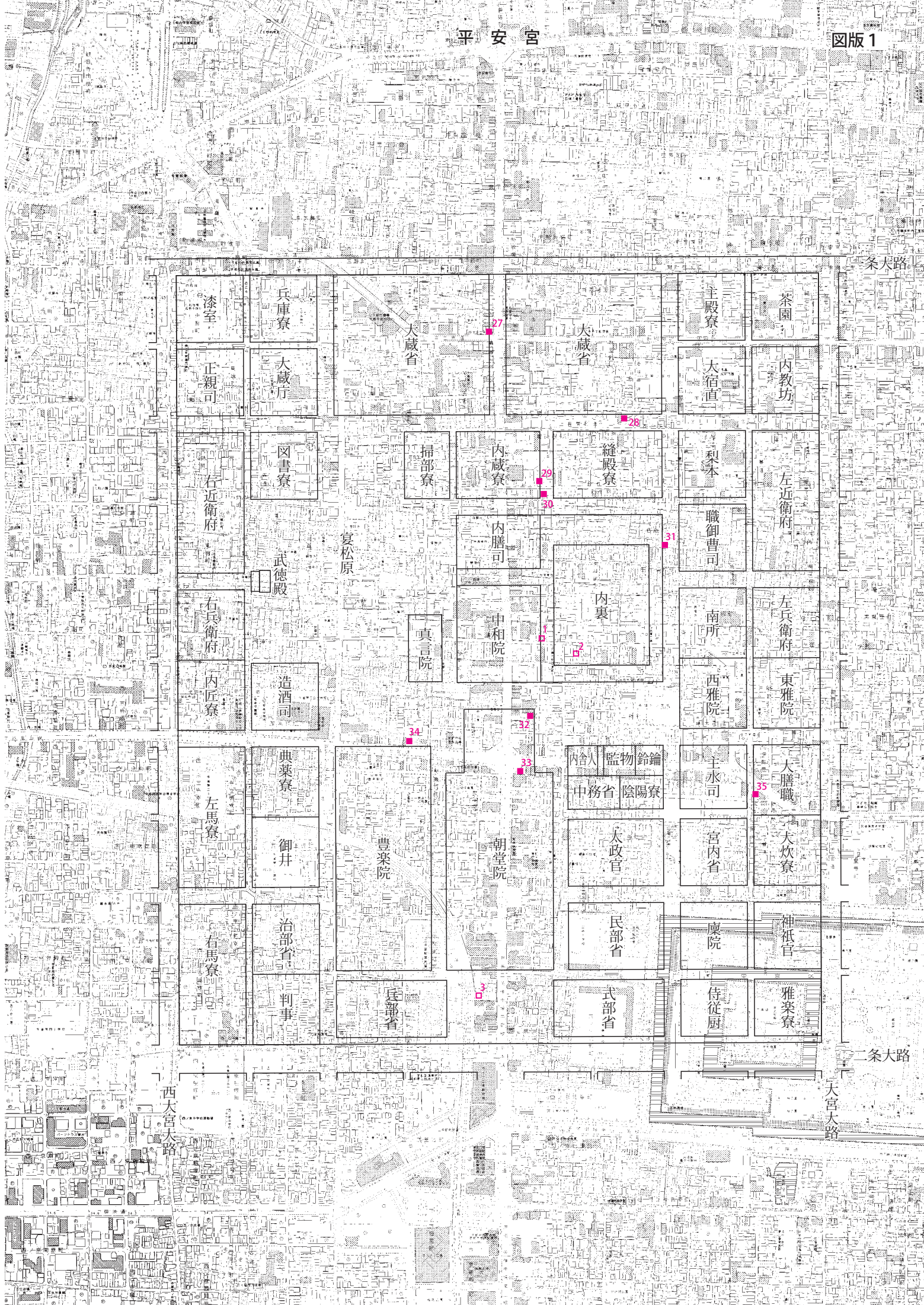
南桂川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
110	史跡・名勝嵐山	西京区嵐山上海道町 61-3、61-6、61-10	11/6	顕著な遺構、遺物なし。	10 m <sup>2</sup>	7N042
111	鏡山古墳、 上里北ノ町遺跡	西京区大原野上里 北ノ町 1130-1 ほか 5 筆	7/16 ～ 29	GL-1.64 m で地山の黄褐色砂礫。地山上面 で、堀切状遺構やピットを確認。 <b>発掘調査 を指導。</b>	60 m <sup>2</sup>	25S222
112	灰方古墳群	西京区大原野灰方町 410	4/1	GL-0.55 m でにぶい黄色微砂～シルトの地 山、-0.8 ～ -1.5 m で灰白色粘土、青灰色シ ルト。地山上面でピットを確認。	27 m <sup>2</sup>	24S423
113	中久世遺跡	南区久世中久世 五丁目 69-1	6/25	GL-0.55m で黄褐色シルトの地山。顕著な 遺構・遺物は確認できず。	35 m <sup>2</sup>	25S101

圖 版

## 凡 例

- 令和7年1～3月(令和6年度) 試掘調査地点
- 令和7年4～12月(令和7年度) 試掘調査地点



一条大路

二条大路

大宮大路

西大宮大路

漆室

兵庫寮

大藏省

大藏省

主殿寮

茶園

正親司

大藏庁

大宿直

内教坊

図書寮

掃部寮

内蔵寮

縫殿寮

利本

左近衛府

右近衛府

武徳殿

宴松原

真言院

内膳司

内裏

職御曹司

左兵衛府

右兵衛府

造酒司

中和院

南所

東雅院

内匠寮

典藥寮

豊樂院

朝堂院

内舎人

監物

鈴鑰

主水司

大膳職

左馬寮

御井

中務省

陰陽寮

宮内省

大炊寮

右馬寮

治部省

兵部省

太政官

民部省

廩院

神祇官

判事

式部省

侍從厨

雅樂寮

西大宮大路

大宮大路

27

28

29

30

31

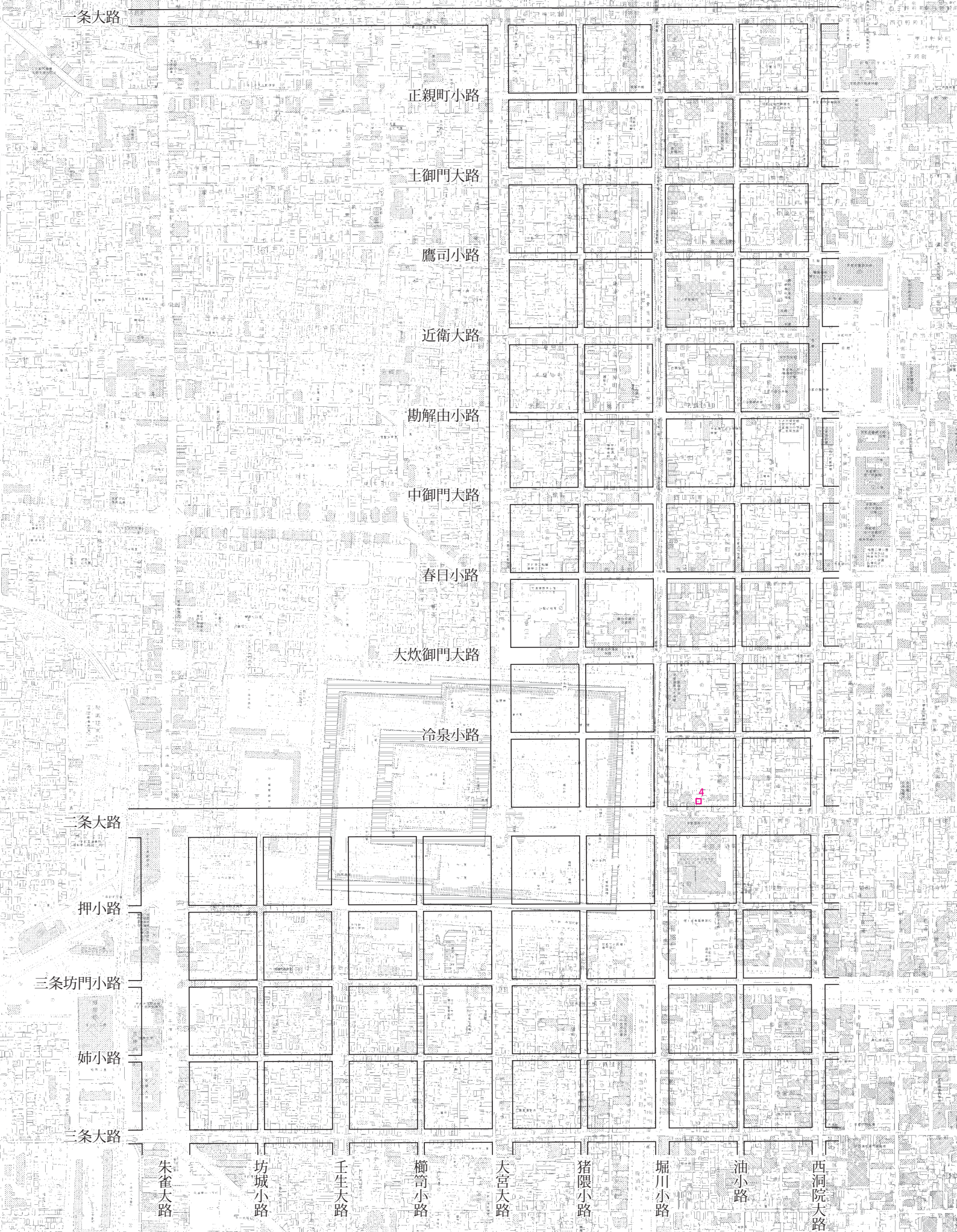
32

33

34

35

3



一条大路

正親町小路

主御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

三条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

櫛笥小路

大宮大路

猪隈小路

堀川小路

油小路

西洞院大路

4

平安京左京北辺～三条 三・四坊

図版 3

二条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

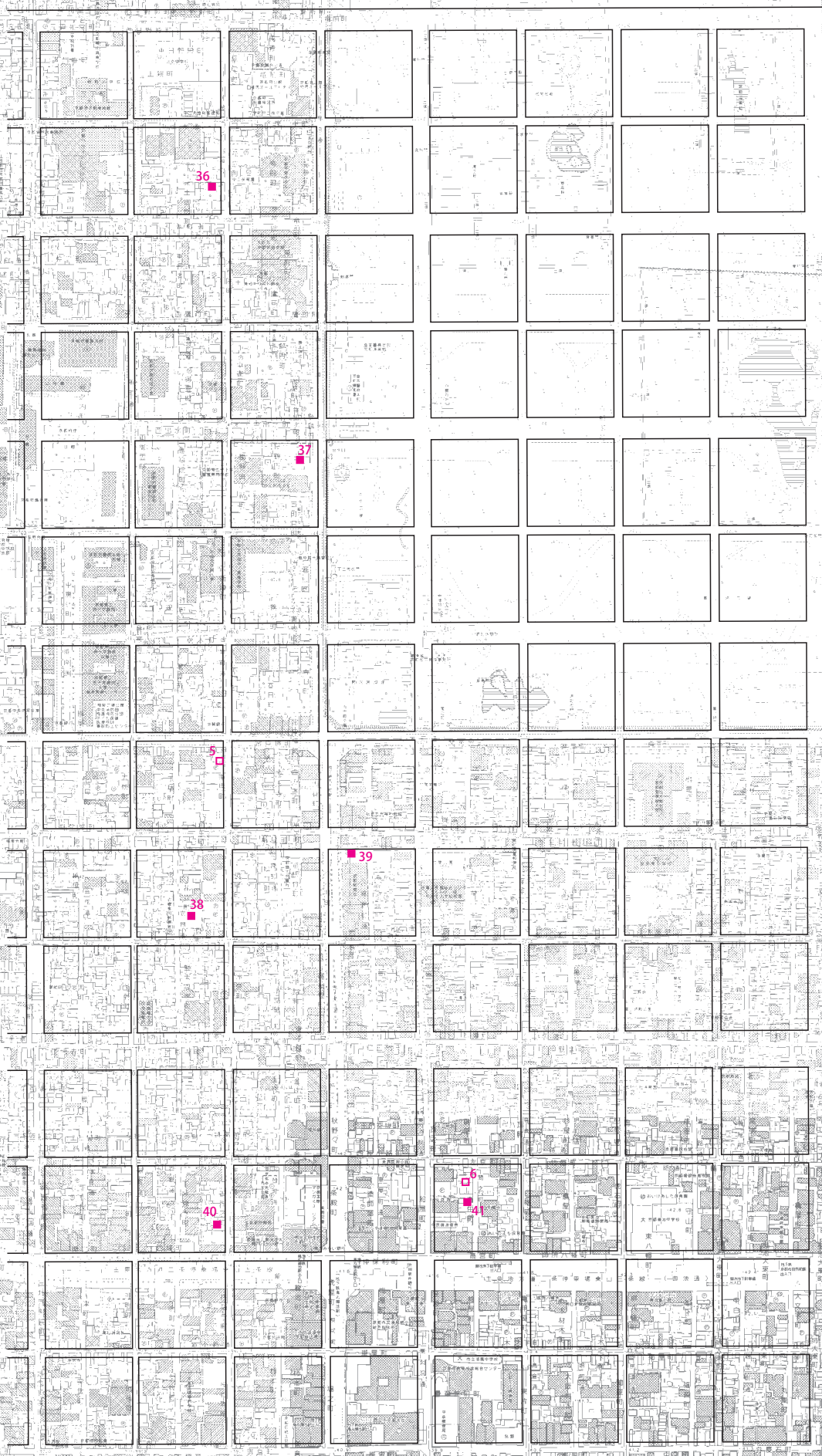
東洞院大路

高倉小路

万里小路

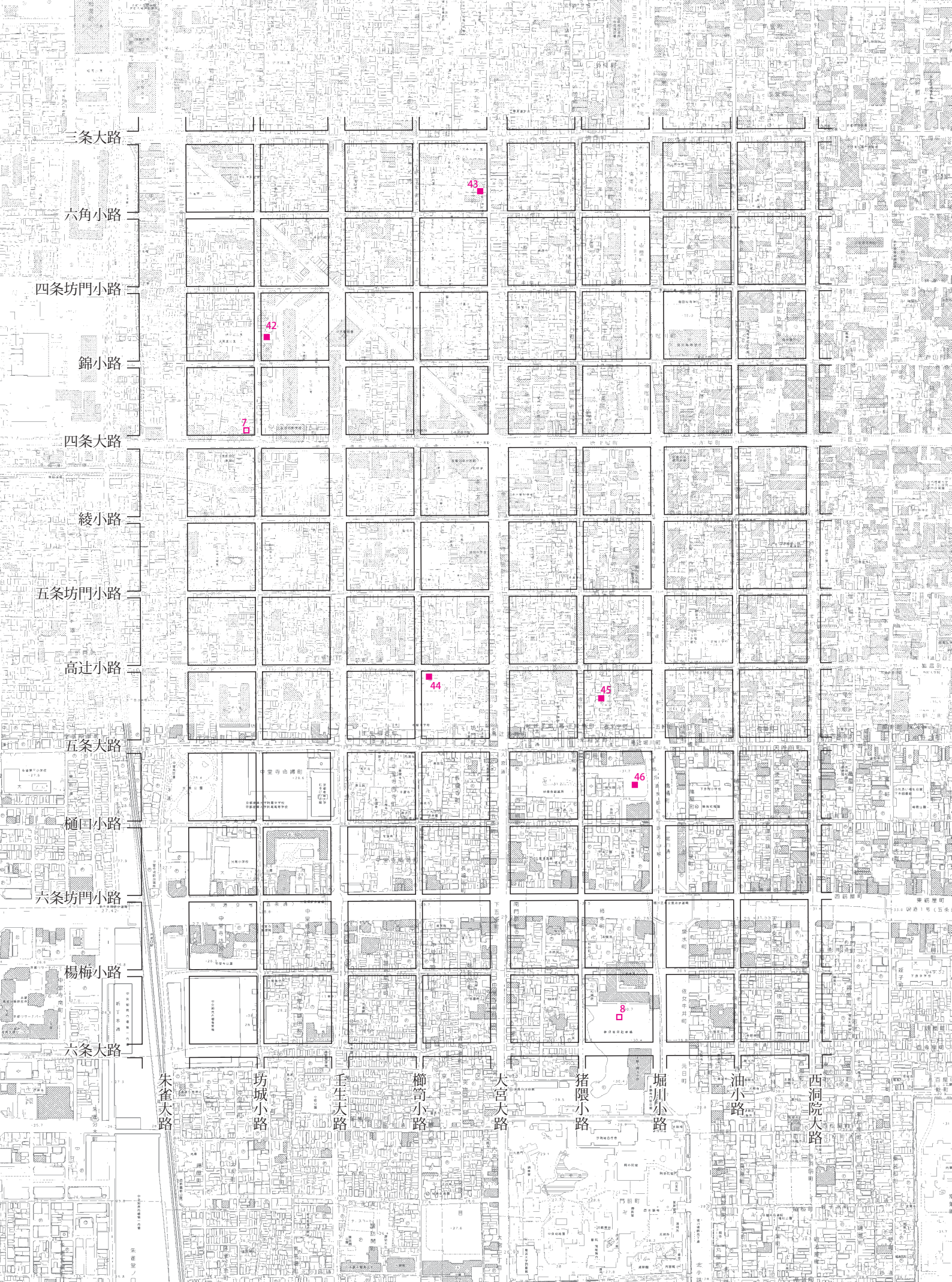
富小路

東京極大路



图版4

平安京左京四~六条 一·二坊

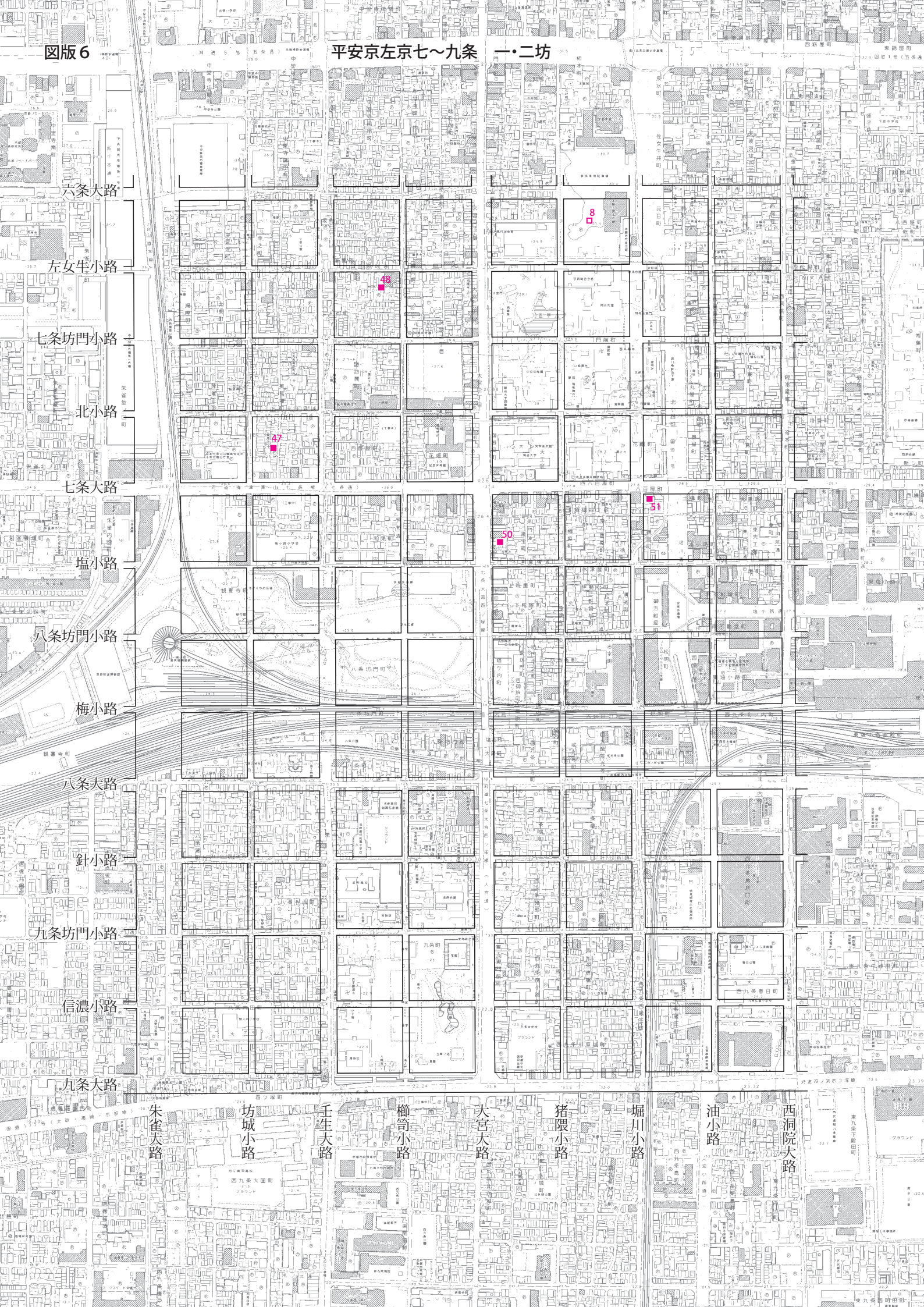


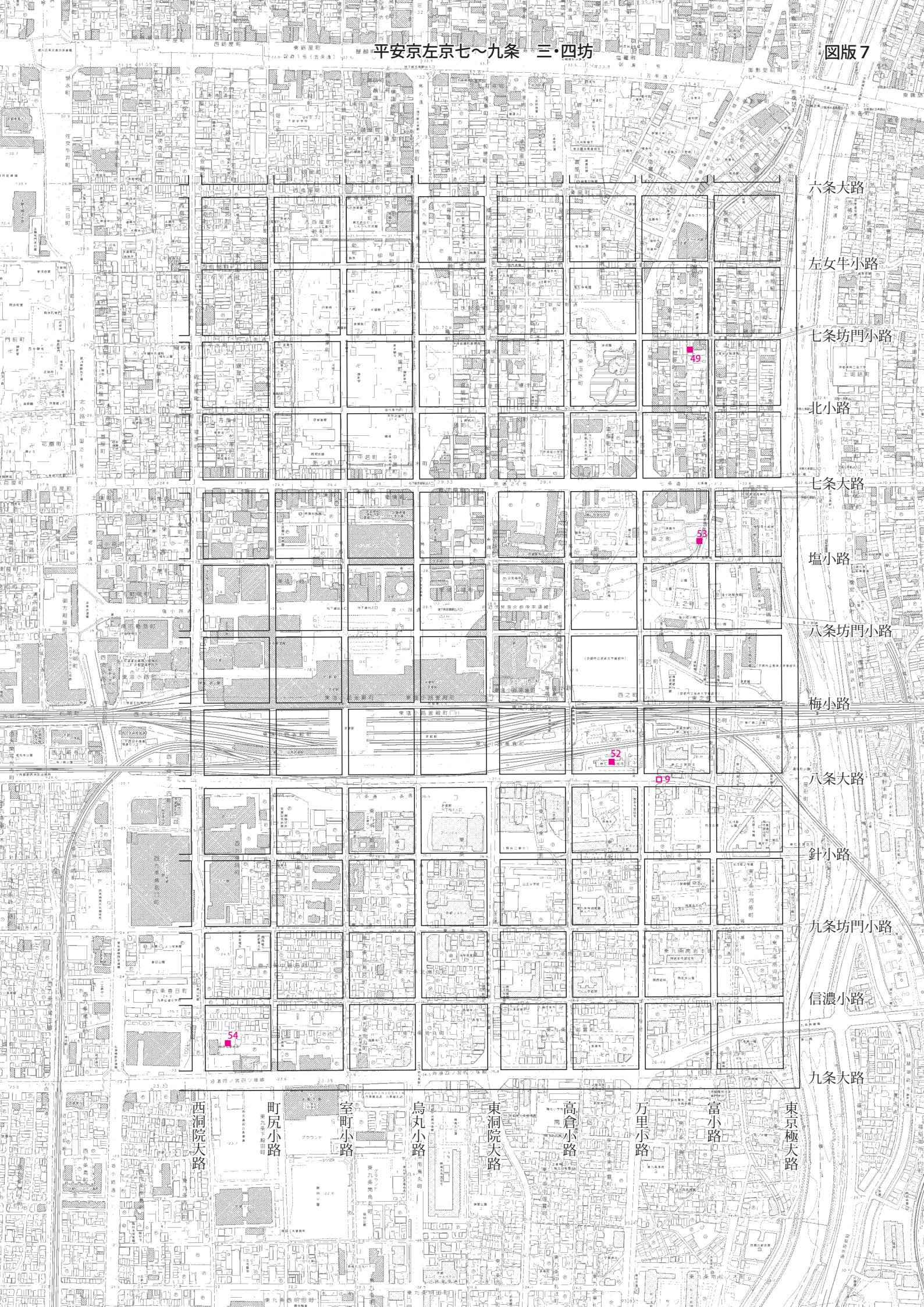


図版 6

平安京左京七~九条

一・二坊





六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西洞院大路

町尻小路  
東九条下町

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

万里小路

富小路

東京極大路



一条大路

正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

押小路

三条坊門小路

姉小路

三条大路

55

56

57

58

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西朝負小路

西大宮大路

西櫛笥小路

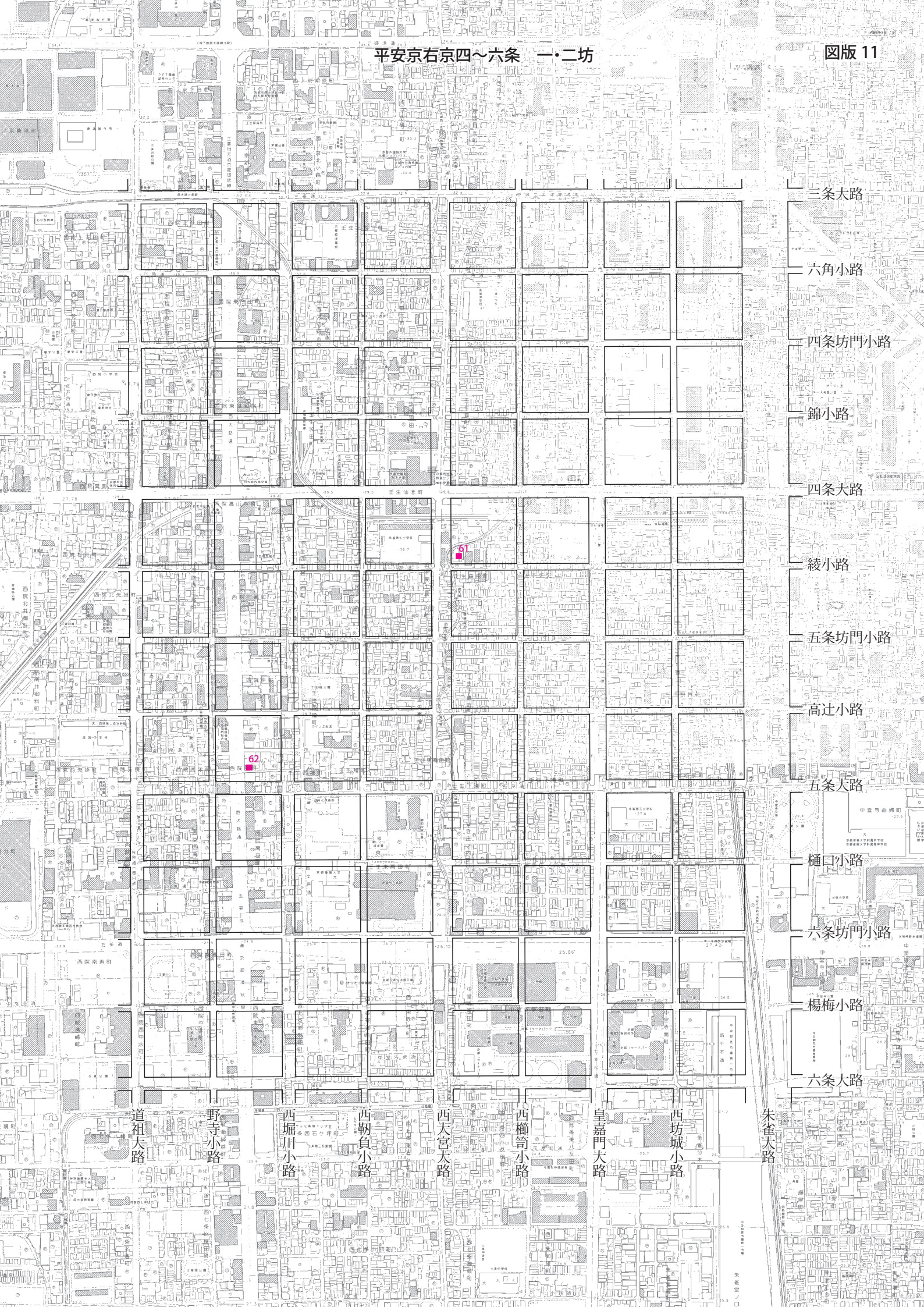
皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路



平安京右京四～六条 一・二坊



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

朱雀大路

西坊城小路

皇嘉門大路

西櫛筒小路

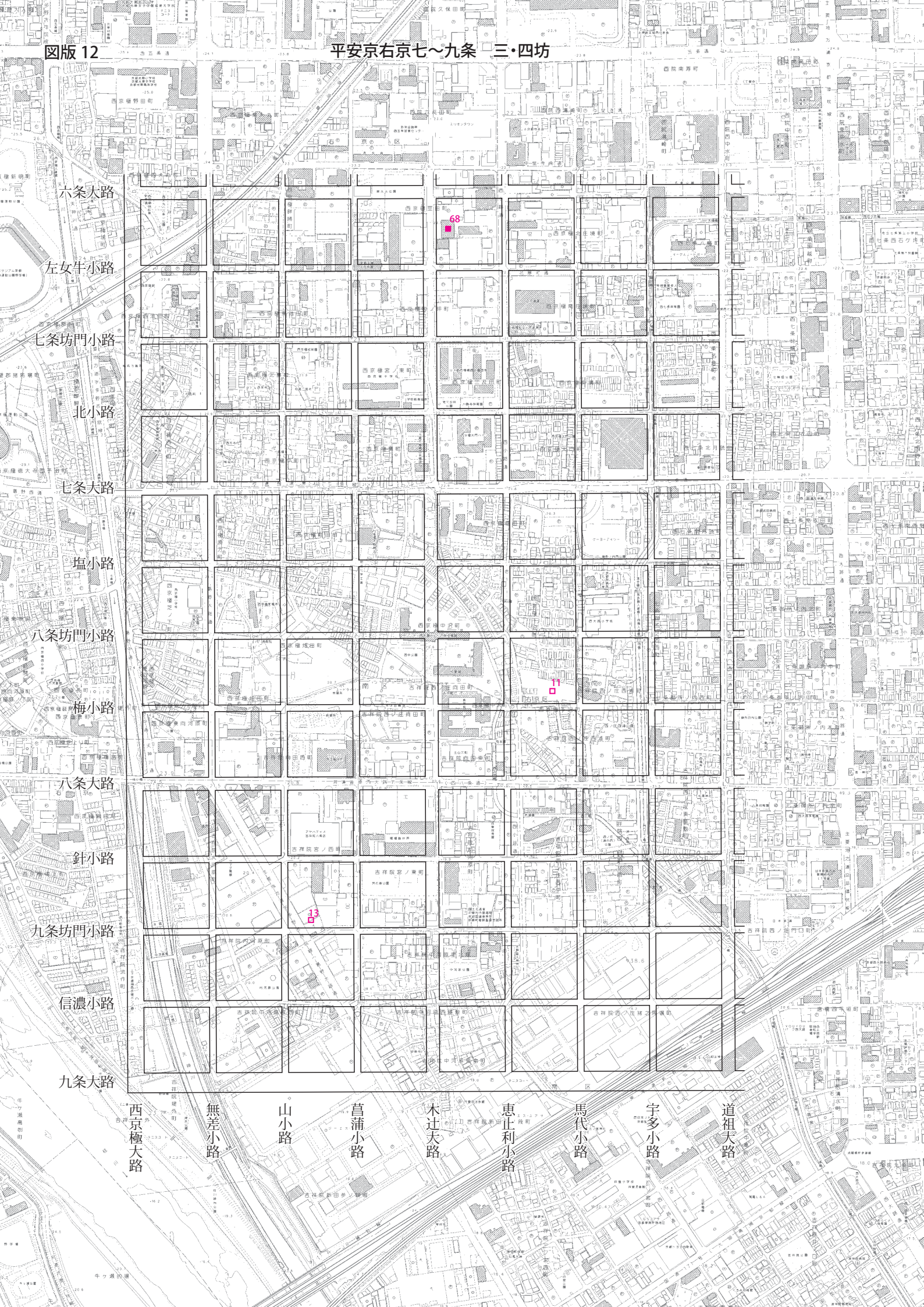
西大宮大路

西朝負小路

西堀川小路

野寺小路

道祖大路



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西京極大路

無差小路

山小路

菖蒲小路

木辻小路

惠止利小路

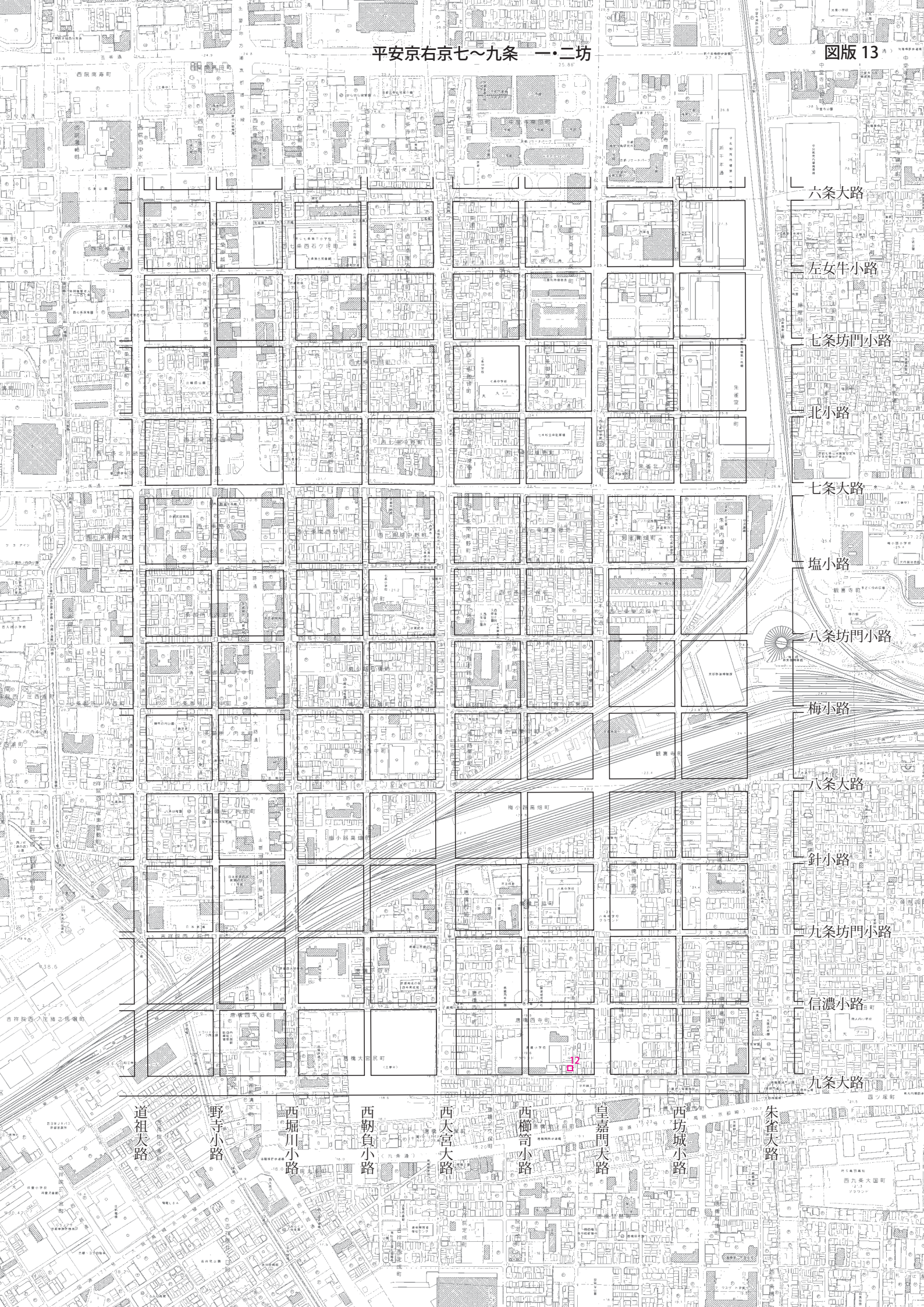
馬代小路

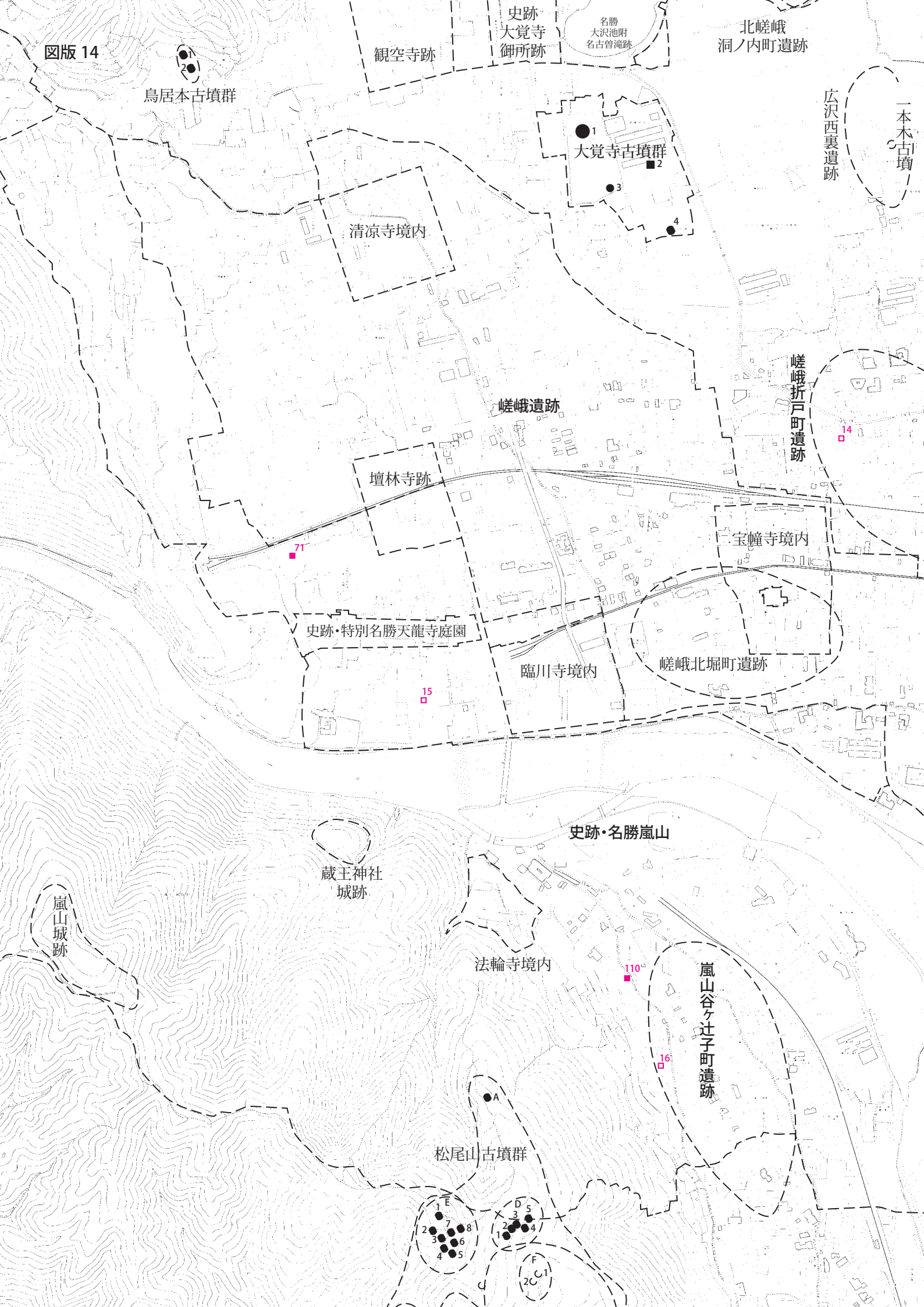
宇多小路

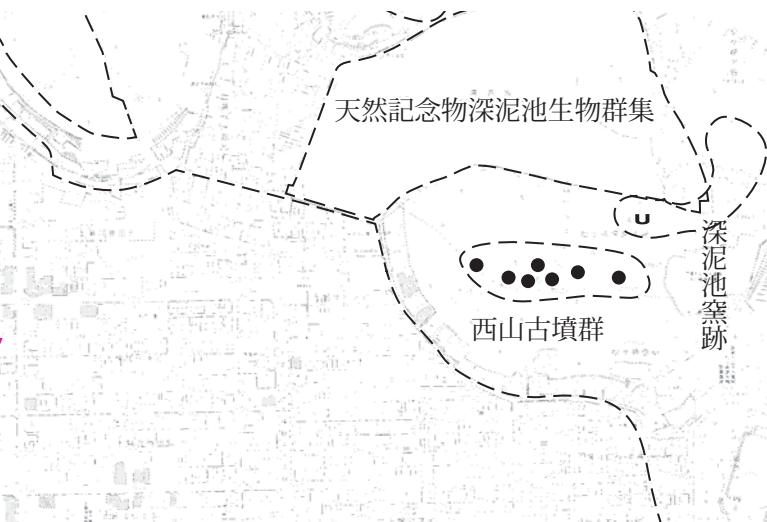
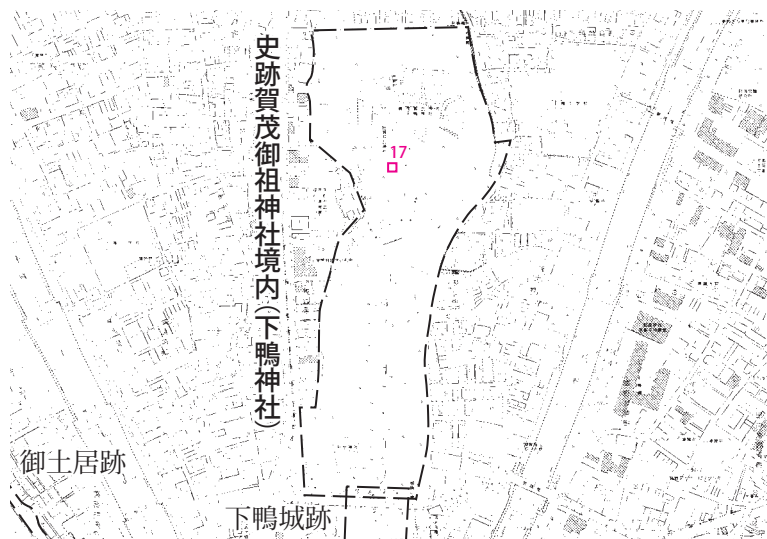
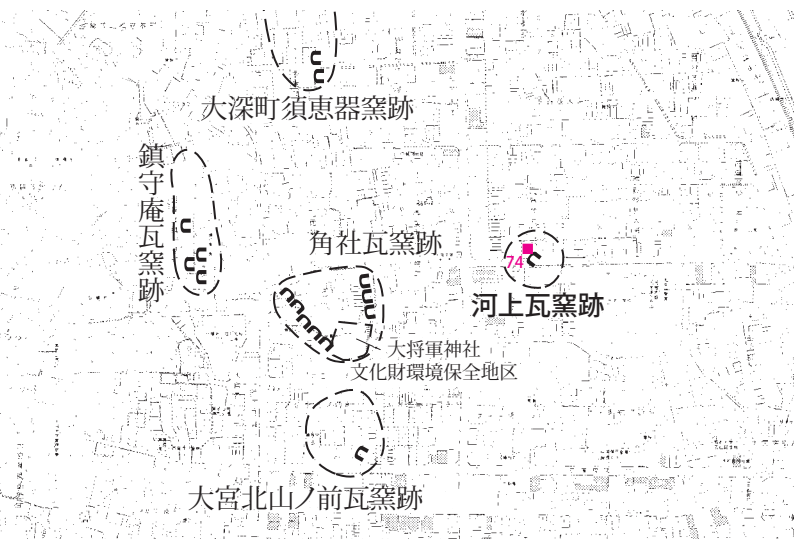
道祖大路

68

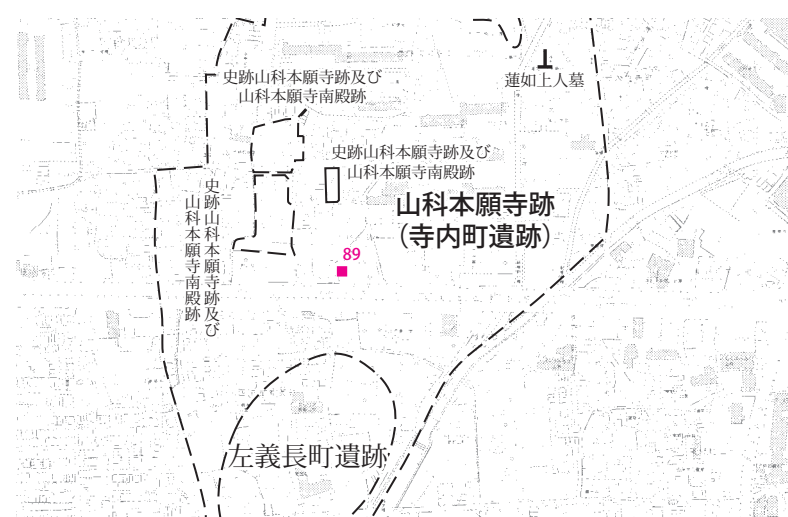
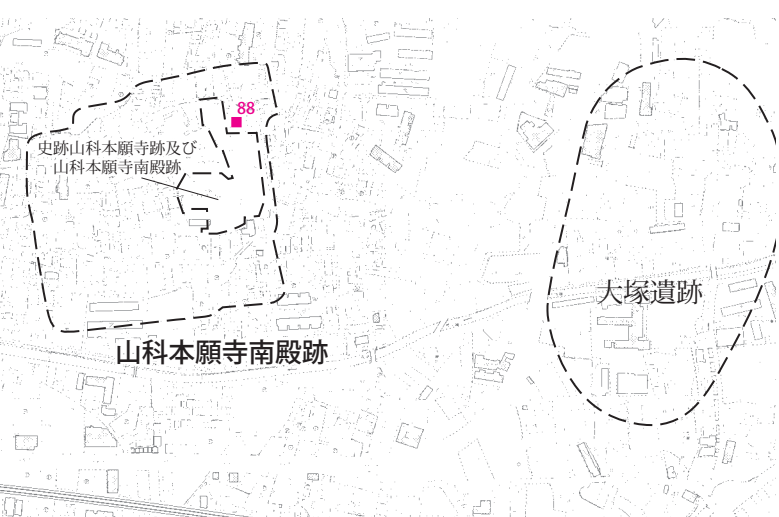
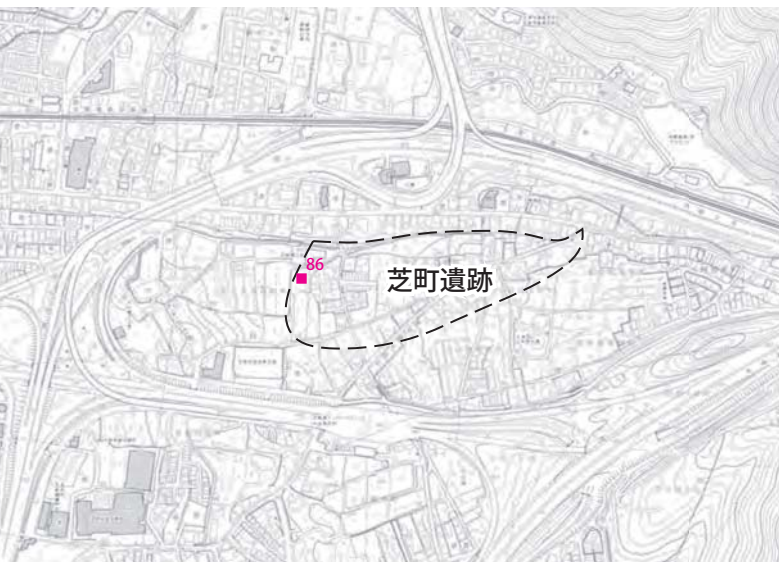
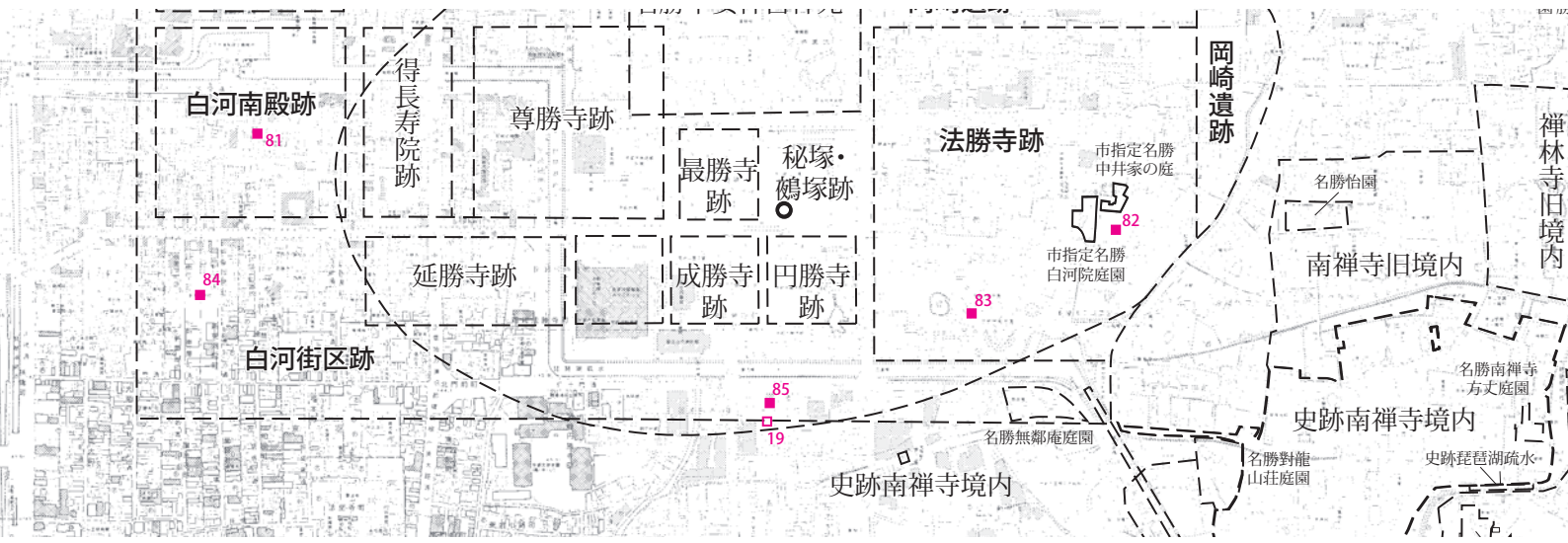
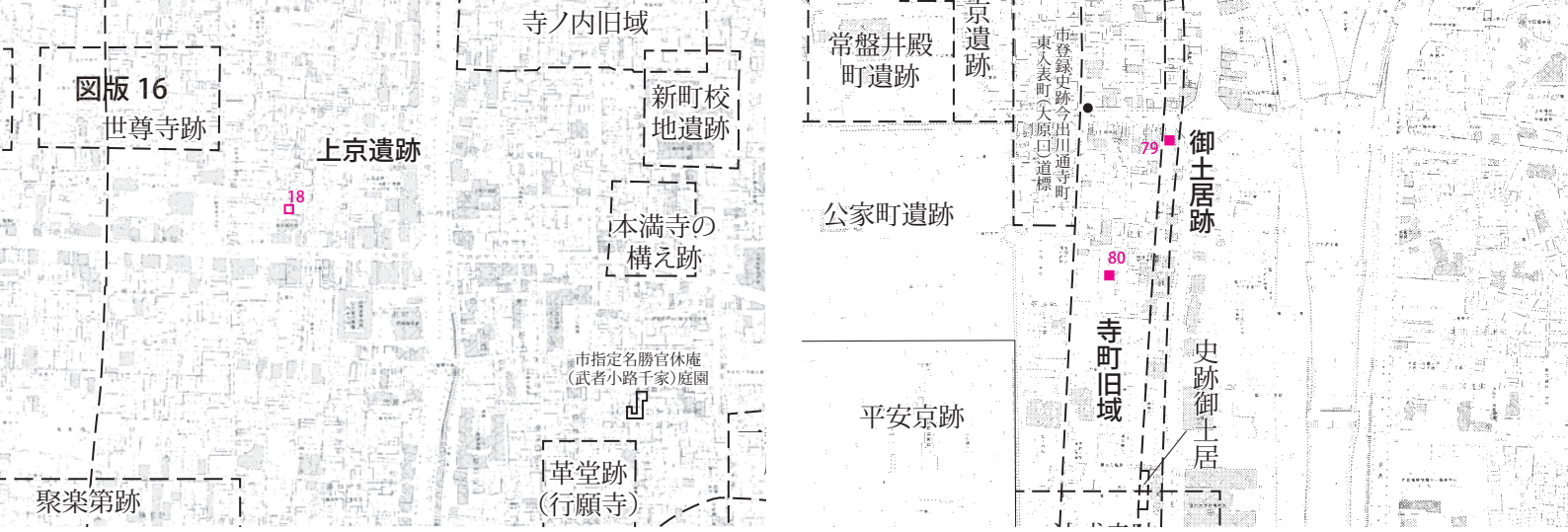
13





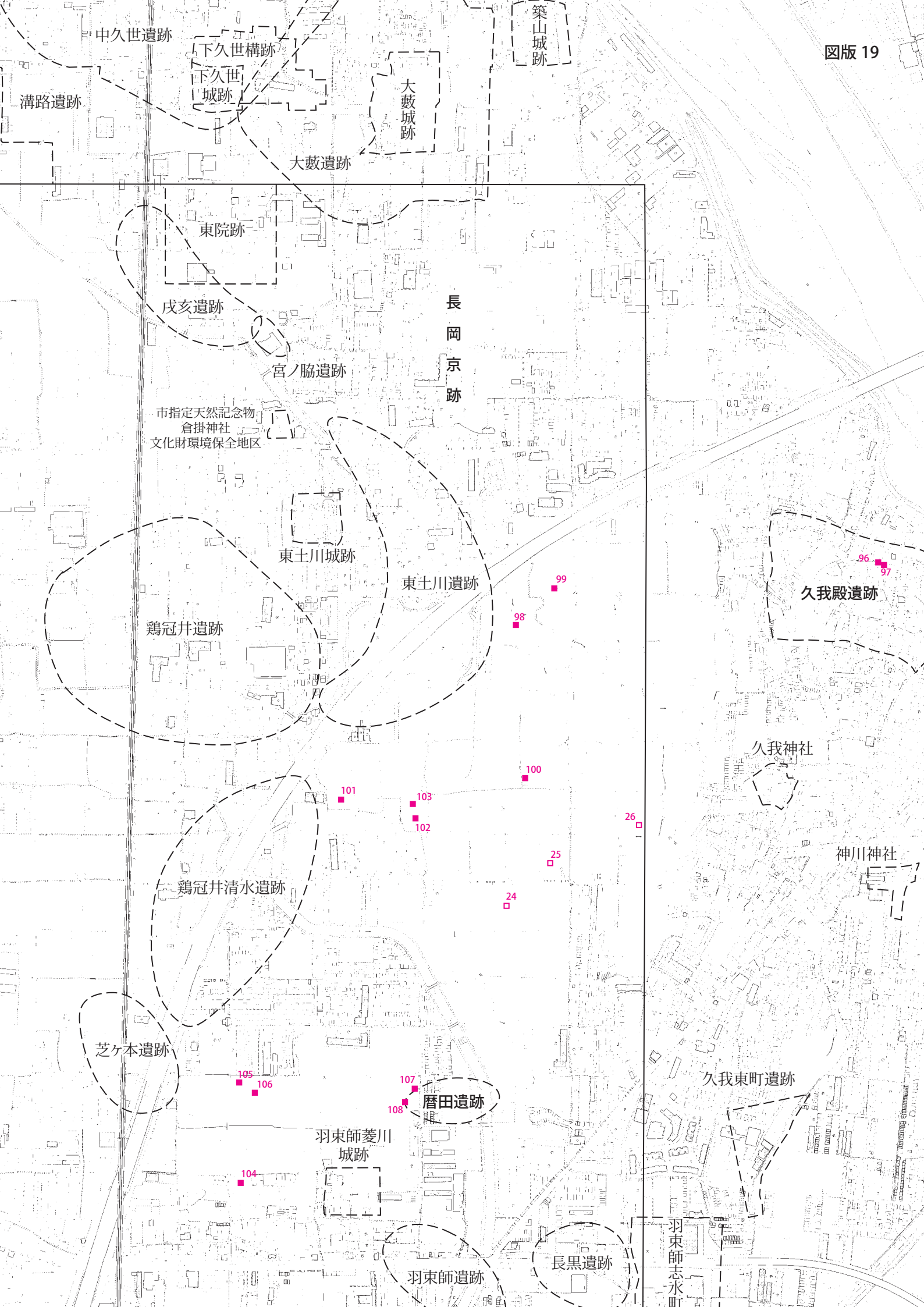


図版 16  
世尊寺跡









中久世遺跡

下久世構跡  
下久世城跡

築山城跡

溝路遺跡

大藪城跡

大藪遺跡

東院跡

長岡京跡

戊亥遺跡

宮ノ脇遺跡

市指定天然記念物  
倉掛神社  
文化財環境保全地区

東土川城跡

東土川遺跡

鶏冠井遺跡

久我殿遺跡

久我神社

神川神社

鶏冠井清水遺跡

久我東町遺跡

芝ヶ本遺跡

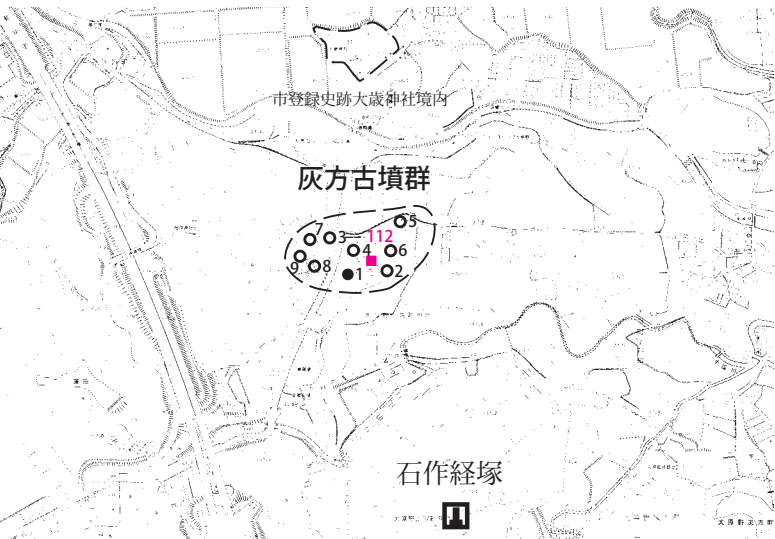
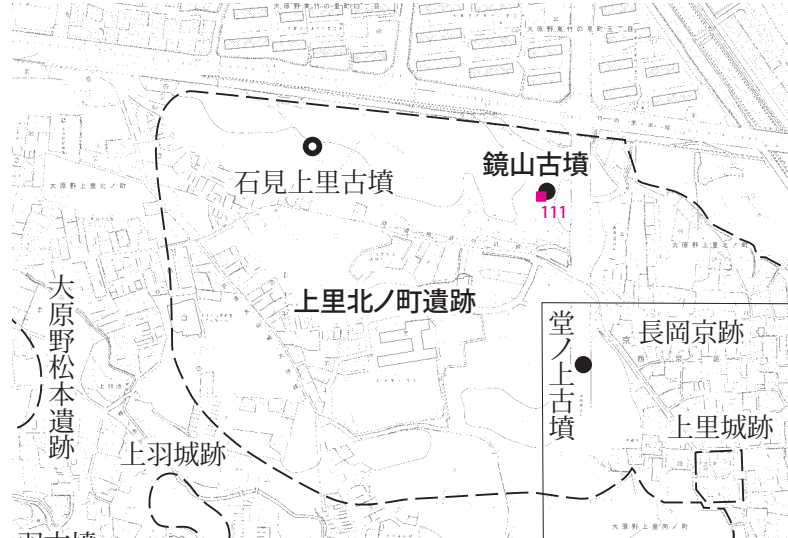
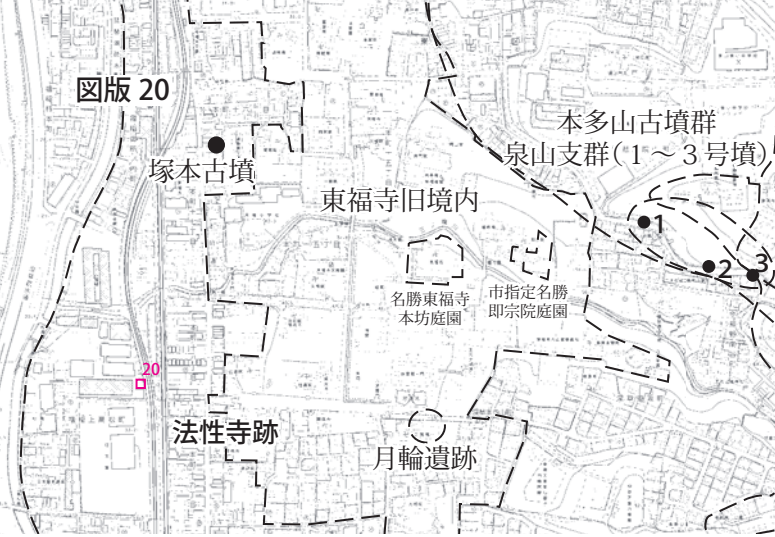
磨田遺跡

羽束師菱川城跡

長黒遺跡

羽束師遺跡

羽束師志永町



# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしくつちようさほうこく れいわななねんど							
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子 清水早織・八軒かほり・佐藤拓							
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地							
発行年月日	西暦2026年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょうほくへん 平安京左京北辺 さんぼうさんちようあと 三坊三町跡、 ないぜんちよういせき 内膳町遺跡	かみぎようくむらまちどおりなだち 上京区室町通中立 うりさがるはなたてちよう 売下る花立町502	26100	1 240	35度 01分 27秒	135度 45分 28秒	2025/9/24	37㎡	共同住宅
へいあんきょうさきょうろくじよう 平安京左京六条 にぼうごちよう・ななじようにぼう 二坊五町・七条二坊 はっちようあと、ほんこくじじようあと 八町跡、本國寺城跡	しもぎようくいのくまどおごじよう 下京区猪熊通五条 さびかきもとちよう 下る柿本町600-1	26100	1 717	34度 59分 37秒	135度 45分 04秒	2025/1/27 ～ 2025/2/14	399㎡	土地活用 事業
へいあんきょうさきょうはちじよう 平安京左京八条 にぼういつちようあと、むがしいちあと 二坊一町跡、東市跡	しもぎようくおおみやびおきまつ 下京区大宮通木津 やばしあがなみのちよう 屋橋上る上之町 426-1	26100	1	34度 59分 17秒	135度 44分 57秒	2025/6/17	26㎡	簡易宿所
だいかくしてふんぐん 大覚寺古墳群	うきようくさかだいかくじ 右京区嵯峨大覚寺 もんぜんだり町40-3の 一部他	26100	849	35度 01分 35秒	135度 40分 47秒	2024/11/13 ～ 2024/11/14	76㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
へいあんきょうさきょうほくへん 平安京左京北辺 さんぼうさんちようあと 三坊三町跡、 ないぜんちよういせき 内膳町遺跡	都城跡 散布地	平安時代 鎌倉時代 室町時代	溝・土坑	土師器	溝は室町小路の条坊側 溝もしくは内溝と考えら れる。			
へいあんきょうさきょうろくじよう 平安京左京六条 にぼうごちよう・ななじようにぼう 二坊五町・七条二坊 はっちようあと、ほんこくじじようあと 八町跡、本國寺城跡	都城跡 平城跡	平安時代 室町時代 江戸時代	猪隈小路東築地 六条大路側溝、濠等	土師器、瓦質土器 輸入陶磁器、瓦等	平安～江戸時代前期に かけての遺構面が良好 に残ることを確認。			
へいあんきょうさきょうはちじよう 平安京左京八条 にぼういつちようあと、むがしいちあと 二坊一町跡、東市跡	都城跡	平安時代 鎌倉時代	大宮大路の東側溝 および内溝	土師器等				
だいかくしてふんぐん 大覚寺古墳群	古墳	平安時代	溝	土師器皿				

# 報告書抄録

ふりがな	きょうとしなしいせきしくつちょうさほうこく れいわななねんど
書名	京都市内遺跡試掘調査報告 令和7年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・赤松佳奈・黒須亜希子 清水早織・八軒かほり・佐藤拓
編集機関	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行機関	京都市文化市民局
所在地	〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2026年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ときわひがしのちようこふんぐん 常盤東ノ町古墳群 むらのうちちよういせき 村ノ内町遺跡	うきよくとときわむらのうちちよう 右京区常盤村ノ内町 8-12	26100	874 907	35度 01分 12秒	135度 42分 31秒	2025/9/1 ～ 2025/9/3	204㎡	宅地造成
こうりゅうじきゅうけいだい 広隆寺旧境内 ときわなかのちよういせき 常盤仲之町遺跡	うきよくうずまさひがしほおかちよう 右京区太秦東蜂岡町 10	26100	908 911	35度 00分 56秒	135度 42分 29秒	2025/9/20 ～ 2025/9/25	155㎡	店舗
けんじんじきゅうけいだい 建仁寺旧境内	ひがしやまくやまとおおじどおり 東山区大和大路通 しじょうさがるよんちようめ 四条下る4丁目 こまつちよう 小松町584	26100	534	35度 00分 02秒	135度 26分 26秒	2024/5/21 ～ 2024/10/18	1㎡	保存修理 (建造物)
せりかわじようあと 芹川城跡	ふしみくしもとぼわたせちよう 伏見区下鳥羽渡瀬町 127・128	26100	1171	34度 56分 21秒	135度 44分 47秒	2025/1/9	15㎡	店舗

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ときわひがしのちようこふんぐん 常盤東ノ町古墳群 むらのうちちよういせき 村ノ内町遺跡	古墳 集落跡	平安時代	溝	なし	
こうりゅうじきゅうけいだい 広隆寺旧境内 ときわなかのちよういせき 常盤仲之町遺跡	寺院跡 墓 集落跡	飛鳥時代 ～ 室町時代	土坑・溝・落込み	土師器・須恵器・白磁など	飛鳥時代の土坑、平安時代～鎌倉時代の区画溝を確認。
けんじんじきゅうけいだい 建仁寺旧境内	寺院跡	江戸時代前期	基壇(小鐘楼)	なし	小鐘楼は京都府指定有形文化財(建造物)。
せりかわじようあと 芹川城跡	平城跡	古墳時代後期	竪穴建物	土師器・須恵器など	

# 京都市内遺跡試掘調査報告

令和7年度

発行日 2026年3月31日  
発行 京都市文化市民局  
編集 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課  
住所 〒604-8571  
京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地  
TEL. (075) 222-3130  
印刷 株式会社 昭英社  
京都市下京区五条通河原町西入本塩竈町558  
TEL. (075) 351-1181